

令和8年度
調布市防災教育の日
実施結果報告書



調布市教育委員会

災害に強いまちを目指して

次代を担う子どもたちを中心に、地域・家庭と一体となった防災教育を推進し、一人一人の防災意識の向上と行動様式の変容により、地域社会の防災力を高める。

目 次

第1章 令和8年度事業の概要

1-1 調布市防災教育の日とは.....	2
1-2 令和8年度事業の概要.....	4
1-3 防災教育の日の様子.....	9
1-4 令和8年度事業の総括.....	1 5

第2章 市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」

2-1 市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」の概要.....	1 7
2-2 訓練参加職員からの意見等について.....	2 0
2-3 保護者アンケート実施結果.....	5 6

第3章 「命」の授業、啓発講話(活動・体験)の記録

3-1～20 小学校.....	9 1
3-21～28 中学校.....	1 1 2

〔資料〕

令和8年度 各学校実施内容(1～3校時).....	1 2 1
---------------------------	-------

第1章

令和8年度事業の概要

ねらい 東日本大震災の教訓を忘れない

- ◎「命の尊さ」について学ぶ
- ◎「自らの命は自らが守る」という意識を高め、児童生徒自身が自助、共助のために必要な知識や行動様式を身に付ける
- ◎「地域と一体となった震災対応システム」を構築する



避難訓練の様子(柏野小学校)

1-1 調布市防災教育の日とは

平成23年3月11日に発生した東日本大震災がもたらした未曾有の被害に鑑み、調布市教育委員会においても、改めて自助意識の啓発や関係機関の連携を踏まえた全市的な対応の重要性を認識しました。

◆「調布市防災教育の日」の制定

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により多くの尊い生命が失われ、改めて「命の尊さ」について学ぶことや「自らの命は自らが守る」意識を高めて児童生徒自身がそのための行動様式を身に付けていくことの重要性を認識しました。

このことから、調布市教育委員会では、平成24年2月に、調布市内のすべての児童生徒が自助・共助の力を身につけるため、次の2点を目的に、毎年4月の第4土曜日を、「調布市防災教育の日」として決めました。

- ① 震災時の対応を学校の教育課程に明確に位置付け、防災教育を充実させていく
- ② 震災時対応シミュレーション(下記参照)の検証を行う

◆「調布市防災教育の日」の取組方針

調布市防災教育の日においては、児童生徒に対する「命」の教育のほか、震災発生直後から学校関係者が行う初動対応や、地域の協力を得た避難所の開設と運営の訓練などを、学校と保護者・地域が一体となって、市立小・中学校全校で一斉に実施することとしました。

各校においては、次の3点を共通して取り組みます。

- ① 「命」の授業の実施
- ② 防災に関する啓発講話などの実施
- ③ 「震災時対応シミュレーション」の検証

◆震災時対応シミュレーションとは

震災時対応シミュレーションは、調布市立小・中学校28校において、学校の各施設や教職員の状況に応じ、発生後72時間(3日間)の対応事項を学校別に想定し、まとめたものです。

●発災想定

震災時対応シミュレーションでは、調布市において最も深刻な「多摩直下型の震度6強の地震」の発生を想定し、発災想定時刻は、各学校の4校時授業中の「午前11時」としています。市内では倒壊家屋が多数発生し、京王線は運転を見合わせ、市内全域で電気・ガス・上下水道といったライフラインは全てダメージを受けて供給が停止、道路は損傷や渋滞で使用困難な状態です。

●震災時対応シミュレーションの構成

各校の震災時対応シミュレーションは、「学校現況等」(学校の周辺の施設や地理的特徴、学級数や児童生徒数などの学校概要、教職員のBCP(事業継続計画)想定状況、学区内の昼間・夜間人口数、避難所としての一時・長期収容可能人数、中学校においては生徒の奉仕活動の割当人数及び取組)、教職員の対応時に想定される「係分け」、1～3日目までの「対応シミュレーション」の3部で構成されています。

●想定される係(例)

全体責任者を校長とし、教職員は各係に分かれて対応します。シミュレーションでは、各係の担当教職員名を明記します。

▼係の例

①児童生徒対応班	情報連絡係、避難誘導係、消火・巡視係、救護係、搬出係
②避難所支援班	総務・情報係、避難所係、物資係、救護・衛生係

▼震災時対応シミュレーションの例

市立第一小学校のシミュレーション	
1 学校現況等	周辺環境： 調布駅近接。大型商業施設近接。甲州街道に隣接し、特別支援学級あり児童が多い大規模校。市役所からは一番近い小学校。電気通信大学や北多摩病院が近くにある。 学校概要： 19クラス、児童655人、特別支援学級固定学級3クラス19人、通級(きこえとことば)3クラス、都職員(教員・事務)38人、市職員(栄養士・給食調理員・業務員)5人。 教職員対応： 教職員自身の子どもの引き取り、家族救護等でやむを得ず1日目の終業時間後に帰宅することを想定する(40%減、38人→23人)なお、帰宅した職員については、各職場で事前に状況を把握し、交代で出勤する体制を組む。 学区人口： 昼間人口約36,000人、夜間人口約20,000人 収容可能人数： 一時収容 966人、長期滞在 483人(地域防災計画による)

2 想定される係（全体責任者：学校長 _____）			
児童対応班（責任者：生活指導主幹 _____）		◎は係の責任者	
担 当	業 務 内 容	担当者	
情報連絡係	人的・物的被害その他の異常事態を各係から報告を受け、学校長及び災害対策教育部へ連絡する。その他、災害に係る情報を収集し、関係者に連絡する。	—	
避難誘導係	校庭（体育館）に避難誘導に当たる。広域避難所までの避難経路の確認を行う。児童の引渡しを行う。行方不明の児童の捜索を消火・巡視係に依頼する。	◎ _____	
消火・巡視係	校舎の被害の確認、行方不明の児童の捜索、初期消火、火元の遮断、出火防止対策、火災の警戒、ガス、水道等の元栓や理科薬品保管等の点検を行い、点検結果等を情報連絡係に連絡する。	◎ _____	
救護係	養護教諭を中心とする。救急薬品の確保、軽傷者への救急措置に当たる。重傷者については、応急手当を行い、災害対策本部、医療機関、医療救護所又は仮救護所に速やかに連絡をとるよう情報連絡係に指示する。心のケアへの対応をする。	◎ _____	
搬出係	重要文書の搬出。校舎内での火災や校舎への延焼のおそれがある場合は、非常持ち出し品を搬出し、管理する。なお、非常持ち出し品を搬出する事態が生じない場合は、他の係への応援要員とする。	◎ _____	
避難所支援班（責任者：副校長 _____）			
担当	業 務 内 容	担当者	
総務・情報係	・避難所運営本部設置場所の決定 ・情報収集、整理、確認及び伝達 ・避難者名簿の作成、整理、管理	・避難所運営連絡会の設定 ・避難所内の情報提供場所の設置 ・市災害対策本部との連絡調整	
		—	

避難所係	・避難所に使用するスペース ・避難者の誘導 ・ボランティアの組織化	・立ち入り禁止区域の指定 ・避難所生活のルール策定	◎
物資係	・防災備蓄用品の管理、配給 ・飲料水、生活用水の確保、配給	・救援物資の受入れ、整理、管理、 ・炊き出し	◎
救護・衛生係	・医療救護所設置場所の事前確認 ・医療救護所への協力(設置されない又は設置されるまで応急手当の実施) ・仮設トイレの確保・設置 ・トイレ、ごみ集積場の清掃	・トイレ用水の確保 ・衛生管理 ・PTSDへの対応	◎

1日目

時間	状況	調布市の対応	児童への対応	避難所対応
11:24	多摩直下型震災7の地震発生。倒壊家屋多数。京王線運転見合わせ。市内全域で電気・ガス・上下水道供給停止。道路は通行不能又は渋滞	市民に対し、防災行政無線で、地震の情報、火元の確認を周知する(総合防災安全圏)	①児童に防災頭巾を被らせ机の下へ避難など安全確保(1次避難) ②消火・巡視係 ③給食調理員は、給食室の火気の安全を確認し所定の役割担当に従事	避難所運営 →震災初期段階では、教職員が中心的な役割を担う(地域防災計画・学校防災マニュアル) ※学校長を学校災害本部長とし、生活指導主任・学級担任26人で保護者の引き取りまで児童対応。避難所開設・運営は副校長ほか11人と市職員5人で従事 避難誘導係 ①伊東・高野教諭は体育館の安全確認。その後、一旦体育館に避難(2次避難) (救護係) ②廣渡教諭は児童の負傷状況の状況確認、応急救置 役割分担の確認 →学校は、児童の安全確保体制、避難所開設体制がとれるよう役割分担しておく 学校と地域 →避難所運営は、避難者と地域の協力を得て実施。 備蓄品と備の確認 →日頃から教職員全員が備蓄品と備蓄庫(校庭南側・体育倉庫)の備の所在を把握しておく

1-2 令和8年度事業の概要

令和8年度の調布市防災教育の日は、令和8年4月25日土曜日に実施しました。事業開始から15年目、14回目（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による学校臨時休業のため、中止）となっていることから、本事業への理解が学校関係者、保護者、地域住民等へ広がっています。

令和8年度は、本年が東日本大震災から15年の節目であることを踏まえ、あらためて大震災の教訓の風化防止、備えに対する意識の向上につなげるため、関係機関との連携強化、体験活動の充実、避難所体験の対象学年の拡大などに取り組みました。

◆令和8年度事業における事業概要

1 実施日・場所

令和8年4月25日（土）

市立全小・中学校28校、大町スポーツ施設（市統一テーマ訓練のみ）

2 事業概要等

（1）事業概要

時間	（1）学校教育活動（小学校例）	（2）市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」
8:45	1校時 防災啓発講話 （保護者・地域へ公開）	
9:15		
9:30		
9:45	2校時 「命」の授業 （保護者・地域へ公開）	9:45 市職員・地域の方集合 ・一日の流れの確認
10:30		避難所開設訓練 ・避難スペース設置、避難所受付準備 ・避難所体験の準備 等
10:45	3校時 安全指導	避難所体験 ・避難所受付、備蓄品、避難スペースなどの確認・体験
11:00	11:00 発災 避難訓練・引取訓練 ・校庭への避難 ・講評（校長・副校長）	
11:20	下校 避難所体験	
		意見交換（訓練振り返り、課題抽出等） 片付け・終了報告
13:15		訓練終了

(2) 学校教育活動

ア「命」の授業・防災啓発講話

児童生徒に命の尊さを学び、「自らの命は自らが守る」意識を高める「命」の授業を、保護者・地域の方などに、公開して実施しました。また、調布消防署・調布警察署の職員による参加・体験型授業や一部の学校では、講師を招聘し防災啓発講話等を実施しました。

イ 避難訓練・引取訓練

全学年一斉に避難訓練を実施し、校庭への避難後、校長・副校長から避難訓練の講評がありました。また、各学校から保護者宛に「すぐーる(調布市学校安全・安心情報配信システム)」を用いて引渡し時刻等を周知のうえ、保護者による引取訓練を実施し、多くの保護者の方に御参加いただきました。

(3) 市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」※詳細は、第2章市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」に記載

訓練テーマを「避難所開設訓練」と題し、避難所開設時に各学校避難所に参集する市職員及び地区協議会*等の地域の方(自治会・地域学校協働本部*のコーディネーター・調布市防災市民組織*含む。)との協働により、避難所開設時の課題を踏まえた訓練を行いました。令和8年度は、「避難所体験」の対象者を小学校全児童・中学校全生徒及びその保護者に拡充し体育館で実施(参加者数3845人(児童生徒2090人、保護者1586人、その他169人))しました。

***地区協議会**：地区協議会は、小学校の学区をエリアとして、地域で活動する自治会や学校関連団体などにより構成されたネットワーク組織で、令和8年8月現在、市内全20の小学区中、19の小学区に設立されている。防災については、特に全地区共通の課題として捉えられており、避難所運営マニュアルの策定や、調布市防災教育の日における協力など、積極的な取組がなされている。

***地域学校協働本部**：学校支援活動をはじめとして、幅広い地域住民等の参画を得ながら、「学校を核とした地域づくり」を目指すための仕組み。調布市では、令和3年4月に全小・中学校で「地域学校協働本部」を設置し、今まで以上に学校と地域人材が組織的に結びつき、学校教育に参加できるよう体制を整備した。

***調布市防災市民組織**：自治会やマンション管理組合等の下部組織として、災害時の被害防止・軽減に係る活動と防災意識の啓発活動を行い、自助・共助の取組を推進していただく団体。「自分たちのまちは自分たちで守る」を基本理念として、市内各地域において活躍されている。

***避難所利用計画図**：避難者の避難場所や動線を示したもの。地域の方々との意見交換等を踏まえ、改善を進めている。

3 連携・協働の取組について

(1) 調布消防署との連携

調布消防署には、初年度の平成24年度から地域・保護者への啓発講話の講師等を依頼しています。輪番校として定める5校(滝坂小学校、深大寺小学校、上ノ原小学校、石原小学校、第四中学校)において、署員並びにSVR防災体験車*、まちかど防災訓練車、起震車等の派遣による参加・体験型の授業を実施しました。

また、小学生(低学年、中学年、高学年)と中学生向けに作成いただいた地震をテーマとした防災啓発講話(録画)を、実施希望校(12校)において視聴しました。

(2) 調布警察署との連携

調布警察署には、平成26年度から、防災講話の講師等を依頼しています。

輪番校として定める1校(富士見台小学校)において、署員の派遣による防災啓発講話を実施しました。

(3) 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所との連携

小学生(低学年、中学年、高学年)と中学生向けに作成していただいた水害をテーマとした防災啓発講話(録画)を、実施希望校(11校)において視聴しました。

(4) 東京水道株式会社との連携【新規】

東京水道株式会社の御協力のもと、国領小学校の第4学年、第六中学校の第3学年を対象に災害時の断水中に給水車などから飲料水を安全に運搬・保管するための折りたたみ可能な専用の給水袋の組立体験や応急給水体験を実施しました。

(5) 鹿島建設株式会社 技術研究所との連携

調布スマートシティ協議会の会員団体である鹿島建設株式会社技術研究所の御協力のもと、多摩川小学校の第5学年を対象に、調布市の地形的特徴を分析した「多摩川の特徴」、「水害のリスク」についての講義や水害に関するクイズを実施しました。

(6) 地域との協働(市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」の実施)

地区協議会等の地域の方(令和4年度から地域学校協働本部のコーディネーター及び防災市民組織の方も参加)と市職員が協働で訓練を実施しました。当日は、市立小・中学校全校及び大町スポーツ施設を会場として、体育館での避難所体験等を実施しました。

(7) NPO法人調布心身障害児・者親の会との協働

NPO法人調布心身障害児・者親の会の方々に、第三中学校の避難所開設訓練に参加していただきました。

(8) 一般財団法人調布市市民サービス公社との協働

災害時協定を締結している一般財団法人調布市市民サービス公社の職員に市職員(福祉健康部)が実施する福祉避難所開設訓練に参加していただきました。

なお、福祉避難所開設訓練は、5か所の地域福祉センター(西部、染地、菊野台、富士見、下石原)にて実施しました。

(9) 市内都立・私立学校との連携

市内都立・私立学校の7校に、防災教育の日と連携した取組として避難訓練等を実施していただきました。

なお、市内都立・私立学校における取組は、防災教育の日と同日の4月の第4土曜日に限らず、周辺の日程で実施していただきました。

▼訓練等の概要(人)

実施校	訓練の概要	参加者数
東京都立調布北高等学校	ホームルーム時の地震発生を想定した避難訓練を実施。全校生徒・教職員が、防災頭巾を着用し、校内で定められた避難経路を確認しながら、避難時の基本行動である「お・か・し」(押さない・かけない・しゃべらない)を守って、グラウンドへ避難。加えて、1学年は防災訓練として、初期消火訓練、応急救護訓練、防災講話をローテーションで実施(5月20日実施)。	699
東京都立調布南高等学校	生徒及び教職員を対象に火災避難訓練を実施(4月22日実施)。	750
東京都立神代高等学校	【全日制】地震を想定したシェイクアウト訓練を実施(7月11日実施)。 【定時制】生徒及び教職員を対象に、地震を想定した避難訓練を実施(5月1日実施)。	全日制 947 定時制 52
明治大学付属明治高等学校・明治中学校	生徒及び教職員を対象に、震度6の地震が発生した後、化学実験室からの出火を想定した避難訓練を実施(4月28日実施)。	1,431
晃華学園中学校高等学校	地震を想定した避難訓練(引取訓練)と講話を実施(6月11日実施)。	900
桐朋女子中学校・高等学校	中学校1年生～高等学校3年生及び教職員を対象に、大地震による、火災発生を想定した避難訓練を実施(6月10日実施)。	1,000
ドルトン東京学園中等部・高等部	中等部高等部を対象に、地震防災訓練を実施(6月8日実施)。	609
計		6,388

(10) 市長部局各部との連携 ※詳細は、第2章市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」に記載

市職員(初動要員、避難所担当職員、学校避難所対応職員、避難所担当管理職員)が、各小・中学校及び大町スポーツ施設において市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」を実施しました。また、令和8年度新規採用の職員等は、市統一テーマ訓練後に、消防大学校において調布市消防団の地域防災に関する訓練に参加しました。

(11) 社会教育施設における取組(東部公民館)

釜石市の実家が津波被害にあった教育委員会職員の岩館聖恵氏を講師として、第八中学校にて、「津波にあった家族と故郷「釜石市」～東日本大震災を振り返って～」をテーマに防災啓発講話を実施しました。防災啓発講話実施後、「調布八中作文展」(令和8年5月9日(土)～5月30日(土))として東部公民館内で、防災啓発講話で使用した資料や生徒が書いた感想文などを展示し、多くの市民の方に御覧いただきました。

(12) その他

児童生徒への防災教育の一環として、市立小学校5校(第三小、滝坂小、深大寺小、多摩川小、飛田給小)で、災害時を想定し、日頃、食べる機会がないアルファ化米を食体験(喫食)しました。

◆参加者数の推移

▼平成24年度(実施初年度)及び平成30～令和8年度の参加者数推移(人)

参加者区分	H24	H30	R 元	R3	R4	R5	R6	R7	R8
学校(教職員※ ¹ 、児童生徒※ ²)	14,853	15,921	15,947	16,685	16,967	17,097	17,216	17,168	17,308
保護者	10,223	13,616	13,836			12,002	12,779	13,316	13,097
地域	1,728	957	660		289	319	386	383	330
市職員(避難所担当職員※ ³ ・初動要員・学校避難所対応職員等)	90	311	313	490	510	510	478	481	359
消防※ ⁴ ・警察職員※ ⁵		128	114	43	45	31	46	50	53
合計	26,894	30,933	30,870	17,218	17,811	29,959	30,905	31,398	31,147
前年度比増減		+237	▲63	▲13,652	+593	+12,148	+946	+493	▲251

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止

※1 各年度実施日当日の在籍教職員数

※2 各年度5月1日現在の在籍児童生徒数

※3 本部要員を含む。

なお、R8から避難所配置職員数は、新入職員及び当初課税業務による市民税課の市都民税担当職員は含まない。

※4 消防団員を含む。

※5 警視庁職員を含む。

なお、上表に、調布市内の東京都立高等学校及び私立学校の参加者数は含まない。

***SVR防災体験車**：VR映像等で、地震や火事などの災害を一度に4人が疑似体験することができる車両です。SVRのSは、short、smart、stylishの頭文字の3つのSの意味を含んでいます。

1-3 防災教育の日の様子

学校教育活動

命の授業・防災啓発講話



▲非常食(アルファ化米)の喫食(飛田給小)



▲B-VR「ビーバー」(東京消防庁作成)を活用した授業(北ノ台小)



▲釜石市の実家が津波被害にあった教育委員会職員の防災講話(第八中)



▲防災講話(第六中)

避難訓練・引取訓練



▲避難訓練 机の下へ避難(飛田給小)



▲避難訓練 校庭に避難(柏野小)



▲引取訓練(第七中)



▲引取訓練(飛田給小)

避難所開設訓練



▲ターボリン設置（第三中）



▲避難所体験設営準備（第四中）



▲防災備蓄倉庫の確認（第三中）



▲避難所体験の様子（飛田給小）

連携・協働の取組

調布消防署との連携



▲S V R 防災体験車体験（深大寺小）



▲消火器体験（深大寺小）



▲まちかど防災訓練車体験（上ノ原小）



▲起震車体験（滝坂小）

調布警察署との連携



▲防災啓発講話（富士見台小）



▲防災啓発講話（富士見台小）

東京水道株式会社との連携



▲応急給水体験（第六中）



▲応急給水体験（第六中）

鹿島設株式会社 技術研究所との連携



▲授業の様子（多摩川小）

地域との協働



▲顔合わせ、打合せ（緑ヶ丘小）



▲地区協議会の紹介（飛田給小）



▲備蓄倉庫からの備蓄品の搬出（第四中）

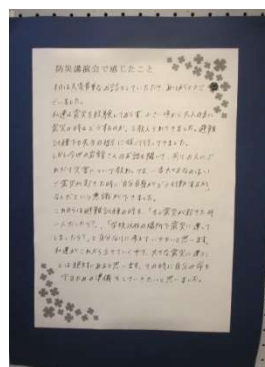


▲テント設営（布田小）

社会教育施設による取組（東部公民館）



▲第八中作文展



▲生徒作文



▲第八中での防災啓発講話



▲岩手県釜石市の紹介

市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」

避難所運営本部(教育総務課)



▲防災行政無線（第五中）



▲物資輸送訓練（小島町防災倉庫）

開錠・施錠方法の確認（校門・校舎・体育館）



▲校門開錠方法確認（緑ヶ丘小）



▲図上訓練（八雲台小）

避難所体験



▲受付・二次元コード（第一小）



▲アクションカード（上ノ原小）



▲マンホールトイレ（調和小）



▲備蓄品機材（第三中）



▲備蓄品（飛田給小）



▲授乳用テント（第二小）



▲1.8m×1.8m[※]ルシート（第二小）



▲避難所体験（八雲台小）

市内都立・私立学校との連携（各校での訓練の様子）



▲ 都立調布北高等学校



▲ 都立調布南高等学校



▲ 都立神代高等学校（全日制）



▲ 都立神代高等学校（定時制）



▲ ドルトン東京学園中部・高等部



▲ 明治大学付属明治高等学校・明治中学校



▲ 桐朋女子中学校・高等学校

1-4 令和8年度事業の総括

より実効的な防災・減災の取組へ

東日本大震災の発生から15年が経過しましたが、この間も地震や豪雨、台風などの自然災害が日本列島を襲い、令和元年台風19号では、調布市でも多くの家屋が浸水し、市制施行後初めて避難勧告を発令して多くの方が避難所に避難されました。

地形の特性上、日本のどの地域においても地震や豪雨、台風などの自然災害が発生する可能性があることから、災害の教訓から自らが自らの命を守ることを学び、備蓄を行い、家族と避難方法や集合場所を確認するなど、災害に対して備えることが重要です。

そこで、避難することになった場合に備え、避難所となる学校等において、普段から教職員、市職員、関係機関や地域の方々との連携を図り、訓練を積み重ねておく必要があります。

「調布市防災教育の日」は、令和8年度で14回目の実施となりました（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による学校の臨時休業のため中止）。令和8年度は、東日本大震災の発生から15年目の節目であることを踏まえ、あらためて大震災の教訓の風化防止、備えに対する意識の向上につなげるため、関係機関との連携強化、体験活動の充実、避難所体験の対象学年の拡大などに取り組みました。

学校教育活動においては、保護者・地域の方などを対象に授業を公開し、体験活動に関する授業内容を増やした「命」の授業、防災啓発講話、避難訓練を実施しました。また、市職員と地区協議会等の地域の方との協働による訓練では、市統一テーマを「避難所開設訓練」とし、市立全小・中学校28校及び大町スポーツ施設で実施し、避難所体験では、小学校全児童・中学校全生徒及びその保護者に対象者を拡充し、実施しました。

首都直下地震や記録的豪雨などによる大規模な災害時には、一定期間、電気・ガス・上下水道などのライフラインや物流が途絶える可能性があり、相当な混乱が予想されます。その状況下では、市職員だけでなく、その場にいる全員が当事者として協力し、互いに支え合うことが重要となります。

そのため、予測不能な大災害への備えは喫緊の課題となっており、平常時から、災害時の状況を想定した訓練を実施し、市民、学校、関係機関が一堂に会してお互いの顔や課題を確認し合うという点において、調布市防災教育の日は一定の成果を重ねてきました。

次年度以降も、引き続き、市・学校・地域・関係機関がそれぞれの役割を発揮し、災害時に適切な対応が行えるよう、連携・協働により、訓練の充実を図ってまいります。

第2章

市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」

ねらい 東日本大震災等の教訓を生かす

◎「不測の事態への備え」と「不断の備え」

◎避難所開設・運営訓練に関する対応能力の向上・意識啓発に向けた効果的な訓練の実施及び地域との協働、学校・関係機関との連携の強化



市統一テーマ訓練（避難所体験） 杉森小

※本章に掲載した職員からの意見等、保護者アンケートの自由回答については、原則として原文のまま掲載しています。ただし、編集の都合上、括弧書きで補足している場合や個人名等に関する記述を省略している場合があります。

2-1 市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」の概要

災害発生時には、調布市地域防災計画に基づき、市職員による災害への対応を行います。避難所担当職員や初動要員(下表「市職員の災害対応」)は、避難所となる学校に参集し、避難所の開設や運営などの対応を行います。また、令和2年4月から避難所となる学校に勤務している一部の市職員を学校避難所対応職員に指定し、避難所担当職員や初動要員とともに避難所の開設や運営などの対応を行います。

▼市職員の災害対応

対象職員	区分
避難所担当職員	市役所開庁時
初動要員	休日・夜間など市役所閉庁時
学校避難所対応職員	発災時

このため、調布市防災教育の日では、平成30年度から市統一テーマを定め、市立小・中学校全校(大町スポーツ施設を含む。)において、地区協議会等、地域の方と協働による訓練を実施しています。

下表「これまでの市統一テーマ訓練」のとおり、平成30年度及び令和元年度の2年間の市統一テーマは「避難所におけるトイレの確保・管理」と題し、各避難所で、災害時に使用するマンホールトイレ・組立トイレの設営訓練を行うとともに、避難所におけるトイレの課題を共有しました。また、令和3年度から令和5年度までは、市統一テーマを「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」と題し、訓練を実施しています。令和6年度からは、発災時における避難所の初期対応の習得を目的に、市統一テーマを「避難所開設訓練」と題し、訓練を実施しています。

▼これまでの市統一テーマ訓練

年度	市統一テーマ
平成30年度	避難所におけるトイレの確保・管理
令和元年度	避難所におけるトイレの確保・管理
令和2年度	新型コロナウイルス感染症の影響による学校臨時休業のため中止
令和3年度	感染症対策を踏まえた避難所開設訓練(市職員のみ)
令和4年度	感染症対策を踏まえた避難所開設訓練
令和5年度	感染症対策を踏まえた避難所開設訓練
令和6年度	避難所開設訓練
令和7年度	避難所開設訓練
令和8年度	避難所開設訓練

◆訓練の概要

昨年度に引き続き、令和8年度では、市統一テーマ訓練を「避難所開設訓練」と題し、発災時における避難所の「円滑な初期対応」を習得するための訓練を行いました。学校の授業公開に伴い、市統一テーマ訓練に参加いただく地域の方が学校の授業を御覧いただけるよう、訓練開始時間を1校時終了時刻以降に変更して実施しました。

▼目的、内容等

訓練の目的	避難所開設時における課題を踏まえた避難所開設訓練を実施することで、発災時に円滑・適切に避難所開設・運営が行えるようにする
訓練の内容	校門・校舎・体育館の開錠・施錠方法の確認、建物利用調査、図上訓練、防災備蓄倉庫確認、避難所体験(小学校全児童・中学校全生徒及びその保護者対象)、アクションカード*を活用した避難所開設、スマートフォン(二次元コード)を活用した受付等
参加人数	803人(市職員359人、教員114人、地域住民330人)

*アクションカード：誰が参集しても適切に避難所開設を行えるように、避難所開設の手順・内容等を簡潔に整理したカード

▼タイムスケジュール(例)

時刻	訓練内容	訓練詳細
9:45	集合	・避難所担当職員のリーダーを中心に出席確認、自己紹介、訓練の流れの確認
10:05	アクションカードを活用した避難所開設及び開錠・施錠方法の確認	・誰が参集しても適切に避難所開設を行えるように、避難所開設の手順・内容等を簡潔に整理した「避難所開設アクションカード」の使用検証 ・「避難所開設に係る学校施設の開錠・施錠マニュアル」を参考に、校門・校舎・体育館の開錠・施錠方法を確認
10:20	建物利用調査	・避難所としての使用可否を判断するため建物外観・内部で確認するポイント等を確認
10:25	避難所開設の掲示	・「避難所開設中のターポリン(垂れ幕)」を備蓄倉庫から取り出し、正門付近に避難所が開設されていることがわかるように掲示
10:40	図上訓練	・避難所利用計画図を用いて総合案内の場所、各受付・避難場所(一般避難者、要配慮者、発熱者等、ペット)、避難者の動線、使用可能教室を確認
10:40 ～ 11:20	防災備蓄倉庫物品確認・持ち出し、VACAN*の入力、避難所体験準備(受付のみアクションカード対象)、マンホールトイレ設営	・備蓄品の確認及び避難所体験時に使用する物品持ち出し ・避難所体験準備として、学校体育館に、防災備蓄倉庫から持ち出した物品を配置。併せて、体育館外では、マンホールトイレの設営 ・避難所の開設状況や混雑状況を確認できるウェブサイト、緊急対応用携帯電話(スマートフォン)を用いて情報を更新
11:20 ～ 12:20	避難所体験(受付での避難者名簿登録は原則二次元コードを使用)	・地域の方々と職員が連携・協働し、各体験(受付、避難スペース、トイレ)食料品・飲料水展示、その他備蓄品展示、地区協議会ブース(任意)、マンホールトイレの設営において、参加者(小学校全児童・中学校全生徒及びその保護者)に説明・体験、備蓄品等の配布を実施 ・避難者名簿への登録は、参加者のスマートフォンのカメラで二次元コードを読み取って行う
12:00 ～ 13:15	片付け、振返り、終了連絡	・使用したものを元の場所に返却 ・全体で訓練の振返りを実施 ・緊急対応用携帯電話(スマートフォン)内にあるLINEWORKSを用いて避難所運営本部(教育総務課)へ訓練終了を報告
13:15	訓練終了	

*VACAN：避難所の開設状況や混雑状況を確認できるサイト

●集合

市職員(初動要員・避難所担当職員・学校避難所対応職員・避難所担当管理職員)(以下「市職員」という。)及び地区協議会等の地域の方(自治会・地域学校協働本部のコーディネーター・調布市防災市民組織の方を含む。)(以下「地域の方」という。)は、集合時刻に、担当している避難所(学校)に集合(調布市では、特別非常配備態勢*の場合、全職員が災害対応に当たることとされています)しました。

***特別非常配備態勢**：調布市の防災大綱である「調布市地域防災計画」に定められている、市職員の配置基準のうち最大レベルの態勢で、調布市において震度6弱以上の地震が発生した場合など、大規模な災害が発生した場合に発令され、全職員が災害対応に当たることとされている。

●開錠・施錠方法の確認(校門・校舎・体育館)～図上訓練

午前9時45分に各避難所に集合した市職員及び地域の方は、訓練の流れ等の確認をした後、「避難所開設に係る学校施設の開錠・施錠マニュアル」を参考に、校門・校舎・体育館の開錠・施錠方法を確認しました。また、新たに「アクションカード」についても確認しました。その後、建物が避難所として使用できるかを確認する建物利用調査(流れの確認のみ実施)を行い、図上訓練として、学校体育館で避難所利用計画図を用いて総合案内、各受付、各避難場所等の確認を行いました。

●防災備蓄倉庫確認・物品持ち出し～避難所体験準備

図上訓練終了後は、防災備蓄倉庫へ移動し、防災備蓄倉庫に格納されている備蓄品の確認を行った後、避難所体験に必要な物品を体育館に持ち出しました。その後、避難所体験準備として、学校体育館において、防災備蓄倉庫から持ち出した物品を受付や避難スペースなどの展示スペースに配置しました。避難所体験の準備を進める合間に、各学校に設置をしている緊急対応用携帯電話(スマートフォン)を用いて避難所の開設状況や混雑状況を確認できる避難所混雑マップ(VACAN)の入力を行いました。

●避難所体験～振り返り

保護者による引取訓練後、避難所体験に来た小学全児童・中学校全生徒及びその保護者に対して、市職員と地域の方々が連携・協働し、受付・避難スペース・トイレ体験、食料品・飲料水展示、その他展示のブースに分かれ、備蓄品等の説明を行いました。体験に来た方々には、実際にブルーシートで敷いた避難スペースに寝転び、広さを確認していただいたほか、エマージェンシーシートで温暖効果を体験していただきました。その他のブースでは、携帯トイレの設置体験や、避難所で配布される食料品や備蓄品を手に取り体験していただきました。また、体育館外では、マンホールトイレの様子を体験していただきました。

避難所体験終了後は、片付けを行い、全体で訓練の振り返りを行いました。

●緊急対応用携帯電話(スマートフォン)を用いた通信訓練

訓練終了後は、緊急対応用携帯電話(スマートフォン)内にあるLINEWORKSを用いて避難所運営本部(教育総務課)に訓練終了の報告を行い、現地解散しました。

2-2 訓練参加職員からの意見等について

訓練に参加した職員から、以下の意見が出されました（意見の中には、協働による訓練に参加された地区協議会の方等、地域の方から職員が聴取した意見等が含まれています）。

出された課題を検討し、検討結果については、地区協議会連絡会、防災教育の日の説明会等を通じて、地域の方や市職員等と共有し、次回以降の訓練へ反映するなどにより、発災時の迅速かつ適切な対応につなげるものとします。

番号	項目	意見等
1	地域 の 協 働 ・ 学 校 等 の 連 携	地域の方と一緒に活動でき、いい経験となった。
2		地域の方から「調布市の職員っていいね。今日一日楽しかった。」と嬉しいお言葉をいただいた。
3		地域の方と一緒にできてよい機会だった。
4		地域の方は、むしろ初めて配置された職員等に指示を出してくださったり、前回の反省点を踏まえた改善を図ってくださる等、とても意識の高い方が数名いらっしゃった。
5		長く従事している職員が少なく不慣れな状況もあったが、地域のサポートによりスムーズに訓練が実施された。地域の方の防災対策に関する理解もあり、職員との関係性も良好な中で気持ちよく協働の取組が実施できた。
6		児童・教員の参加が多くなりとても良かった。校長が積極的に児童・教職員へ声掛けを行った模様。次年度も校長会などを通じて校長・副校長からの声掛けを促す。
7		何より地域の方へ、丁寧な説明が必要。
8		実際の災害時、市と地域で協働で避難所運営を行うとあるが、●●小が避難所として開所する場合、自治会や地区協の方にはこういった方法でお知らせされるか知りたい。地域の方が避難所に集まるにあたっては市からどう要請があるのか知りたい。
9		保護者の参加も増やすべき。見に来てくれる、参加できるスキームが作れるとよい。避難所体験のチラシなどの案内を職員・地域の方が理解し、訓練をのぞきにきた保護者の方に声掛けして訓練参加を促せるようにする。
10		何か起きたとき人数が必要。地域のみなさまがいないと成り立たないと感じた。
11		地域の人へのアナウンスをもっとしてほしい ex●●には案内が来ていなかった
12		地域の方がふらっと立ち寄る感じにはなっていないので、自治会の関係者、引き取り訓練の親以外の地域の方は来ていない。もっと地域の若い人などに体験してもらう必要がある。（自治会から参加していた人達も、呼び込みを自分たちでやろうという感じではなく、市にやってもらうスタンスだった。）
13		地域の人たちが、ちょっと立ち寄って体験する感じにはなっていない。誰も知らない。また、生徒や保護者も避難所体験があることを知らない様子だった。自治会から参加した地域の方は、どこか他人事だったし、倉庫の鍵が地域の誰がもっているかも把握していない。事前にどんなことをやるのかもわからずに参加している。

番号	項目	意見等
14	地域との協働・学校等との連携	自治会等で地域の人たちにもっと周知してもらう必要がある。地域のいろんな人たちにも参加してもらえそうな工夫が必要。資料も事前に何部か渡しておく必要があると感じた。自治会の人でも初めての方が準備から経験するのはとてもいいことだと感じた。参加人に渡せるような資料一式（●中の避難所マニュアルなど）が必要だと感じた。当日参加しただけでは、有事の際は大変だということがわかっただけで、その次に続かないので、こんな資料があるのだということをわかってもらい、広めていくことが重要。また、学校から生徒、保護者に対して周知し、足を運んでもらうようにする。登校中に有事があれば、一番近くににいるのは生徒たち。マンホールトイレの設置など生徒たちができることはやれるようになっていた方がよい。その他、「避難所体験はこちら」のような立て看板などわかりやすい誘導ができるとよい。
15		実際に避難所を開設する場合の事前周知方法について、職員には参集メール等で周知されると思うが、地域（地区協等の協力者）には事前に知らされないのか。事前に連絡があれば、手伝えることもあるのだが。地区協の方が大変協力的である。協働推進課を通じた連絡体制を整えるなど、予め確認しておくとうい。
16		地域支援拠点は必要。避難所に避難した方だけでなく、在宅避難している方の把握方法、食料品や飲料の配布場所・方法など、何も決まっていない（地域）。
17		今回の訓練は子ども・保護者に向けた防災教育として有意義であったが、地元の立場からすれば避難所は高齢者が頼る場であるはずなので、実際に地元の住民に避難所体験をしてもらえる機会を別に設けてほしい。現場を見て学習してもらった方がよい。
18		地域住民の自助として最終判断を住民でしてもよいなど、市職員と一緒に仕組みづくりができればよいと思う。
19		初動要員が駆けつけて職員だけで開設の判断をするのではなく、住民の方々の視点も交えて一緒に相談して判断していけたらよい。
20		訓練をはじめ避難所の在り方については、市が主動してやるのではなく、地域の意見を聴いて、一緒に考えて決めていくことが必要ではないか。
21		市として、地域の方の役割について、もう一度整理したうえで、丁寧に説明し、ご理解していただく必要がある。
22		地域活動を知ってもらうために、布田小地区ハッピータウン協議会の広報誌「Happy Times」も回覧した。
23		自治会の会員等、地域の人に「防災教育の日避難所開設訓練」を周知するため、配布できるチラシはないか。回覧板ではなく、戸別配布をすれば今より地域住民の訓練参加が増えるのではないか。チラシと言っているのは、高齢者はスマホやホームページからの情報収集は難しくポストに投函されるチラシの方が目に留まるからである。
24		事前に地域の方にも訓練チラシの配布をしてほしいという意見と、一方では、訓練は学校関係者・スタッフ主体のため誰でも参加できる訓練ではないという意見。自治会や地域の方へどのような案内をしているかを参加する職員へ事前周知をしてほしい。

番号	項目	意見等
25	地域 と の 協 働 ・ 学 校 等 と の 連 携	実際の避難所は、避難所開設時は市の職員が来るが、運営は自治会等、地域で実施しなければならない。自分たちがやるんだということを十分に理解してほしい。 また市の職員も市外に住んでいる職員も多いことから、避難所まで到着が遅くなることも念頭においてほしい。
26		地域は避難所の開設をやらなくていいのか。以前に市から作成しろと言われて作った地域の防災マニュアルは、地域が避難所を開設することを踏まえた内容で作成した。市の認識と地域にやってほしいことを改めて周知してほしい。協働推進課と総合安全防災課とで調整をお願いします。
27		以前、地区協議会で●●小と●中の両方で使える防災備蓄倉庫の鍵を持っていた。地区協議会の特定の個人が保管するといざというときに使えない可能性があるため、●中の体育館に設置されている鍵の管理BOXに保管していたが、いつの日かなくなっていた（学校が対応したと思われる）。地区協議会ごとに運用が異なるため、市内統一のルールを作ってもらいたい。地区協議会によって防災備蓄倉庫のカギの取扱いが異なるため、統一的な運用が求められる。
28		防災備蓄倉庫の鍵を持っている地元住民がいない。地元自治会の方々は●●小学校の訓練に行かれているようで、これまで総合防災安全課の職員に地元自治会へ●●中学校の訓練への参加呼びかけや防災備蓄倉庫の中を地元自治会の方々と一緒に確認する機会を作って欲しいとお願いした経過があるが、個別対応はしていないと断られてしまった。市に仲介してもらえないのかとの意見あり。（●●●自治会の●●会長）意見を踏まえ検討をお願いします。
29		●●中学校は、小学校に比べて地域からの協力を得ることが難しい。また、地域で防災倉庫等の鍵を持っている者がいない。本番では、市職員がいないと避難所の開設が困難である。
30		自治会の資料は50部くらい渡せた。
31		ハッピータウン（地区協）は、おすすめの資料（東京備蓄ナビ含む）「備蓄してますか」を配布した。
32		去年は体育館に学校教職員がきたようだが、今年は誰も来なかったようだ。
33		地域・学校教職員・市職員がそれぞれの立場で参加し、災害時における対応について考える良い機会となっている。地域と市職員は朝から避難所開設訓練を行う中で立場を（と？）課題を共有しながら行っているが、学校教職員は授業や引き取り訓練後の参加となっていて、一体感が薄い。避難所体験の終了時に、全員が集まって、校長・地区協役員・避難所リーダーが総括的にコメントし、それぞれの課題を共有しているが、時程に含まれていない。次回以降は時程に含んで必須項目としてはどうか。
34		学校職員の負担感が強いと思われる。負担軽減を図るか、重要性を理解してもらうかの対策が必要。学校用務員は災害時に力を発揮すると思われるので、存在意義を見出せるよう理解を求めていくことが良いのでは。
35		想定よりも早い時間に児童と保護者が体育館に来場したことについて、学校側との事前調整の内容について確認、共有がなされた。

番号	項目	意見等
36	地域との協働・学校等との連携	平日日中の発災時には生徒も避難所運営側に入ってもよいのでは
37		人手が足りない。地域の人たちはどこまで声を掛けているのか。●●●●には周知しているのか。簡単な準備や片付けを中学生に体験として手伝わせてみるのはどうか。
38		有事の際は中学生自身が避難所として使用することになるので、中学生が避難所設営を手伝うなど、体験するのも一つの手ではないか。
39		●●中学校は、避難所体験をせずに帰宅する家庭が多い。1学年だけでも良いので、避難所体験を授業に組み込むなど、必ず参加するようにしてほしい。生徒と一緒に準備できると、避難所体験の目的である「調布市で育った児童生徒が避難所開設や運営に携われるよう育成」にもつながっていくのではないかと。子どもが参加すれば、保護者の防災への意識も高まると思う。
40		学校との調整が必要だと思いますが、御検討ください。中学校だけでも、市職員と地域住民と生徒と一緒に訓練できると、世代間交流も生まれ、有事の際に互いに助け合いやすくなると思います。
41		12時30分から●●●部が練習を開始したため、それ以降体育館を使用できなかった。防災教育の日の訓練が終了する13時15分まで体育館を使用できないことを学校側にしっかり伝えてもらいたい。※数年前に●●中学校でも同様の事態がありました。
42		職員・学校職員・地域の方で、避難所開設の流れ・課題を確認できた。発災時にスムーズに避難所が開設できるよう、継続して訓練を行っていくべき。
43		学生や保護者に見学してもらったため、準備中のところもあったが、早めに入場してもらい、たくさんの学生や保護者に見学してもらえたので、時間帯の臨機応変な対応ができたことはよかったと思う。毎年、下校時間に合わせられると良い。
44		毎年、●●小と一緒に訓練をしているが、●●高校での訓練は一度もしていないので、担当として非常に不安である。施設の所管が東京都のため、訓練等できない事情があるなら、せめて、●●高校に配置されている職員の職務（●●高校の図面、備蓄の状況、鍵の場所等）を紙ベースでいいのでかわるようにしてほしい。このままでは、発災時に対応できない。
45		現在、体育館の鍵は持っておらず、市職員が参集して開けるまで待たなくてはならない。市職員も被災され、多くの職員が参集できないことも考えられる中、どのタイミングで地域が避難所開設に関わるのか、よくわからなくなってきた。
46	・事前説明研修会	地域防災計画にない変更点は速やかに地域に情報提供してほしい。（アクションシートの運用や受付方法の変更等）地区協の全体会等で事前の説明が図れるよう、要望として報告します。
47		簡易テントの収納に手間取ってしまい、時間をとられていた。別の避難所でも同様だと思うので、研修を実施するか、得意な方による動画を配信してはどうか。
48		どの避難所でも、やり方が不明で時間がかかる処理なので、収納のやり方の動画をファイルサーバかキャビネットにアップロードする、現場でも確認できるようにするなどの対応をする。

番号	項目	意見等
49	・ 事前説明研究会	体育館の外階段にあるフェンスがかたく、女性1人ではなかなかあけずらい。また、防災備蓄倉庫NO.2 1は、左側のドアが非常にかたく、閉めるのに女性4人がかりでやっと閉めた。扉の交換は難しいと思うので、避難所に来れる避難所担当職員を増やしてほしい。
50	開錠・施錠方法確認	災害発生時、職員よりも早く学校へ来ることが可能だが、学校の門や体育館の開錠や避難は、職員を待たなければならないか。基本的には、災害発生が平日であれば避難所担当職員が夜間及び休日であれば初動要員が、速やかに向かうことになるので、門は開錠したとしても校庭などでお待ちいただくことになる。
51		校門の鍵が指定されたボックスではなく探すのに時間を要した。有事の際にはこのようなことで時間をとられたくないため、齟齬がないようにしていただきたい。
52		ボックス1に入っているセコムキーで校舎のカギが開くのか全職員ははっきりと分かっていない（多分開くだろうと思っている状態である）。※セコムキーが「体育館用」なのか、「体育館及び校舎用」なのかをフィードバックしてください。
53		建物の内外を確認して、建物が利用できるか否か確認することは分かったが、最終的な判断は誰がするのか？市の職員がいないときは、住民が判断するのか？住民とするならば、誰が最終判断をするのか？合議制にするのかどうか？最終判断をする者の責任が重すぎないか？参加者同士で判断をすると思っていたが、改めて総合防災安全課に確認します。
54	建物	ここの避難所を開設するという判断は誰がするのか。建物利用の調査をして使えない箇所も出る中で誰がどう判断するのか。
55	利用	体育館の周り道で、植物の枝が張って通りづらい箇所があった。体育館の周り道は通れるように剪定する。
56	調査	現行計画では使用していない施設があるが、利用できるのであれば計画に位置付けて使用してもよいのではないかな。
57	図上訓練（避難所利用計画図）	【令和4年度からの継続案件】校長先生から「教育委員会から教育部管轄の施設で計画を」と言われたため、3階を候補地にした経緯があるとの説明があった。誘導動線などの感染症対策や医療機関への輸送時対応等、実情に即した計画を検討するべき、という意見が出た。
58		受付で、総合受付からの避難者の割り振りの担当が決まっていない。校舎への誘導、部屋の使い方などもはっきりしない部分があるので、そうした訓練をした方がよいのではないかな。
59		避難所計画では、発熱者は校舎2階となっているが、体調の悪い人を2階まで上げるのはどうか。
60		実際の避難所開設の際は、職員用の休憩スペースも必要。
61		体育館の入り口と出口は同じであることから入って来た方と出ていく方がぶつかってしまう。訓練では入り口と出口を分けて、動線がぶつからないようにしてはどうでしょうか。
62		発熱者を4階に案内するのは大変。学童クラブ、あそびバの場所が適切ではないかとの意見あり。

番号	項目	意見等
63	図上訓練（避難所利用計画図）	発熱者の避難場所が4階となっているが、発熱者が外階段を使用して4階まで上がるのは無理がある。隔離が必要なことは分かるが、4階まで歩けるのか。
64		要配慮者のスペースはアソビバ（学童）を活用したほうがいい。1階であること、壁があり完全に区切られていること、また障害者用トイレもあることから4階に上がってもらいよりも適していると考え。（アソビバ活用については職員意見）
65		正門から入り、ピロティへはロープなどを張って「立入禁止」を明確にしたうえで、正門すぐ右側から体育館までのルートにするほうが、人の流れも整理しやすい。南門ではなく、正門を入り口に変更したほうがよいと考える。
66		発熱者と接触なく避難所利用ができるようにすべき。
67		発熱者が4階まで上がる階段を、他の避難所利用者が使う階段とは別にする。全員検温できるとよいが、運営側の人数によっては不可能。災害対策本部ができてから校舎を使うので、それまでは体育館を利用することを考えると、パーティションを利用するほか、地区協議会のメンバーがいれば会で所有しているテント（10機ほど）を発熱者隔離用に持ち込むこともできる。
68		病人を隔離する意図はわかるが、病人は2階に上がるのが困難なため、避難場所を1階にするべき。
69		避難場所、具合が悪い人を2、3階ではなく1階にできないものか。
70		病気の人が2階まで上がるのが大変であるという意見。避難場所の検討をお願いします。
71		●●小は、2階の体育館に総合受付を設け、そこで訓練をしている（マンホールトイレは別）が、実際の図面は1階に総合受付を設け、要配慮者は学童側、ペット同伴者はプール側等受付を設けることとなっている。防災教育の日当日は、学校もプールも使用しているので受付を設けることは難しいと思われるが、実際に災害があった場合、普段から、それに沿ってやっていないと混乱するのではないかと（毎年質問出ています）
72		要配慮者が3階を使用、発熱者が4階を使用することとなっているが、有事の際にエレベーターの使用ができないことなどを考えると、現実的ではないと考えられる。避難所利用計画の再検討が必要と思います。
73		総合受付から各避難場所に移動した後、そこからの案内についても内容を把握した担当職員がいた方がよい。あらかじめ分担できるよう計画しておくべき。今後の計画改定のタイミングで修正していくことが考えられる。要望は伝えておく。
74		避難所利用計画図に修正を書き込んだため、更新をお願いします。
75		図上訓練の図面も古い、単に備品等を並べるのではなく、いざという時の訓練をするべき。災害関連死を防ぐ対策。
76		図上訓練の黄色の線が白紙の紙のうえでは、見えにくい。変えた方がよいのではないかと。
77		図上訓練の「黄色」が、とても見にくい。下地が白色なので見にくい人がいることから、違う色にする。

番号	項目	意見等
78	図上訓練（避難所利用計画図）	避難所利用計画図にマンホールトイレの位置を明示してほしい
79		避難所利用計画図にマンホールトイレ、防災倉庫、応急給水栓の明示を提案する。
80		避難所利用計画図の用紙が小さく見えにくい。
81		避難する際の教室の収容能力や、解放順序を示してほしい。
82		図上訓練の教室の名前を番号でもよいので、入れてくれるとよい。
83		地図が古い。教室名だとわかりにくいので、番号を振ってほしい。副校長が「私が新しく直しておきます。」と答えていたが、総合防災安全課での対応をお願いしたい。
84		図上訓練の教室の名前を番号でもよいので、入れてくれるとよい。図上訓練に使う図面が教室名だと分かりにくいようなので、改善して欲しい。
85		毎回同じような説明をして、同じような意見をもらっている。
86		昨年の意見を踏まえて何がどう変わったのか、わかるような資料があると良い。
87		避難所利用計画が学校施設を想定したものとなっているが、第五中学校の校舎は古く老朽化しているため、学校施設が使えないといったことを想定し、校庭の利用も検討してほしい。意見を踏まえ検討をお願いします。
88		利用計画の配置図が古いため、更新してほしい。
89		避難所利用計画図が現況と合っていないため、修正してほしい。ふれあいの家が1階建てなのはかなり前から確認しているのに、一向に直らない。今後の計画改定のタイミングで修正していくことが考えられる。要望は伝えておく。
90		●●自治会の倉庫が防災倉庫の側にあるので、計画図に掲載してほしい。
91		「避難所利用計画」（A0サイズ）の内容が不正確。また、昨年度出した意見等が反映されていない。ちゃんと更新してほしい。
92		避難所利用計画図に示されているシャッターは、土日は閉まっている。実際に、土日に避難所開設の場合は、そのシャッターを開けなければならないため、シャッター横の小部屋の机の引き出しに鍵があることを知っている必要がある。
93		昨年度まで表示のなかった、校舎の間のシャッターが図示されたが、位置が違うという指摘があった。
94		着がえスペース、トイレスペースは1つかと参加者から聞かれた。校舎の状況を見て、校舎のスペースを案内してもいいか。
95		受付が正門付近なので、総合案内で振り分けしている間に校庭に人が入ってくる場合はどう対応するのか。
96		地域住民の動線管理のため、南門は使用しない方が良いとの意見あり。
97		以前は入り口を正門としていたが、ピロティが壊れるおそれがあるということで南門に変更されたのだと思う。しかし、南門を開けると避難してきた人が、車で侵入しやすくなってしまうため、そこは閉めておいたほうがよいと考える。（車で非難はだめだと広報していても、来てしまう人が多いため、物理的にシャットアウトする必要がある）
98		受付から校舎内を通り体育館に移動する場合は土足でいいのかとの質問あり。
99		西門も開放出来ないか。
100		学童クラブや太陽の子も避難所として利用できないか。

番号	項目	意見等
101	図上訓練 (避難所利用計画図)	グラウンドに個人用テントを張ることは可能か。
102		また、避難利用計画に使用することが記載されていない教室は、被災時どのように開放していけば良いか。優先順位等を示してほしい。
103		学校の避難訓練ではピロティを通らないように指導されているが、避難所利用計画図だと使用することとなっており、矛盾している。
104		要支援者の避難スペースは一階で良かったのだが、発熱者を3階に指定するのは階段の昇り降りが辛いと思うので利用計画を見直してほしい。受付後の靴の取り扱いはどうなるか？各受付で靴袋を配布するため、外履きは靴袋に入れていただく。●●●小学校は総合受付が児童昇降口で、そこから校舎内を通過して各避難スペースに移動するが、総合受付で靴袋を配布するのか？校舎内の取扱いは確認する。
105		ペット同行避難者が、犬や猫以外のペットを連れて来た場合はどうなるのか。また、犬や猫でケージに入れたくない場合は、どうするのか。(避難所運営マニュアルでは、外につなぐと説明) ●●●小学校の避難訓練では、ピロティーは避難経路として使用していないが、避難所開設時には総合受付としている点、学校側との整合性を図らなくて良いか。
106		怪我をした方の手当の場所も必要ではないか？傷病者用の部屋を区分けして対応できないか
107		地域住民から校舎へ行く動線にパイプシャッターがあり、誰があげるのか？、またシャッター前に物が置かれている状況なので、動線としてはどうなのか？地域開放棟の扉から入った方が良いのではという意見もあり。
108		避難所利用計画図に示されているシャッターは、土日は閉まっているが、そこを通過して体育館へ行くという避難経路になっている。実際に、土日に避難所開設の場合は、そのシャッターを開けなければならないため、シャッター横の小部屋の机の引き出しに鍵があることを知っている必要がある。
109		ターポリン(垂れ幕)紐が短く括れない、対応必要。小さい。ターポリンという名前は分かりにくい。初見ではなんのことだか分からない。
110		次回作製する際はもっと大きくしたほうがよい。紐ももっと長いもの。アクションカードには「避難所開設中と書いてある垂れ幕」など分かるように表現したほうがいい。
111		避難所を目指して来た人たちは、正門から入るという想定だと思うので、まず、正面(校舎にある受付)に行くということがわかるような掲示が必要ではないか。
112		一般の避難者は体育館を避難所としているため、先に体育館を目指してしまうと校舎へは立ち寄らない。正門に、まず校舎受付へという表示を掲示する。
113		ターポリンを正門だけでなく、体育館近い門にも設置するようにした方がよい。総合受付に案内できるように案内板などいるのではないか。
114	庫(防災備蓄倉含む)	倉庫が増設されたことに伴って既存の倉庫内のものが減り整理されたため、備品を取り出しやすくなった。

番号	項目	意見等
115	防災備蓄倉庫（備蓄品含む）	1年に1回参加してきて、（2つ倉庫があり）どちらの倉庫に何があるかなんとなくわかってきた。
116		太陽光パネルは、事前に準備しどのくらいの電力が蓄えられるか確認ができると尚良い。
117		他の小学校・中学校と共通した位置に収納されていると、他地区で開設作業に関わる可能性がある中では混乱なく搬入、搬出ができる。
118		備蓄品のローリングストックについて、活用する方法はあるのか。地域のフードバンクなどの事業に提供してくれるとありがたい。
119		期限切れ、期限間近の物品の処分方法はどうなっているのか。自治会のイベントなどに提供して活用しても良いのか。
120		消費期限の近いものを、市民（地域）に還元してほしい。例えば、市民が運営するフードバンク。自宅避難者が支援物資を避難所で受け取る場合、本人ではなく民生委員等がまとめて受け取りに来てよいと聞いたが相違ないか（民生委員の方からの質問）。可能なら、その旨をしっかりと周知してほしい（トラブルにならないよう）。
121		備蓄一覧を倉庫内に貼ってあるが、準備の際にどのような備蓄がどこにあるか説明する必要がある。
122		防災備蓄倉庫の中が分かりづらい。食糧用の倉庫が別にあるとわかりやすいのではないかと提案があった。ソーラーパネルと蓄電池の置き場所が一緒ではなかったため、当初の設置が不十分だった。
123		倉庫から体育館に備品を運ぶ際に、防災備蓄倉庫内の配置が扉に貼られている一覧と違って、簡易テントは別の倉庫に入っていてなかなか見つからなかった。また、食料用の倉庫がもうひとつあれば、各倉庫がすっきりするのではないかと。
124		どこに何があるのかわかりにくく、持出に時間を要した。倉庫内の写真などあれば、わかりやすいのでは。
125		食料品展示で賞味期限がいつまでのものを配ってよいのか、明示してほしい。（マニュアルの要望）
126		訓練の手順や防災備蓄倉庫の物品の取り出しの効率が悪く、待ち時間が発生してしまった（地域の方から）。事前準備や、取り出し方法を工夫した方がよい（地域の方から）。
127		防災備蓄倉庫内の物品がわかりにくく、取り出しに時間がかかった。また、設営には相当の時間がかかってしまったが、時間までに全てを設営することが出来なかった。
128		箱と中身は必ず合わせる方がよい。
129		防災備蓄品倉庫の物品がわかりにくく、取り出しや設営に労力がかかったり、できなかったりした。同じものが入っているものは同じ表記にする、出すケースに順番をつけるか、最初に出す必須のものに印をつけて手前に置くなどする必要がある。今回は訓練だったが、実際の避難所設営の際は、配置される職員がより少ない可能性があるため、労力を最小限にできるように準備してほしい。

番号	項目	意見等
130	防災備蓄倉庫 (備蓄品含む)	訓練の手順や防災備蓄倉庫の物品の取り出しの効率が悪く、待ち時間が発生した。事前準備や、取り出し方法の工夫を考えた方がよい。
131		防災備蓄倉庫の扉にどこに何があるか貼られているが、同じものが中にもあるとよい。開けてしまうと扉は外に向いて空いているので、どこになにがあるのか、いちいち外に出て確認しないといけない。
132		備蓄品の商品名だけは何が入っているかわからない。案内板などにどういうものか説明しておき、箱にも番号をふるなど、すぐに判断できるように表示しておいた方がよい(地域)。
133		防災備蓄倉庫に必要なものが全部揃っているかわからない。
134		ダンボールの商品名だとわからないものも多く、また表示がないもの(分かりづらいもの)が多く、どこに使用するものなのか分かりづらかった(トイレ用のテントなのか、大きいテントなのか、など)。
135		備蓄倉庫のものに体育館のエリア分けの区分や用途別に分けて、箱にきちんと表示してほしい。
136		アルミブランケットの余剰の場所がわからなかった。アルミブランケットはわかるように表示が必要。
137		防災備蓄倉庫の開ける手順などが何か示されているとありがたい。(どのレバーから引っ張るかなど) 1、2など開放手順のとおりシールを貼り付ける。
138		貼ってある表を見ても、どこに何があるかわからなかった。定期的に防災倉庫の中身を確認し、整理したうえで、扉の表もきちんと訂正する。
139		倉庫の中のもの、配置がわかりづらいので、まだまだ改善する余地がある。
140		防災倉庫になにが入っているかわからない。ものに番号をふってほしい。どちらの倉庫に入っているかもわからない。片方にも、もう一方に何が入っているか表示してほしい。
141		A Bなど配置は書いてあるが、そのとおりに置いてないことがある。
142		防災倉庫になにが入っているかわからない。ものに番号をふってほしい。どちらの倉庫に入っているかもわからない。片方にも、もう一方に何が入っているか表示してほしい。また、期限切れのクラッカーが入っていた。
143		備蓄倉庫の右の扉に貼ってある配置表と備蓄品について、地域の人に整理をさせてほしい。地域の人に任せられないなら、市の方でどちらに何が入っているか整理し、表示をしてほしい。古い物を処分するなど、管理を徹底して欲しい。
144		●●中学校では防災備蓄倉庫(2箇所)と体育館内倉庫に物品が保管されている。マニュアル等どおりの場所に物品が配置されていないため、どこに何があるかすぐに分からず、準備・設営に非常に時間がかかる。
145		見た目は整理されているが分かりにくい。倉庫別の物品一覧の作成が必要と思います。
146		倉庫内の備品一覧表と実際の収納場所が一致していないものがありました。

番号	項目	意見等
147	防災備蓄倉庫（備蓄品含む）	防災倉庫の中の物品の配置図やリストがほしい。
148		倉庫が2つあり共通の物品一覧が掲示されているが、どちらの倉庫に入っているかわからず、今回使用する物品を探すのに時間を要した。食べ物と飲み物が別の倉庫に入っていたため、カテゴリー別に整理することも必要と思います。
149		防災備蓄倉庫の整理について。初動要員や最初に関ける人が、焦らないで物を探せるように、プロのアドバイスをもらって物品を整理したい。また、ボックスやケースに、似たような名前が貼ってあると間違えるので、入っている物品の名前を書いておくことや、鍵のある箱には『鍵入り』など表に貼っておくなどお願いしたい。
150		倉庫の分かりやすい場所に、物品の配置図とリストを掲示してほしい。どこに何があるのか分かりにくい。シャッターの操作ボタンの位置が分かりにくい。掲示が欲しい。
151		備蓄倉庫扉に貼ってある資材名称と段ボールに記載してある商品名が異なり分かりにくい。1 避難所開設時のまず初めに使うもの、2 次につかうもの、3 落ち着いたらつかうものと、段階的に物品を奥に、奥にと使用物品を整理すべきという意見がありました。どの避難所でも同じ運用になるように、1 2 3のカテゴリーを整理してはどうでしょうか。倉庫が暗くて狭い。非常時に広く、明るく使えるようにしてほしい。
152		外装から中身が分かり難い備品あり（ポータブルトイレの表記）。（中身の写真or備品の通称名を外装に表示等）
153		手回しラジオを充電するには、かなり回さないとすぐに切れる。効率よく充電できるようなものはないか。
154		ラジオは回している間しか聞けない。利用価値がわからない。
155		LED投光器を当日充電したが、充電が間に合わなかったため、使えなかった。また、海外製なためか説明資料がなかった。説明資料が欲しい。
156		ラジオ展示したのだが、同梱されていた乾電池は切れていた。確認が必要。乾電池が不要ということであれば、入れておかない方がよい。
157		展示を行ったラジオの発電機能（手回し）が壊れていて使用できなかった。交換が必要かと思われる。
158		蓄電池が充電用としてどの程度使用できるのか（使用可能時間等）について、体験利用者から質問があった。他の参加者からも「避難所にどの程度の設備があるのかを確認したうえで、家庭の防災グッズをどの程度揃えるか考えたいので、設備のスペック等も知りたい」との問合せがあり、説明書や外箱への記載が無いものについてはスペックをあらかじめ知っておきたい。
159		倉庫内が暗いので、自発光する簡易照明等があるとよい。
160		避難所開設セットの白いコンテナに格納されているLEDライト（ハンディタイプ）を使えるようにしてください。昨年も指摘したのに改善されていません。
161		不足している物資の部分の食料について、食料の分類があった方がよい。

番号	項目	意見等
162	防災備蓄倉庫へ備蓄品含む	期限切れのルミカライトがあった。また、体温計に入っていた電池が切れていた。（予備の電池はあり）
163		備蓄倉庫に行くまでの経路が足元が悪い。照明をつけてほしい。
164		防災備蓄倉庫を夜にあげる時のために人感センサーがあるとよい。設置されてなければ今後の設置を検討してほしい。
165		備品倉庫前の足場が悪く、雨天や夜間は取り出し作業中にケガをしそうで心配。
166		開設が夜間帯だった場合、建物利用調査をする上で、建物のまわりを詳細に確認できるライトがあるとよい。
167		防災備蓄倉庫内が暗い。上記同様、夜間開設だった場合には手持ちのライトでは探すのに時間を要するため、倉庫内に点灯する照明（オートライトなど）があると望ましい。
168		倉庫から運ぶ際に大き目のリュックやトートバックがあると良い。
169		説明会時も質問されていた地域の参加者から、防災備蓄倉庫の備蓄等確認の際、生理用品がないとのご意見があり、リーダーが保管場所について説明していた。
170		物品を補充等する際、手前に古いものを設置してもらいたい。物品等を補充する際、倉庫の手前に古いもの、奥に新しいものを設置するよう要望する。
171		新たな物品の要望不良品が含まれており使用できなかった。配置されているものが需要に合っていないなどの意見。
172		使おうと箱から取り出したものが、部品がかけていて、設置できなかった。（配置機材の見直し）
173		防災備蓄倉庫内にあるはずの、靴用のビニール袋が見つけられなかったため、体験者へ配付できなかった。（自分で持っている方には使っていただき、ない方は、体育館入り口にある靴箱を利用してもらった）
174		定期的に備蓄品をチェックし、使用期限のあるものは新しくする必要がある。
175		養生テープだけではなくガムテープも備蓄してほしい。
176		倉庫には養生テープしかなかったがガムテープもあったほうがよい。
177		体温計の数が少ないのではないか？体調不良は自己申告優先となるが、非接触型体温計を5台程度まで配置できないか？
178		備蓄食料の賞味期限が切れていた。
179		食料品を運び出すとき、古いものや賞味期限切れがあったけれど大丈夫か。
180		（参加女性から）備蓄品の確認をしていたところ、石鹸やペーパー類に刺激の強い（優しい成分でない）ものしかないものがあった。（できれば刺激の少ないもので備蓄品を考えてもらえると助かるが）備蓄品に、何が、どのくらい用意されているのか、避難してくる可能性がある市民に周知することはできないか。
181		備蓄品の中にある石鹸は、乳児や高齢者にも肌に優しく刺激が少ない無添加品の備蓄を要望。未確認ですが、刺激が強い石鹸が備蓄されていたとの意見です。

番号	項目	意見等
182	防災備蓄倉庫（備蓄品含む）	（振り返りでの「設営や片づけ等、参加者が誰（職員等）に指示を仰げばいいかわかるようにしてもらえると、的確な動きができると思う」という意見を受けて）地区協議会では、各種イベント等で使用するビブスについては、カードが入れられる透明なポケット付きのものを購入している。避難所においても備蓄品に準備することはできないか。
183		職員が参集できないときには、自分たちで防災備蓄倉庫を開けてよいのか？
184		発災した際に避難所を開設した地域では、避難所に食料品が備蓄されていることを知っている市民が備蓄品を盗難する事案があったことから、調布市においても同じ事が起きる可能性が想定されるため、管理方法など検討が必要かもしれない。
185		全ての避難所に備蓄する必要はなく、用意がある避難所を案内できればよいのではないのか。
186		No.8 備蓄コンテナの向かって左側扉のストッパーが壊れている（留め金具欠損）ので修理をお願いします。備品の搬出入作業の時に風にあおられて危険を感じる。
187		北側の古い防災備蓄倉庫に基礎がなく、とても高齢者では開けられない。基礎の設置検討。
188		防災備蓄倉庫は2つあるが、新しくできた第2倉庫の鍵を地域住民はもらっていないのでいただきたい。また、学校にも第2倉庫の鍵がないと、副校長から伺った。今、第1倉庫の鍵を持っている地域住民3人に第2倉庫の鍵も渡す。学校にも1つ預けておく。
189		第1倉庫の鍵はもっているが、第2倉庫の鍵はもっていない。（地域の方）。新しく作った方の備蓄倉庫の鍵を地域の方にも渡してください。
190		第1倉庫に、第2倉庫の鍵は入っていない。初動要員が来ないと開けることができない。
191		備蓄倉庫の中が乱雑で、訓練で使用する物品を探すのに時間がかかった。地区協で片付けをしても良いということであれば、行うことは可能か？
192		1倉庫の整理は地区協でやって良いのか？⇒（総合防災安全課より回答）2、3年を目安に各学校の整理を業者に委託して行いますので地区協で整理していただいたことが無駄になる可能性があるのではやなくて大丈夫です。
193		防災備蓄倉庫にたくさんのネズミの糞が落ちていた。食品も保管しているところのため、改善が必要と思われる。
194		防災倉庫の中に何が保管されているのかを確認したいと、総合防災安全課に相談したが断られたことがある。防災教育の日以外でそういったことができるとありがたい。
195		実際の避難所運営は、備蓄倉庫から備品や消耗品は取り出したり、本部から新たな備品が届いたりして、ごちゃごちゃになると思う。整理整頓しながら運営することが大事であると思う。
196		備蓄倉庫にあるボックスの番号と連動した管理の方が効果的ではないか。
197		充電されていないので、発災時直ぐに使用できない。発電機を使って充電するには、貴重な燃料を消費してしまう。そのまま使用出来る代替品等検討してほしい。
198		蓄電池の充電がゼロだったので、ある程度の充電を残した状態で保管できないか。最新のソーラーパネルや蓄電池を導入できないか

番号	項目	意見等
199	防災備蓄倉庫（備蓄品含む）	蓄電池の充電が0％であったため、日常の中で充電する習慣があると良い。
200		ソーラーパネルの蓄電池がなかった。
201		ソーラーパネルの展示、付属する蓄電池が見当たらなかった。
202		テントは種類があるので、マンホールトイレ用のテントは1、体育館で使用する簡易テントは2など、箱に番号をつけるなど、わかりやすい表記にした方が良い。
203		マンホールトイレ（一般用）のテントのうち、フレームを固定するパイプ（足元部分）の正面部分のパーツが劣化している。
204		展示では、お湯でとかすミルクをつくるのは、温度調節なども大変だと意見があった。缶のミルクがあると良いのでは。アダプタのようなもので、いつも使っている吸い口がつかえるとよい。
205		哺乳瓶の使い方を教えてほしい。答えられなかった。（マニュアルの要望）
206		粉ミルクについては水が使えない場合や手間を考え、液体タイプのものがほしいと地元の方から要望があった。
207		粉ミルクは実際の見本があるとより分かりやすい。
208		赤ちゃん用のミルクについて、アレルギー対応が必要。
209		粉ミルクではなく、液体ミルクがあるとよい（備蓄されている。）常備されていなければ、液体ミルクを常備するとよいのでは。
210	VACANの入力	VACANの入力ができなかった。
211		管理側の問題だったのだと思うのだが入力ができず、かなりの時間をとられてしまったため、それなら「入力できないので、やらなくてよい」などの指示を出してほしい。
212		学校のIDとパスワードも都度、入力をしなければならないので、時間がかかった。携帯電話が学校のものであり、ロック画面のパスワードなどが分からないため、学校職員に聞く必要があり、手間があった。発災時における混乱状況の中で、そのような作業をすることは実質難しいのではないかと感じた。
213		VACANの入力の際、学校のIDとパスワードは一度入力したら自動入力できるシステムがよいと感じる。
214		内容をもっと簡潔に。初見で行動するには無理がある気がする。誰が行うのか明確でないという意見あり⇒基本的に初動要員が備蓄倉庫を開けるが、全員が来られるわけではないため、集まった人がアクションカードをもとに避難所開設に向けて準備を進めていくと回答。
215		VACANについて、自宅避難者は登録できるのか、できないのか不明
216		VACANはまったく周知されていない。私も防災教育の日以外は目にしないので、市民への周知ももう少し行うべきだと思う。
217		優先発信機能付携帯電話（スマートフォン）は、2階事務室に1台、1階OCTOルームに1台配置してあるということだった。日頃どこにあるのか、視認させたほうがよい。また、ボックス1に入っているセコムキーで、校舎を開けることができるのか、どのような場合は破壊して中に入っているのかを示してほしい。

番号	項目	意見等
218	アクションカード	アクションカードは良い取り組みだと思った。
219		アクションカードは有効だった。
220		アクションカードは有効だが、一覧表があれば良い。
222		1枚だけでA4サイズでペラペラだったので使いずらかった。ラミネート加工が必要か。指示カードに番号や順番などの記載があると、どれから進めるのか理解につながった。本番では、順番が不明瞭だと戸惑うのでは。
221		どのアクションに何人必要で何分くらいかかるかを記載したほうがよい（地域の方で、良かれと思って、調査が終わるまで待てないで体育館を勝手に開けて入れてしまいそうな人がいるため、どのくらいの時間がかかるのかなど分かる方がよい。）置き場は備蓄倉庫のボックスの中ではなく、扉内部にドアポケットなどを設置し、その中などすぐに取り出せるところに置くほうがよい。ラミネートして穴を一箇所開けてリングで綴じておき、いざというときは外して配付できるようにする。ナンバリングしておけば、流れを見れるし、回収漏れも防ぐことができる。
223		ラミネート加工をする。対応の順番を明確にする。
224		アクションカードについて、さまざまな意見が出されました。二人一組が良いのか、誰かが指揮して一組が動く、渡す人用と対となって動く人用がいるのではないかなど。
225		「アクションカード」を言われてもピンとこない。カッコ書きで構わないので「行動指示書」と日本語で表記してもらえるとありがたい。最近何でもカタカナ表記になっているが、高齢者はなじみがない。アルファベットの略語も同様。日本語表記または併記にしてほしい。
226		どこまで求めるかにもよりますが、有事の際は近隣の方の協力が必要になることを想定したカード作り（初見の方も取り組めるもの）が必要と思います。
227		アクションカードは1作業1枚としているが、（1）のア・イ・ウなどあり、ぱっと見た時に順番が分かりづらい。避難所を開設する際に必要な作業が、時系列で一目で分かるような手順書が欲しい。この作業をするには何番のコンテナが必要というように、作業と必要物資が紐付けられているといい。
228		全校共通のためか1枚1アクションとしては情報が不足している。各学校に応じたカードでないと、実際にアクションは起こせないと思います。
229		アクションカードを発災時に確認することを想定するのであれば、混乱しているなかで分かりやすいもの（写真やイラスト等を多用など）がよいのではないかと感じた。具体的な配置場所も現時点で設定する必要があると感じる。
230		アクションカードはラミネートすることで、✓を油性マーカーですれば複数回しようできるのではないかな？アクションカードに記載の✓の仕方は試行期間を通じて工夫する。
231		台風の時など雨に濡れることも考え、ラミネート加工は必須だと思う（毎回作成する必要もなくなる）。
232		実際の被災時には雨天ということも想定されるため、ラミネート対応等ができないか。
233		アクションカードは長く使うものなので、ラミネート加工などしてはどうか

番号	項目	意見等
234	アクションカード	アクションカードをラミネート加工した方がよい。バラバラにならないようリングをつけてはどうか。
235		アクションカードが紙でペラペラなので、破れたり、紛失のおそれがある。ラミネート加工を施して補強し、リングをつけて管理しやすくする。
236		アクションカードが再生紙のため、屋外で扱うのが大変だった。
237		カードをラミネートして耐久性を持たせる、穴を開けてリングで束ねる等の工夫が必要との意見あり。
238		せっかくのアクションカードであったが、わかりにくく、見つけるまでに相当な時間がかかっていた。紙の資料と一緒に入っていたのもわかりにくかったように思う。
239		アクションカードの格納場所が防災倉庫内だと初動要員が参集するまで開けられず、地域の方（地区協の方など）が先に到着した場合に開けられないため、格納場所を再考してはどうかとの意見あり。
240		アクションカードが見つけられなかった。
241		体育館の鍵の入った袋に入れるなど、何か別のクリアなものに入れ、目立つように大きい文字でアクションカードと表示するなどして一目でわかるようにした方がよい。
242		ある程度知識がある方用ならいいが、初見だと分からない。
243		アクションカードを訓練で使用するのであれば、訓練における具体的な使用方法の提示がないと、使用するタイミングなどが分からなかった。
244		夜間など暗い時間帯だと見えない。
245		A 4 サイズが大きすぎると、ペラペラなので使いづらい。優先順位が分からない
246		アクションカードは、今のままでは使いづらい。このカードが全体の行動の中でどの部分なのか、自分が今どの部分の作業をしているのかが分った方がよい。
247	避難所体験	●●●●●が視察に来られ、避難所訓練にも顔を出してくださった。予定より早い到着で、まだ準備前ではあったが、防災備蓄倉庫からの荷物の運び出しなども見ていただき、リーダーの説明や職員の動きなどにも興味を示してくださったことは良かった。
248		昨年度と比較すると、来場者が多かった。校長先生がかなり声掛けをしてくださったとのことでした。
249		避難スペース体験では、全体的にスムーズにできた。
250		児童・保護者・教職員が大勢参加がありよかった。
251		避難所担当リーダーが進行し、サブリーダーが意見を記録し、振り返りを行った。
252		避難所スペースやトイレ体験では、体験してもらうことで興味を持ってもらえて良かった。
253		避難所訓練では、参加者にあらゆる体験をさせてほしい。例えば、昨年行った「簡易トイレの凝固剤使用体験」では、思った以上になかなか固まらないことが分ったり、体育館内を広く照らす照明を組み立てた際には、学校用務員の手を借りて初めて完成できた、など、実際にやってみて分かることが多かった。毎年参加している（私のような）人はいろいろ体験しているが、初めて来た人にも体験できるものが多いと良いと考える。（自治会）

番号	項目	意見等
254	避難所体験	第一体育館に防災無線があるため、例年は第一体育館で避難所訓練を実施しているが、今年度は第二体育館で行ったところ、人の通行が多く、例年と比べて多くの参加者があった。
255		受付は担当職員2人だったが、長い列ができて、地域の人にも靴袋を渡していただいたり、手伝っていただいた。
256		体育館にごみ・忘れ物等がないか。全員で確認し、ごみは、段ボールにまとめて、ビブス等とともに第1防災備蓄倉庫へ入れて鍵をかけてから解散した。
257		トイレ体験は好評だった。
258		トイレの便座が大人用なので、子どもが便座にハマってしまっていた。便座を二重にするか、幼児も座れるような便座も用意してほしい。
259		今年度から全学年対象と聞いていたが、昨年度と比較し参加者数が大幅に減少した。そのため、地域の方から、より多くの地域住民の理解を深めるため、こどもの引き渡し訓練前の時間に保護者へ体験していただくようにして欲しいと要望があった。また、引き渡し訓練のため保護者が待機している時間に、アナウンスして欲しいと要望があった。講話・引き取り訓練時間前に待機している保護者が多いことから、可能であれば検討する余地はある。
260		早く来ている保護者もいたので、希望者は訓練に参加できるとよい。
261		スケジュールでは12:20まで実施しているとのことで、それに合わせて12時以降に体験を予定していた先生がいたが、人が来なかったことから早めに終了したため、体験出来なかった先生がいた。
262		引き渡し訓練後の保護者及び児童が体育館に来るタイミングが分かりにくく、準備が完了せず始まってしまった。11:10すぎには体育館に親子が来ていた。
263		校内放送などで開始を案内してほしい。職員の出勤時間の見直し。11:20～12:20の体験時間は現実的でない。引き取り訓練が11:00～のため、11:00には準備ができていないといけないし、小学生は12:00以降は帰宅するため来ない。
264		配付した靴袋の残数で来場者数を数えたことが有効だったと感じた（地域の方から）来場者数を数えた方がよいという地域の方からの要望により数えているという経緯がある。靴袋の残数で来場者数を数えるというのも地域の方からの発案であると聞いている。
265		入口と出口が一緒だと人の流れが悪い。訓練では入口と出口を別にして一方通行にする。
266		受付の混雑緩和が必要。
267		ペット同行者や発熱者への対応なども考えると、受付にもっと人が必要。（今回は2人でやりましたが、人手が足りず途中から3人にしました）
268		受付は2人でやったが列が長くなった。地区（地元）の方に入ってもらったが（常に頼れるとも限らないので）、他のブース等で手の空いている方に入ってもらいたい（←実際は他ブースも人も少なく、応援に入れる状況ではなかった）●高の方が多くて、●●●●●小の担当の方が全然いないじゃない（自己紹介の挨拶時。地元の方）。

番号	項目	意見等
269	避難所体験	体験ブースについては、順路を示すのと併せて、最後尾の案内をした方がよかった（地域）。
270		避難所体験のブースの前に、補足説明できるポスターや案内板があった方が、より理解してもらえるのではないかと（市職員）。
271		体育館のエリア分けが分かりづらく、設置に時間がかかってしまった。図上訓練時のようにA0サイズの図を用意してほしい。
272		各ブースの設置場所について、位置が離れていたため、参加者向けの導線的に間延びしてしまった。
273		受付を設置する際に、避難される方が多くいた場合には混雑渋滞となってしまうことから、余裕をもった配置とした方がよいといった意見あり。
274		体育館のどこの壁を使用するか場所を決めておく。ホワイトボードも使用できないか確認しておく。
275		展示の配置は参加者が並んでしまって、要検討。
276		食料品・飲料水展示を一番最後（出口付近）にした方が、他の展示をゆっくり見ることができるので動線を変更した方がよいという意見あり。
277		避難スペース（ブルーシート）避難所のブルーシートの1区画当たりの避難人数は何人程度想定なのか？→明確に決まてはいないが、一世帯一区画というわけではないと回答しました。避難スペースは養生テープで区切るのか。→養生テープで区切るのではなくブルーシートで一区画分とする。ブルーシートは、他の避難場所にも敷かなければならないため、備品数の確認はしてほしい。→防災に共有します。
278		雨天時は、体育館半分が引き取りスペースになるので、そのことも考えた配置をお願いします（学校側より）
279		・簡易テントの個数は？授乳用ですか？→（総合防災安全課の回答）要配慮者の避難スペース等での利用も想定できる。・ベットとテントはセットですか？→（総合防災安全課の回答）ベットを必ずセットで使用するものではない。・簡易テントについては、女性の着替えなどで使用することも想定できる。・ダンボール仕切りとかは備蓄されているのか。→（総合防災安全課の回答）現状は備蓄倉庫にはない。避難所生活が長期化したときに外部物資として搬入するもの。ダンボールベットは民間業者から搬入がある。
280		簡易テントの活用方法（授乳や着替え用と説明）一人1.8m×1.8mのスペースを確保した際の、収容人数。（建物利用調査の結果すべて利用可能した場合）
281		避難所体験のテントの名称がクイックパーテーションであり、探すのに苦労した。またクイックパーテーションが老朽化により傾いており危険（自立できない状況）である。探せるように備蓄品の表示を工夫する。
282		片付けの際に、テントをたたむのに時間がかかったので、定期的に訓練を行う必要があると感じた。
283		簡易テント（自分の物）をもって避難して良いのか？ ⇒（総合防災安全課の回答）基本的に大丈夫です。自分のエリアのブルーシートをはみ出さなければ。

番号	項目	意見等
284	避難所体験	仮設トイレを校庭側に設置したが、校舎近くに設置した方がよい。（避難スペースから離れているため）※臭いの問題もあるので、検討が必要。
285		仮設トイレのトイレットペーパーの設置の仕方（方法）、直置きしない設置方法の検討が必要。
286		トイレの1つが部品が欠損していて使えなかった。
287		携帯トイレの使用後はどこに廃棄するのか聞かれたが答えられなかった。携帯トイレ使用後の廃棄方法の確認
288		トイレ用簡易テントの名称が「簡易テント」のため、分かりやすく表示した方がよい。
289		トイレで汚物の捨て方の説明ができなかった。（マニュアルの要望）
290		災害時、一番はトイレが大事。もう少し簡単に設営できて、（イベントなどにある）頑丈なテントなど固定できるようなトイレが良い。
291		トイレットペーパーの在庫はあるのか？
292		トイレの体験をしてもらうようになっていたが、水を入れるものがなく、急遽ペットボトルを持って来て対応した。体験を行うなら水を入れるものも事前に用意してもらえると良かった。
293		簡易トイレを利用した後の汚物を捨てる場所を決めたい。昨年度から引き続き質問に上がった。市で検討し決めてほしい。
294		子どもにとっては便座のサイズがあわない。子供用トイレの配置
295		便座が子ども用としてはサイズが大きすぎる気がする。高さも合っていない。別途必要と思われる。（配置機材の見直し）
296		トイレの便座が大人用なので、子どもが便座にハマってしまっていた。子どもでも安全に利用できるようにしてほしい。
297		便座を子どもも利用できるよう二重便座にするようにできないか。
298		携帯トイレのビニール袋を縛るのは子どもは難しい。結束バンドを用意できないか。
299		展示したものや資機材についてのマニュアルの要望等。展示したものについて問い合わせがあったが、なかなか思うように答えられなかった。資機材についてのマニュアル等が分かりにくいので、新たな物がほしい。
300		アルミやブルーシートの割り当て（一人当たりのブルーシートの面積（家族当たり一枚なのか等）又アルミは一人一枚提供されるのか等）について、市民から質問があったが、答えるのに困ってしまった。（マニュアルの要望）
301		テントをたたむのにかかり苦労した。テントをたたむ説明書がわかりにくいので、動画や、さらにわかりやすい説明書が欲しい。トイレ組み立ての事前確認が必要か
302		救護用のテントがなかなかたたためず苦労した。マニュアルが分かりづらい。改善を希望する。（マニュアルの要望）
303		簡易テントのたたみ方にコツが必要なため、説明書を見ただけではスムーズにたためない。
304		既に変形している簡易テントを別の学校で見たことがあるため、リーダー説明会などを活用し、事前に簡易テントのたたみ方を、グループで実践した方がよいと思う。

番号	項目	意見等
305	避難所体験	簡易テントの収納に時間がかかってしまい、時間をとられていた。別の避難所でも同様だと思うので、簡易テントのたたみかたの研修をしてほしい。
306		簡易テントの収納について、市の得意な方が、収納の作業動画を撮っておき、映像を各避難所で確認できるようにすればよいと思う。
307		ペットの扱いも実際に訓練でやってみる。簡易テントも1張でなく、複数配備すべき。発熱者を3階まで移動させるのは、現実的でない。
308		ペットを飼っている市民も多い、ペット同伴の市民も避難できることがわかるようにしてほしい。
309		受付窓口でペット同伴の方への案内などあれば、見えるところに配置する。
310		ペット避難のスターターキットを展示してほしい。展示のみであれば対応できる。
311		ペット同伴で避難する方のペットのゲージの大きさに決まりがあるの？⇒大きさに制限はありません。危険動物等はお断りする可能性があるとのこと。（総合防災安全課より回答）
312		今回ペット対応について意見がでたが、「ペットを家族同然」と考えている方と「人命優先」と思っている方では避難所に対する考え方が違うため、最悪の状況下において、どちらを優先すべきか市としての見解を示した方がいいと感じた。
313		ペット同伴の場合の避難所等について、ペット同伴の方に対して、こういうものがあるんだということを、ペットを飼っている市民も多いので、避難所訓練の入口に置くなどして見せてほしい。
314		ペットを受け入れた後に鳴き声対策や糞尿などの衛生をどのように維持するか。
315		動物はゲージに入れて連れて来ることになっているが、瞬間的に用意せずに来てしまう人もいると思う。追い返されてしまうのか気になった。
316		配布品について、●小は人数が少ないので子ども1人に1つが良いのではないかな。
317		今回は、地区協議会の方が靴袋の配付や、列を整頓してくれて助かった。昨年もだが、受付セットのケース内に記録簿が無かった。食料品・飲料水については1家族に1つでなく、1人に1つでも良いのでは？
318		児童生徒に配布している避難所体験チラシにお土産として1家族ひとつずつもらえると記載があるが、この記載だと全種類ひとつずつもらえるように見えてしまう。1家族どれかひとつもらえという扱いなので、チラシの記載を改めるとともに、展示の際にも「1家族どれかひとつ」といったような掲示物が欲しい。
319		食料配布 子どもだけ配ったら余った。染地小地区はそもそも人が少ないから、各避難所任せにしてはどうか。
320		食料品・飲料水展示で参加者がどのくらいくるのか分からなかったのが、1家族1つで配付していたら余ってしまった。折角、来ていただいたので、1人1つで配付すれば良かった。
321		避難所キット等ボックスが用意されているということについて、こういうものがあるんだということについて、分かるように示し、案内してほしい。
322		2年続けて小学生を対象とした避難所体験を実施しているが、実際に避難してくる人は高齢者もいる。高齢者向けに体験会みたいなものは実施できないのか？

番号	項目	意見等
323	避難所体験	展示会になっている。問題は山積している。トイレ体験も体育館の中でやるのではなく、実際のトイレを使用するなど、実態に近い状況でやるべきである（地域）。
324		職員などの声による発信ではなく、いろいろな情報を確認できる場所をつくる（食事の配膳、トイレのルール・清掃など）。
325		プライベート空間を確保する必要がある（段ボールに仕切り、テント）。乳幼児のいる女性に配慮したスペースの確保。
326		避難所生活の環境整備の計画的実施。
327		それぞれの体験ブースは人手が足りないところが多く、もっと人員配置が必要。ベッドの上で飛び跳ねる児童がいたり、簡易テントの中で遊ぶ児童がいたため、1人で案内するのは大変だった。また、世帯数分の簡易テントや仕切りがほしいという声が体験者からあった。避難所スペースの体験では多くの児童が体験できてよかった。使用済みのアルミシートをそのまま戻してよいのか疑問。体験用のものがあればよい。シートで遊ぶ児童がいるので、1人で案内するのは大変だった。アルファ米をお土産として渡せたのは喜ばれて家でも体験できるので、あってよかった。外のマンホールトイレを見てから、体育館内のトイレを見る順番だったので、みなさんよく見ていた。トイレから出てこなくなる児童もいた。実際にはトイレの事故を防げるように目が行き届くようにしないといけない。哺乳瓶に興味を示す保護者が多かった。蛇腹タイプになっていて月齢ごとに合わせられるもの。家にも備えたいので、蓄電池がいくらするのか？という質問があった。展示しているものなど、家庭にもあったらよいものを紹介できるチラシがあるとよいのではないかと手回しラジオで遊ぶ児童がいて、人が滞留してしまったので、体験させないほうがよいかもしれない。
328		体育館の入室に時間がかかる。あとで清掃するか全面にブルーシートを敷くことを条件に土足可としたい。（訓練に限り）入口とは反対の扉を出口としたい。入口から少し離れたところに受付を設置したい。運営人数が増えれば受付を複数にしたい。
329		毎年やっているが、避難所の運営方法が古い。今は地べたにシートを敷くのではなく、テント、段ボールベット等を使用する等、時代が変わってきている。シートを敷く訓練は、もうやめた方がよい。
330		ブルーシートの下に敷くものが欲しい（痛くて長時間座ってられない。）が全て配置するのは難しい。
331		昨年度、応急給水栓は、給水栓用キャップを外すことができず、訓練ができなかった（給水弁操作鍵穴と給水栓用キャップの凸部にセットしたが、空回りして、開けることができず）。改善されたのか。また、再度応急給水栓の訓練をしなくてよいのか。
332		給水弁操作鍵穴と給水栓用キャップの凸部が修繕されたのか、確認しておく必要がある。修繕されているならば、再度、訓練をしておかなければならない。
333		避難所体験に来てくれた方が、昨年以上に少なかった。周知方法に課題があるのでは？
334		QRコードを使った受付について案内できた。

番号	項目	意見等
335	避難所体験	Q Rコードを出してお待ちくださいと口頭で伝えたら、スムーズになった。「受付でお待ちの際にはQ Rコードをあらかじめ出してお待ちください」と紙にも入れてほしい。 (マニュアルの要望) Q Rコードが苦手な方もいると思われる。受付はQ Rコード、紙、体調の悪い方の3つに分けた方がよい。(マニュアルの要望)
336		年齢の高い方には、入力等大変なため入力の際援助が必要になる。実際の災害時ではスムーズにいかないのではないかな。
337		生年月日の入力が、西暦でスクロールが必要だが、年齢の高い方はずっとスクロールが必要になるため、手入力がい。
338		子どもだけで来た場合の受付はどうすればよいのか？(スマホを持っておらず、Q Rコードでの入力ができない、紙での受付も大人が書く想定で振り仮名もなく難しい)
339		スタッフが聞き取って紙に書くことで受け付ける、と回答したが、子どもだけで来た場合の受付用紙や、聞き取り内容も決めておく必要がある。
340		Q Rコードは良いが。スマホの充電がなくなったらどうするのか？体育館における災害用発電機で充電する。
341		できるとしたら、避難所まで来れない方の登録を代行で行えるのか検討してほしい。
342		受付に行列ができてしまい、2次元コードは配布できると速やかになるのではないかな。行列ができたことで、体験をやめてしまう家庭がある。館内は空いているなどアナウンスが必要。また、学校からもアナウンスしてもらえるとよいと意見があった。スグールでは書いてあるが、学校と連携して声掛けしてほしい。入口で声掛けの人がいたほうが良い。
343		受付で二次元コードを読み取ると時間がかかるので、二次元コードを印刷した紙を渡し、中でそれぞれ入力してもらったらどうか
344		受付で二次元コードを利用して入力してもらったが、入力項目が多く、受付で立ち止まられてしまい、列ができてしまった。発災の際には、多くの人が来場することが想定されるので、受付に支障のないところに、二次元コード入力のためのスペースを確保した方がよいのではないかな。
345		小学生とその家族が、一斉に避難所体験をしに来たため、受付に列ができてしまった。また、Q Rを読み込んで入力をしてもらうのに時間がかかってしまったため、実際の避難所開設時は混乱するのではないかと感じた。
346		外のスロープに並びながら入力してもらえるようにQ Rコードを掲示したい。ラミネートで反射して読み込みに苦慮していたのでラミネート加工していないQ Rコードを用意したい。
347		二次元コードの読み込み・入力に手間取り立ち止まる方が多かった。健康カードが紙だった。一体化できないか。靴袋対応に人員が必要だった。(当日、避難所担当職員・初動要員あわせて8人で人手が足りなかった)
348		受付混雑、解消のためのQ Rコードがあるとわかってもらえば良かったけれど、並んでしまった。参加者が並ばないような工夫が必要。
349		受付時のQ Rコードの入力項目が多いため、入力スペースを設けると良い。

番号	項目	意見等
350	避難所体験	有事の際には受付で滞留させるのはいかなものか。先に避難場所を案内してから、そこで受け付けることができないかとの意見がありました。
351		二次元コードの説明に時間を要した。避難者が多くくる時間帯には、受付人数を増やすなどの工夫が必要
352		生年月日は自由入力の方が良い。（遡るのが手間・時間がかかる）家族の入力は何名までか、上限なし。施設などの団体に避難した場合はどのように入力するのか。・不足物資で選べる選択肢が具体的ではない。その他備考で入力できるが、わかりづらい。各入力フォームに説明文があると良い。スマホの操作に慣れていないと紙のほうがいい。（QRコードの読み取りから手間取る）「同意する」にチェックする画面のタイトルには行政のものだとわかるようにしてほしい。（高齢者は詐欺を疑い入力しないかもしれない。）
353		避難者名簿のスマホ入力について、各項目の説明文が簡略化され過ぎてどのように入力してよいかわからないという意見が多かった。普段スマホの操作に慣れていない方は項目によっては、入力に戸惑う様子が見受けられた（生年月日の入力など）。誰もが初見でも入力しやすいように入力フォームの改善が必要であると感じた。
354		受付二次元コード、入力項目が多い。訓練用には減らしてもよいのでは。
355		受付用のQRコードの質問項目は避難訓練としてやる際は質問項目を最小限にしたらいいか。質問項目が多くすべてに回答しようとする事で、入口に行列ができてしまった。避難訓練用の質問項目を最小限にとどめたQRコードを作成する。
356		QRコードで読み込ませるのはいいが、入力量が多く負担を感じる。
357		受付で、避難者名簿を記入して受付番号と同じ番号のブルーシートを使うよう案内することになると思うが、二次元コードで受付入力しても、避難者名簿の受付番号を入力する項目がない。発災の際には、避難者情報の管理は二次元コードで受け付けたデータで管理することから、名簿の受付番号と一致させておく必要があると考える。今後、受付用二次元コードの入力項目の検討をお願いしたい。
358		避難所名の入力必須となっていないため、自分がどこへ避難したかがわからないのではないかと感じた。「避難所名」も「入力必須」とする。
359		入力する項目が多い。もっとシンプルにすべき。受付に情報が集まってくるが、誰が避難しているか市民から問合せがあった時、対応ができるのか。また、在宅避難者も同様の「避難者名簿」を使用しているが、受付場所が同じところで機能するのか。少なくとも、自宅で避難できない人と、在宅避難している方の受付場所を分けるべき。
360		個人所有のスマートフォンに頼るのはいかなものか。市民の方の約8割が所有しているマイナンバーカードを活用できる仕組みが必要との意見がありました。一方で、マイナンバーカードは任意のため約2割が持っていないことから、これを強制することに対する意見もありました。
361		個人のスマートフォンを使用した避難所の受付について。調布市の独自路線ではなく、マイナンバーカードを活用した受付を検討したほうが良い。また、スマートフォンを持っていることを前提とした仕組みになってしまうことにも懸念がある。

番号	項目	意見等
362	避難所体験	今回、初めての試みだったQRコードの受付について、もう少し事前の情報が欲しかった。例えば、入力後はどのような形式で集約されるのか？ 間違えて入力した場合の修正はどのようにしたらよいのかなど、市民から質問があった際に回答することができなかった。
363		まずは、避難所の受付の役割を整理すること。また、避難者名簿を現場で確認するためのタブレットや、掲示板などを用意する。集めた情報がどのように活用され、確認できるのか、具体的に職員や地域の方に説明することも必要。
364		QRコードを使った受付は、1こちらにどのような情報がどう来るのか、2誤って送信した場合にどう訂正するのか、分からなかった。総合防災教育課に伝えます。
365		設営の時間が短く二次元コードの説明に至らなかった。設営の時間をもう少し設けていただき、事前に職員間で確認できる程度の余裕があるといいと思います。
366		受付時に決裁板のようなものがあるとよい。過去の国勢調査で使用した簡易版の板目を用意するのはどうか
367		マンホールトイレの設営について、体育館内の避難所体験の動線も考慮して設営場所を決めたため、見てくれる方も多かったのが良かった。
368		場所や設置方法の確認ができて良かった。毎年、行う必要はないが、3年毎くらい（定期的）に実施した方が良かったと思った。
369		現代の子は汲み取り式便所を知らないので事前説明が必要。
370		マンホールトイレを、多くの人が避難してきたときにトイレだけ貸すのか、どこまで入ってよいとするのか、はっきりしたガイドラインを出してほしい。
371		トイレの使用方法など、ボードなどを使用し、掲示したほうがわかりやすいのではないかと提案があった。特にマンホールトイレの設置は、1年に1回程度では忘れてしまう。男女の具体的な分け方はどうするのか？車いす用のトイレは組み立てが難しい？などの質問があった。
372		マンホールトイレは、きれいに使ってもらえるようにする必要がある。入口に順番の管理について明示し、使い方の説明をする人がいた方がよい。
373		マンホールトイレの男女の分け方、自分で流すルールなどをトイレの使用前に伝えた方がよいと考えたが、実際にどこまでお願いできるかは課題である。
374		子どもが使用するには便座が大きすぎる。便座に乘せる子ども用便座もセットになっていると良い。
375		マンホールトイレの一式に子ども用の便座もセットになっていると良い。
376		マンホールの開け閉めや水道の開け閉めに相当の力が必要となる。流すタイミングが分からない。部品の不備があった。マンホールトイレの設営に限らず、どの程度まで水を貯める必要があるのか、立て続けに使用できるのかなど実践に即したマニュアルがあるといいと思います。
377		マンホールトイレのマンホールの蓋の開け方のマニュアルが無い？開けるためには何を使用すればよいかわからなかった。マンホールトイレのマニュアルに記載あり。

番号	項目	意見等
378	避難所体験	マンホールトイレの設営時、上水の栓が開かなかった。
379		マンホールトイレのフタが開けづらいため、訓練で実践できてよかった。マンホールは穴が埋まっているところにボールを押し込んで開ける。避難者受付名簿について電子化は良いのだが、入力項目が多く感じて大変だった。
380		マンホールトイレの設営時、上水の栓が開かなかった。また、一番必要なもののなのに、設置が大変である。学校の水栓に合う工具を設置してください。また、トイレの特にテントの設置が大変なので、もっと簡単にできるようなものをお願いします。
381		マンホール蓋の定期点検が必要である。
382		実際はどのくらいの水でどのくらい流れるのか、活用はされているのかなど、事例を知りたい。
383		マンホールトイレについて、実際はどのくらいの水でどのくらい流れるのか、活用はされているのかなど、先進事例を知りたい。先進事例を調査するか、もう把握しているならその情報を、地域の方に共有してください。
384		水道が止まった際に、マンホールトイレで使う水は防災井戸からバケツリレーで運ぶことになっているが、マンホールトイレの設置場所から遠いという課題がある。参加児童から、隣接しているプールの水を使えばいいのでは？という意見があったため、実現可能であれば参考にするのもよいと感じた。
385		マンホールトイレの10か所にちゃんとテントが張れるのか？間隔が狭い気がする。また、テントも10個防災備蓄倉庫に入っているのか、点検したほうがよい。マンホールトイレで使う水は防災井戸から運ぶことになっているが、プールのほうが近く、プールの水を使えばいいのでは？と参加した児童から意見があった。
386		避難所体験準備について、補充する水が足りないのではないかと。傾斜がゆるいので、バケツでくみ上げて流してもどうしても溜まってしまうのではないかと。
387		排泄物がたまったら流す方式だと水が足りない。随時流しておかないといけなため、やり方について再考が必要と考える。都市公園のように井戸から水を流したい。未就学児が便座にはまっている様子が見受けられた。子ども用補助便座を用意する。
388		マンホールトイレに水が貯まるまで時間がかかる。男女別で設置することが必要では。男女別が掲示できるようなものを準備してほしい。
389		マンホールトイレの便座をねじで地面に固定できた方がよい。マンホールトイレの水が足りるか心配。マンホールトイレの個人用のテントが見当たらなかったのを探しておいた方がよい。
390		水をバケツで10杯以上給水しても、ゆっくり流れる程度の流量しかない。流すことよりも便器に簡易トイレを置いて使用する方法を優先し、簡易トイレの備蓄を増やした方がよいのではないかと。下水道の使用可否を確認しないとマンホールトイレは使えない。当初は簡易トイレとして使用した方がよいのではないかと。（※大田区まで全ての下水道が生きているかの確認はすぐにはできない。）また、汚した時の対応としても、簡易トイレのほうが扱いがよい。

番号	項目	意見等
391	避難所体験	流すにはかなり多くの水量が必要であり、井戸水を汲む労力を考えると現実的ではないとの意見が多数あった。
392		避難所開設後に下水道自体が使用できるか市からの連絡が必要。
393		防災井戸の棒がない。
394		外のマンホールを開ける際に、バールが必要なのですが、学校職員がいない場合、職員以外でもわかるように、備蓄倉庫にバールをわかるように保管してほしい。
395		マンホールを開ける器具の格納場所をマンホールトイレと同じ倉庫にしたほうがよい。マンホールを開ける器具は応急給水栓で使用する器具と同じで、応急給水栓の道具とマンホールトイレが別の倉庫に格納されている。格納場所を再検討すべき。
396		上水の詮を開ける棒もなかった。
397		ハンマーがないと開かないマンホールだった。防災井戸の棒がない。
398		トイレの衛生維持をどのように維持するのか
399		マンホールトイレがすぐ汚くなりそうである。掃除当番や定期的な水流しを考えた方がよい。
400		実際に避難所を開設した際、トイレの汚物など、近隣の家の迷惑にならないように…とはいえ、どのあたりに集めておくのが望ましいのか。遠くても大変で、臭いが気にならない場所というとな難しい。
401		大勢が使用するとすぐに汚れるので、当番を決める必要がある。（役割分担・一度汚れると大変）
402		車いす用の大きなトイレは組み立てがうまくいかなかった。慌てたときほど取扱説明書を見た方がよいと感じた。
403		テントがどうしてもうまく固定できなかった。力の弱い高齢者にも作れるように、もっと簡単な仕様にしてはどうか。特に車いす用テントの4隅が固定ボックスの位置に合わなかった。工具がないと固定ボックスの蓋が開かないので家からドライバーを持参したので、ドライバー、蛇口の頭部分、ホースなども、セットで置いておく。蛇口のひねり口が外されていたので、水が流せず、じょうろに汲んできて流した。
404		テントの部品がバラバラに入っていた。テントはもう少し小さくて、軽量なものがないか（設営が困難）。前回使用した際の不備によるものかもしれませんが、必要な部品が使用できる状態で整理されていることが大切だと思います。
405		マンホールトイレの作業が一部の職員に偏っていた。全員ができるように訓練すべき。
406		職員の中には「マンホールトイレは初動要員がやるべき」と言い続けている者がいる。「全員でやるべき」と説明しているが、理解を得られていない。
407		防災倉庫からの運搬や避難所設営（マンホールトイレ設営）に時間を要したため、職員のレベルアップが求められる。
408		マンホールトイレの事前説明会の中やリーダー説明会などでの情報共有をお願いします。
409		防災井戸が壊れたままなので直してほしい。

番号	項目	意見等
410	避難所体験	水源、マンホールトイレ、体育館の距離的なバランスが悪い。マンホールトイレを体育館横に設置した場合、井戸やプールから遠い。マンホールトイレをプール横に設置した場合、体育館から距離が生じる。
411		マンホール上に設置しても、簡易トイレ方式（凝固剤使用）で利用するのが良いのでは。
412		【誘導】積極的に見たりするよう学校側からの案内や案内方法を検討してほしい。展示を見てもらえるよう誘導したが、関心がなく帰宅する人が多かった。【マンホールトイレ用ホース】備蓄倉庫にマンホールトイレ用のホースを用意してほしい。今回は学校のポンプ室にあるホースをマンホールトイレ用として使用したが、ポンプ室には鍵がかかっている。学校の担当職員は遠方に在住のため、災害時に来れなかった場合取り出せない。【バケツ】バケツが備蓄倉庫になれば用意してほしい。防災槽の水を使用することになった場合はバケツが必要。
413		参加者が少なかった。テントをつけたことで入りにくくなり見るだけになってしまった。テントなしのトイレを作るか、体験目的なら数を増やすことを検討したい。テントのファスナーが低学年だと上まで手が届かない。ファスナーの持ち手のひもを長くしたい。コンクリートにペグが打てるか。トイレの固定用のペグ等道具があることはわかっているが、実際にやってみた方がよい。案内板が劣化し読めない。案内板の劣化は昨年度も報告、改善を要求している。塩ビ管（地区協議会の私物）がないと井戸からの給水ができないが、繋ぎが悪い。塩ビ管は市で作ったほうがよい。
414		校庭西側に設置してある防災井戸が使用不可（呼び水を注ぎ手押しポンプを数分間作動も水が上がってこない）なので修理が必要。使用不可を報告します。
415		防災井戸が使えなかったので整備してください。マンホールトイレに注水するため井戸を使おうとしたら、水が出なかった。水道が使用できたので訓練に支障はなかったが、井戸も使えるように整備してください。
416		校庭で設置をしていたので、たくさん見学に来てくれると思ったが、アナウンスが少なかったのか来てくれる人が少なくて残念だった。
417		マンホールトイレを初めて設営したが、また1年後にできるのか不安がある。
418		調和小のマンホールトイレの脇に非常電源の装置があったがそれはハイブリッド発電機用か？⇒マンホールトイレの夜間使用時の照明用です。（総合防災安全課より回答）
419		マンホールトイレの取扱い等を掲示した看板（※）について、日焼けや劣化で、内容を確認することができない。※マンホールトイレ設置個所、北側（道路側）にある看板。日陰に新しいものを設置願います。
420	マニュアル	羅針盤のメッセージ機能の活用には疑問を感じます。市正規職員のみしか使用できません。さまざまなアプリ等（従来の参集システム、羅針盤メッセージ、VACAN、LINE NETWORKSなど）を活用するのは便利な一方、業務ごとに違う手段で報告・連絡等を行うことになるため、現場が混乱する原因につながると感じます。
421		これまで活用してきたアプリ等との統合や改善、使用中止も含めて検討をお願いしたい。

番号	項目	意見等
422	マニ ュ ア ル	避難所開設マニュアルに配置図を入れてほしい。体育館用の見取り図の大きいA0が欲しい。地域協議会でも検討する。
423		避難所リーダーが全て訓練を主になって実施するという意識が全体にあると思うので、説明会や資料等に役割分担を明示してもらいたい。
424		避難所体験の片付けの前にマニュアルにない教員と市職員、地区協の顔合わせ兼あいさつの時間があった。毎年行っているようなのでマニュアルの工程の中に追加したらどうか。
425		発災後、避難所開設前までの対応マニュアル（地域の方・学校職員向け）を作成する。掲示物について、カラーバリアフリーに配慮する。
426		●小マニュアルの更新が必要である。
427		避難所を開設した後、直ちに運営上の問題が発生することが予想されます。開設後の運営についてマニュアル化や訓練が必要です。
428		全体をとおして、あえて改善点を見つけようとする視点でやれたのはよかった。また、決めないといけないことがたくさんある。改めて総合防災安全課と一緒にガイドラインをじっくり作るというのがいいと思う。
429		避難所運営マニュアルの早期改定（しかし、市立若葉小学校・第四中学校・図書館若葉分館施設整備PFI事業により、建て替えを控えており、建て替え後は、また1から作成する必要がある）
430		図上訓練の内容と運営マニュアルの内容が異なっている。マニュアルの更新が必要。今後のマニュアル改定を検討すべき。
431		リーダーセットの袋に「リーダーセット」と書いてあると良い。実際にこのスケジュールでやってみて改善して欲しい。まずは体験ブースの準備をしておかないと、子ども達が帰るタイミングを逃してしまう。
432		避難所開設時の優先度を踏まえて、適切な場所に物品を保管してほしい。あわせて、マニュアル等も更新をお願いしたい。
433		資料の部数が不足していた。自治会の方は、持ち帰りを希望していた。
434		リーダーセットが何なのかわかりにくい。スケジュールに無理がある。
435		シートにマニュアル参照と記載があるものがあるが、常時マニュアルを携帯していない。
436		避難所体験については、学校を通じ事前のチラシ配布は行っているが、今後、更なる呼び掛けを行っていく。
437	掲 示 広 報 案 内	避難所ルールや情報発信をするための掲示場所の設置。
438		●●●小の北門にも掲示が必要。
439		避難所利用者のための避難所内のルールを定めた張り紙を準備して欲しい。
440		備蓄倉庫前か？早めにピロティにはコーンを置き、「立入禁止エリア」と表示したほうがよい。
441		体育館の入口付近に滞留してしまっていたので、案内があれば良かった。
442		今後、保護者をどうやって取り込んでいくかが課題。

番号	項目	意見等
443		地区協の展示に限らず、来場者が少なかった。あまり見られるものではないのでもっと見てほしい。学校がどう呼び掛けているかわからないが、学校側で来場の呼びかけをしてほしい。より多くの人に体験してもらうための工夫が必要だと思う。周知の方法を工夫する。
444	掲示・案内	より多くの児童・保護者に参加してもらえるように、事前のお手紙、当日学校からのアナウンス、体験場所への誘導があるとよい。特に学校からアナウンスがあることで、体験して自分事としてとらえてもらえるのではないかな。授業は1、2時間目が保護者も参観できるようになっている。3時間目は避難所体験としてもいいのではないかな？なかには「寄ってもいいですか？」と声をかけてきた人もいた。周知がたりてないと感じた。
445	広報	障害にもタイプもいろいろある。ひとまとめにせずエリアは分けた方がよい。例えば歩行困難な方や老人の方は移動の少ない1Fに。要支援（例として音に非常に敏感等でパニックになる方）などは2Fのある程度閉鎖的な空間で過ごしてもらうなど）配慮を要する方（具合が悪く 発熱している方）にとって、移動距離の長い3Fへの移動はつらくないか。校内敷地も急傾斜があるので、車いすの方へのルートは今一度考えてほしい。←校内改築の際にはバリアフリー工事（エレベーター設置やスロープの設置等）必要と思われる。
446		知的障害も要配慮に入るか（来場者からの質問）。要配慮かどうかは自己申告か？要配慮は自己申告。要配慮エリアは4教室分あるので、肢体不自由とは別の部屋を提供できれば行いたい。
447	要配慮者	発熱等要配慮者の区画としてWCがあるが、実際どのように使用するのか。使用禁止にした方がよいのでは。要配慮者に授乳中の市民は入るのか。
448		発熱者を受け入れた後にどのような対応が必要か。
449		要配慮者のため、ある程度の体制が整ったら東門を開けたほうがよい。白地に黄色字は見にくい。
450		配慮を要する情報に服薬とあるが、服薬管理の必要性の有無、薬の内容等記載する箇所が必要。
451	様式関係	参加者の人数カウントができる資料があると数えやすい。（去年はあったようだ。資料が足りなかったのか？）
452		避難者受付を二次元コードとしたので、健康チェックカードも一体的にしてほしい。
453		健康チェックカードだけ紙であるのはなぜか。
454		避難者名簿と同様に健康チェックシートも同様にしないと意味が無いのでは？健康チェックシートもスマホできるように改善するといいいのでは。
455		資料や紙のたぐいは、バラバラのケースに入れるのではなく、一つのケースにまとめていれてはどうか。
456		現状のシステムで対応可能か報告。
457		倉庫から体育館内への導線が狭く、ぬかるんでいるなど怪我をせずスムーズに運ぶことが困難であり、早急な施設改修が必要である。

番号	項目	意見等
458	学校施設・備品等	倉庫から体育館内への導線が狭く、コンクリート段差があり、ライトもなく、ぬかるんでいるなど怪我をせずスムーズに運ぶことが困難であり、早急な施設改修が必要である。毎年、意見しているが、全く改善されておらず、今、この場で発災したら、どうなるか非常に心配である。
459		体育館や教室の窓にはガラス飛散防止フィルムが貼られているのか。もし貼っていなければ、早急に対応してほしい。
460		体育館横から倉庫までの導線の足元が不安定で危険。段差が多くあるので、導線なるべく平らにして安全な状況を確認にしてほしい。この要望は以前からしている。段差にスロープを設けるなどして、歩きやすい環境を整備する。
461		倉庫の鍵は鍵ボックスの中にある。その鍵ボックスのある場所が蓋のない側溝の上にある。鍵ボックスを開けるのに不安定な側溝の上に立つのは危険なので蓋をしてほしい。側溝上に蓋を置くなど足元を安定させる。この要望は以前からしている。
462	避難の考え・周知	周知で体験内容を明確にすることで、多くの参加者が見込めるとともに啓発も強く打ち出せる。
463		地域支援拠点は必要。避難所に避難した方だけでなく、在宅避難している方の把握方法、食料品や飲料の配布場所・方法など、何も決まっていない。
464		自治会や地区協では、地域の方々に対し、「自助・共助・公助」を伝え、震災時にはなるべく自宅で過ごせるように備蓄品や転倒防止器具など揃えるよう案内してる。学校でも子供たちに対して「自助・共助・公助」という説明をして、浸透させてほしい。
465		避難所のキャパシティを見ると、在宅避難が求められている。在宅避難者への支援を明確にしてほしい。訓練を実施すべき。
466		先述に記載のように●●小学校地区は大半が在宅避難が想定されるので、避難所ではなく情報拠点や避難対策拠点などの呼称にしたらかうか。
467		●●小地域の主となる●●●住宅は高齢者が多く、避難所へ行くよりも自宅避難がほとんどであり、地域の実情に則した訓練方法も考えていただきたい。在宅避難者に対する訓練を実施してほしい。在宅避難の場合の食糧需給、ごみの問題などの対応方法などを想定した訓練としてほしい。在宅支援の場合はどのような対応をするのかを図上訓練の中に盛り込む。
468		市と協定を結んでいる●●●●●の職員が見学に来たが、市から事前に情報が欲しかったとの意見を受けた。地区協議会のみならず、もっと広く周知をすべきである。
469		第三中学校は風水害の避難所には指定されていないが、台風19号の際には、水が引いた後に第三中学校が開設されたとのことであった。当時は風水害時の避難所は第二小学校であったが、すぐいっぱいになり、避難できなかった人が多かったため、避難所開設状況が把握できるとよいという意見があった。←V A C A Nがまったく周知されていないため、周知されれば、このような意見はでないと思われる。

番号	項目	意見等
470	避難の 考 え 方 ・ 周 知	風水害の避難所には指定されていないが、2019年の台風19号の際には、水が引いた後に●●中学校が開設された。避難所として開設されているのか、いないのかが分かりづらい。風水害時の避難所は二小だが、すぐいっぱいになり、避難できなかった人が多かったということで避難所開設状況が把握できるとよい。
471		【実際に避難所開設する場合について】避難所に駆けつけた人の集合場所はどこになるのか。発災時にはピロティは崩れやすく危険なため場所を決めたほうがよい。
472		開設準備と、開設完了の二段階で連絡する仕組みがほしい。（どのように連絡がいくのか、対象やタイミング、役割など、分からないので説明してほしい。）
473		【実際に避難所開設する場合について】連絡手段について、地域の人にも避難所設置完了ではなく、避難所開設する旨わかるものが欲しい。「準備を手伝う」人がくるタイミングのための通知を発信した後に、開設連絡をしないと、避難する人が一斉に来てしまう。夜間や休日は職員だけだと人が集まらず避難所の設営に時間がかかるので、設営時点から手伝いで地域の方を召集できる仕組み作りが必要なのは。地域の方も連絡手段があるので、そこを活用した避難所開設をしたほうがよい。
474		この避難所の避難者想定人数は何人か、また超えた場合は受け入れ拒否などの措置をとるのか質問があった。※地区協連絡会で回答希望とのこと。
475		南門から避難してくることを想定し避難所開設訓練をしているが、北門側に住む方、三鷹市、世田谷区などの他自治体から避難する人が南門に回ることの是非、検討が必要。
476		避難所を開設するまでの間、避難者が校庭で待機することを想定したほうがよい。避難所開設後、避難者が受付のため再度正門に行くことが効率的なのかについて検討が必要。
477		児童、保護者が喜んでくれて非常に有意義であった。
478		保護者からは家の防災グッズを見直す良いきっかけとなった、色々体験出来て面白かったなどの声も聞いた。
479		今回の訓練に参加して、避難所開設までの一通りの流れが分かったので良い機会になった。
480		避難所開設訓練は多くの方で参加することが大事である。来年以降も多くの方が参加した形で訓練したい。
481		緊急時には誰もが同じ状況と思われる。少しでもできるであろうことを増やしていく目的で訓練を行っているため、継続して訓練していくことが大事である。
482		児童数を考えると全員がこの体育館に避難することは出来ないと言った校長先生から話があった(教室等も使用することになると思うが…等々話した)。
483		昨年度も書いたが、報告書で地元からの要望等を挙げても、その後特に回答もなく、今年度の訓練などにも反映されていない。検討された結果、不採用となったのか、検討もされていないのか教えてほしい。各避難所から出た質問、意見等とそれに対する回答をまとめたものを出してほしい。
484		毎年、●●小と一緒に訓練をしているが、●●高校での訓練は一度もしていないので、担当として非常に不安である。

番号	項目	意見等
485	訓練内容	毎年、この訓練を終えて、不安な気持ちで帰る。安心できない。見せるためだけの訓練になっている。
486		スマートフォン（緊急対応用携帯電話）のラインワークスを使用して、避難所担当管理者が教育総務課へ終了連絡を行った。
487		実災害を想定して、現場本部をつくった方がよい（●●小と●中一緒）。情報を一極に集める。避難所運営本部長は誰がやるのか（マニュアル策定時には、市の職員は入っていなかった。マニュアルの整備を。本部長は地区協になるわけない。）。
488		耳が悪いのでメガホンを使用してほしい。過去に意見があったはずなのにどうして使用しないのか。
489		訓練中はメガホンを使ってほしい。
490		学校の授業は2時間目で終わり。避難所体験に併せた保護者への引渡しまで1時間あいてしまう。準備の行程はもう少し短くならないか。何年も開設訓練が続いている。開設後は、汚物処理等の生活上の問題等も出てくることから運営時期を想定した訓練をする必要があるのではないか。
491		これまでの多くの意見を出したが、全然訓練に反映されず、ただ決められた時程をこなしている感じである。日頃からの体制作りが必要であるが、これまでの意見に対してフィードバックがされておらず、せめてそのリアクションがほしい（地域）。
492		毎年、意見に対するフィードバックを必ず行ってほしい。
493		来場者に対する職員の数が足りていないことについて改善要望についての意見（地元の方、職員から）私用都合による欠席、業務都合による欠席、新人職員が他地において訓練を受けていることにより、割り当てられた避難所で不在となることなど【参考】●●●●小担当14人中、当日の参加者は8人（統括役である管理職を含めても出席率は57%）
494		長く●●●小学校を担当していた職員が不在だった（異動した？）こと、学校職員の参加が一名のみだったこと、リーダー・初動要員が全員初めての避難所だったことから、設営の手際に大きく影響があった。無断欠勤もあり、当日男性職員が2名しかおらず、女性職員が中心となり、運搬や背の高い備品の設置が難しかった。私は初めて参加し、防災教育の日の業務自体は、実際の避難所開設の前に経験しておく必要のある業務と感じたが、年々職員の参加が減っている印象がある。欠席のハードルを上げる（例：欠席の際は事務連絡を提出）、参加のハードルを下げる（例：平日実施）等、変更が必要だと感じた。
495		今回、リーダーが急きょ訓練当日に来れなくなってしまったが、サブリーダーを中心に参加者がまとまって対応することができていたと思う。災害が起こった際には、訓練でいつも中心役となっている職員や地域の方が来れない場合も十分考えられるので、参加者一人ひとりが主体的に考え、行動することがとても重要であると感じた。
496		市職員の欠席者が多い。4月第4土曜日に決まっているのだから、積極的に参加させるべき。

番号	項目	意見等
497	訓練内容	初動要員の方はきちんと参加するが、避難所担当職員の欠席が多い。人事課が市職員としての責務を認識させるための研修を実施する等、参加しない職員の意識改善を行うべきだと感じる（人事評価への反映など）。
498		リーダーと初動指揮者向けの研修（4/13）について、リーダーと初動指揮者がいずれも出席できなかった。サブリーダー等をお願いをしようとしたが、担当職員一覧が共有されておらず、連絡ができなかった。総合防災安全課に連絡し、その時点での情報を得て対応した。
499	職員体制について	異動等で、昨年度から多くのメンバーに変更があった。事前に連絡・調整が行えるよう、担当職員一覧は公開されている場所で、速やかに更新をお願いしたい。
500		防災教育の日は"原則"全員参加のはずだが、説明会を含め、参加しない職員がいる。参加している職員は、年度当初の繁忙期の中で、業務等を調整して参加している。欠席した職員の欠席理由は真にやむを得ないものなのか、確認してほしい。各避難所には最低限必要な人数が割り当てられており、人数が少なくなると、他の職員の負担も増加し、予定していた訓練が実施できないこともある。また、"原則"全員参加が求められている中、欠席することは市職員としての服務上、問題ないのか。もし、業務都合を理由に欠席するのであれば、所属管理職や市全体として、全員参加できる体制を整えてほしい。※地域の方からも、欠席する職員についてご意見をいただくこともあった。
501		学校事務員の方が4名中2名が当日欠席で、1名が不慣れだったこともあり、残りの1名が事前準備をすべて行ったとのこと。「事務員のうち1名が毎年当日のみ欠席しており不公平感を感じる」との訴えがあった。
502		毎回当日のみ欠席する事務員については、本人の資質の問題に感じる。災害時にそのような無責任な対応をされては困るので、配置継続すべきかどうかも含めて要検討。
503		訓練当日の人員の拡充が必要だが、困難であれば、訓練内容をもう少し簡易的なものに変更することも検討されたい。
504		訓練の人員体制について、新人職員のほか、所管業務のため毎年参加できない部署の職員もいるとのことであり、訓練の内容に対応するには人員が不足している。
505		初動要員・避難所担当職員として配置された新規採用職員について、今回の訓練では本来の担当避難所ではないところにまとめて参加していた。避難所に係る業務は、特段の事情がない限り、例年、防災教育の日のみである。せっかくの機会を別の避難所で消費してしまうのはいかがなものか。
506		午後の予定やそれに伴う交通手段の兼ね合いもありますが、可能な限り本来の避難所で新規採用職員が訓練に参加できるようにしていただきたい。
507		新入職員の訓練について。●●中学校には初動要員となっている新入職員がいるが、別の学校に派遣されていた。他の初動要員との顔合わせもできず、せっかくの機会がもたないことになってしまった。
508		新入職員を訓練に派遣する場合、初動要員となっている学校へ優先的に派遣する。
509		各担当作業に充たるため、指示を仰ぐ人を明確にした方が良い。ビブスなどで誰もが分かるようにするなど。

番号	項目	意見等
510		長年の課題だと思うが、避難所に位置付け、初動要員・避難所要員を任命している以上、災害時の行動を明確にし、各担当者が悩まなくていいように、しっかり説明することが必要である。
511		「設営や片づけ等、皆で手分けして動く際、誰に指示を仰げばよいかわからない場面があった。ビブスや腕章など、指示出し役がはっきりわかる工夫が必要ではないかと感じた。」という意見あり。（自治会）
512		避難所体験の設営準備は初動要員指揮者と初動要員が中心になって実施したほうが実践的でよいのではないか。避難所リーダーと避難所担当職員は避難所が開設された後の運営を任されることになると思うので、訓練では応急給水栓やマンホールトイレの設置などを中心に訓練したほうがよいと思う。役割を分担することでもっと実践的かつ効率的に訓練を実施できるのではないかと感じた。
513	職員体制に	校長先生と意見交換をしたが、地域の方が避難所を開設できるようにするべきという御意見だった。学校避難所対応職員を他の市職員と同様に考えていたが、言動が他人事のようだった。マニュアルに目を通したうえで訓練に参加するように学校避難所対応職員に周知してほしい。新入職員を含んだ人数の参加を想定していたが、当日まで誰が新入職員なのかわからず、当日の出欠確認で新入職員かもしれないという話になった。学校配属の市正規職員を避難所リーダーにしてほしい。学校との調整や学校配置の会計年度任用職員への指示もスムーズにできると考える。投票所引継ぎノートのような避難所ごとに引継ぎの記録がほしい。パスワード設定できるものがよい。出席表に新入職員のマークを付けるか、新入職員を名簿から外してほしい。
514	ついで	【実際に避難所開設する場合について】よその地区協で話題になったが、実際に避難所開設する際に初動要員がそれぞれ自分の任務のためにその場からいなくなり、残された地域住民はなにをしてよいか分からないという事態になり、困ってしまったと聞いている。
515		初動要員はマニュアルどおりに動くだけでなく、地域住民に指示出しをしてほしい。
516		避難所開設は、市職員と地域住民との連携が大変重要と思う。その中でも、市職員が指示を待つのではなく自らの意思で目的をもって行動する、主体的な行動が高く求められると思う。そのようなことから、唯一、全体で取り組む防災教育の日の避難所開設訓練には、多くの職員が参加する必要があると思う。人事異動も近く、人員配置など大変難しい時期ではあると思うが、市全体として取り組む最重要な事業と捉え一人でも多くの職員が参加されるように、意識の醸成を図り、一人でも多くの職員に参加し経験を積んでほしいと思う。（地域の方は、職員を頼りにしています）
517		避難所運営は、最初は担当職員にやってもらわないと、地域住民だけではどうしたらよいか分からない。訓練はしているが、緊急時に高齢者は主体的に動けないが現実だと思う。
518		施設の所管が東京都のため、訓練等できない事情があるなら、せめて、●●高校に配置されている職員の職務（●●高校の図面、備蓄の状況、鍵の場所等）を紙ベースでいいのでわかるようにしてほしい。このままでは、発災時に対応できない。

番号	項目	意見等
519	職員体制について	事前準備や当日の進行等、リーダーになった職員の負担は非常に大きい。（当課のリーダーは勤務時間中に担当校に出向き打ち合わせ。当日の資料づくりや進め方の確認などをするので、本来の仕事ができなく時間外勤務。それでも終わらないので、防災教育の日の資料読み込みなどは、自宅で行っていた。）また、人事異動のたびにリーダーが変更になるのは効率が悪い。せっかく学校の特徴や地域の方との関係が築けたのに、リーダーが変わるたびにまた関係を築くのは効率が悪い。別のしくみを考える必要がある。
520		誰かをトップにしてその人に判断の責任を負わせるのは重すぎる。危険箇所だけのチェックで開設を判断することになっており、その場にいる人の合議で決めるしかないのではないか。
521		当日、欠席の職員が多いため、勤務した職員の負担が大きい。（年々勤務する職員が少なくなっている。）災害発生時には、現状の職員人数では対応できない。部単位での張り付けではなく、再任用、会計年度任用職員を含め、全職員の配置が必要ではないか？また、学校職員の勤務基準が不明確。会計年度任用職員は市事務、市栄養士、調理員。指導室所管の会計年度任用職員は該当しないのか？また、都の事務補助でも人により勤務になるのか？学校職場から不満の声があがっている。
522	その他	副校長を含む、参加者全員に一言ずつ意見・感想を言っていた。
523		2回目の参加、1年前のことをなんとなく思い出せた。
524		本報告書の提出期限について、本様式下部には5/8（金）とありますが、説明会のスライドには5/13（水）と記載があります。次年度は統一願います。
525		避難所にいなくても（来れなくても）救援物資や情報を得られるような仕組みにしてほしい。

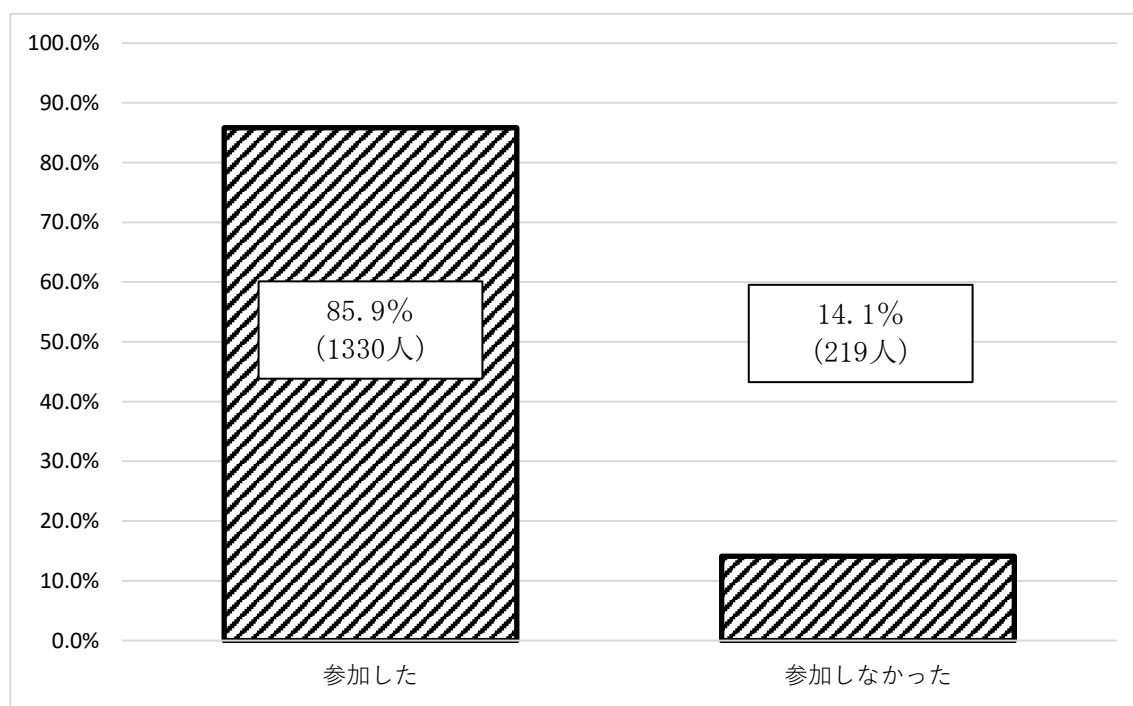
2-3 保護者アンケート実施結果

防災教育の日における趣旨やねらいの理解度や、防災に関する意識の高まりなどを把握し、次年度の取組に繋げるため、保護者の方を対象にアンケートを実施しました。

◆アンケート結果

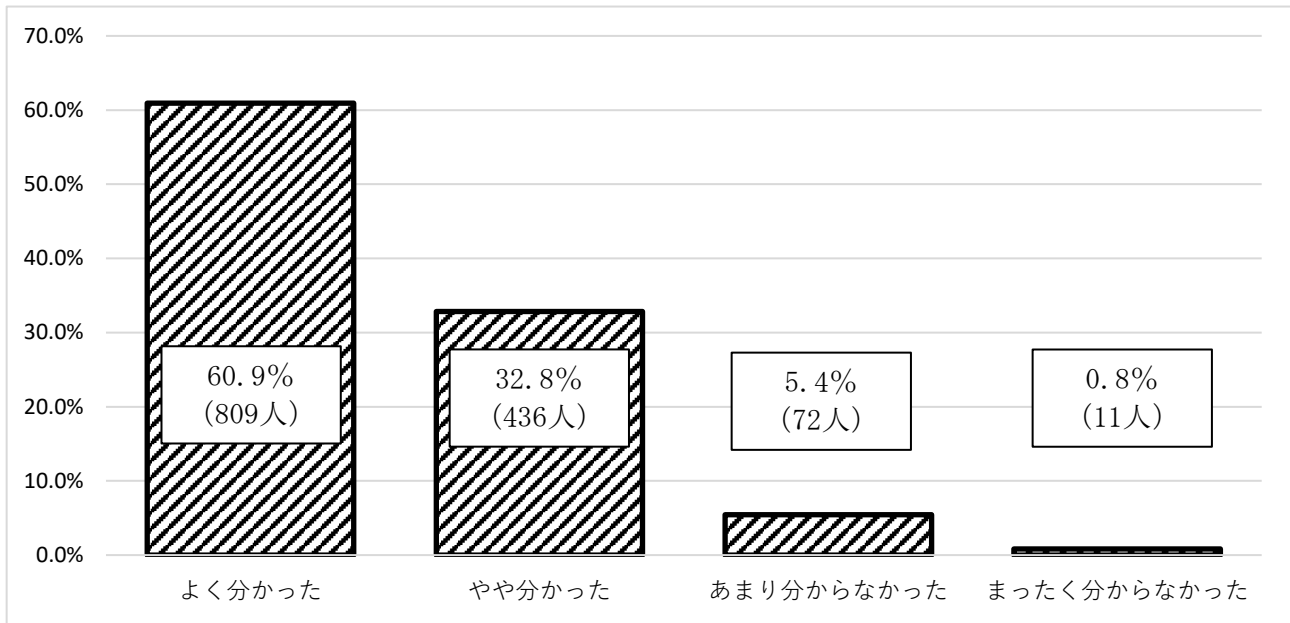
実施期間	令和8年4月25日（土）から5月8日（金）まで
対象者	市立小・中学校に在籍する児童生徒の保護者 （「すぐーる」登録済みの方） 回答者数1549人（配信者数12075人）
実施方法	「すぐーる」により配信した「L o G o フォーム」アンケートフォーマットにより回答
その他	設問1は回答必須としたが、それ以外の設問は任意回答とするとともに複数回答可としたため、各設問の回答人数は一致しない

●設問1：令和8年度「調布市防災教育の日」に参加されましたか。（回答人数：1549人）



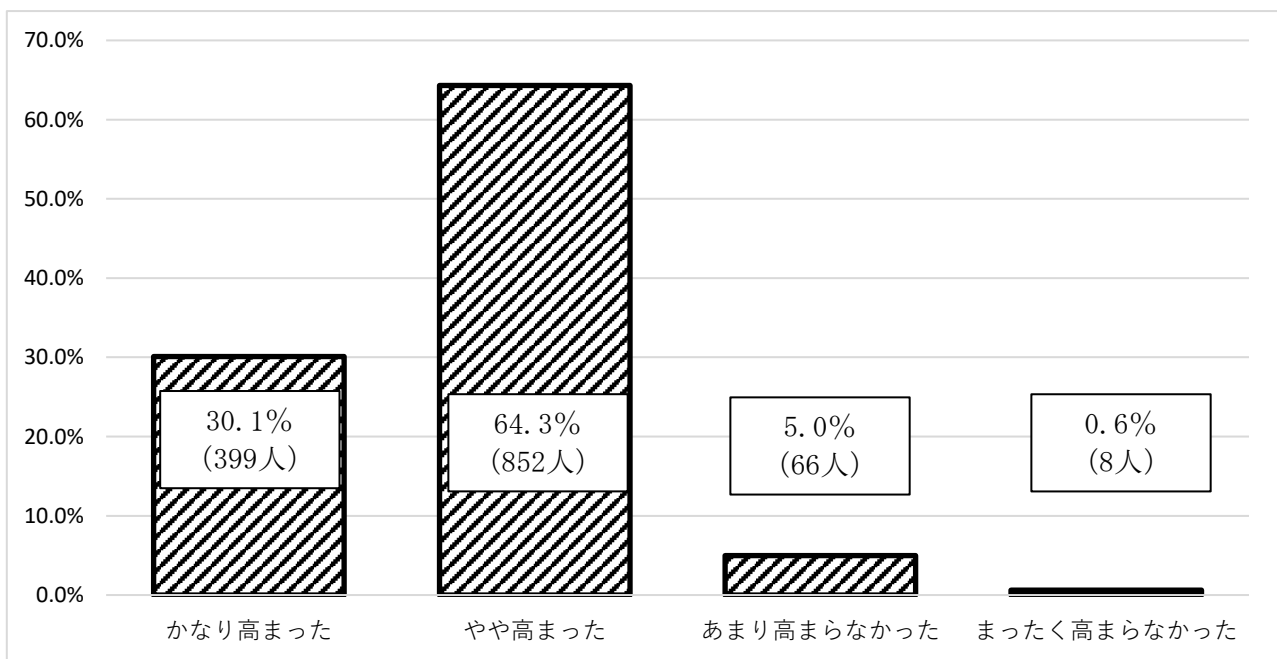
アンケートに回答した保護者のうち、1330人（約85.9%）の方が、防災教育の日に「参加した」回答しました。

●設問2：「調布市防災教育の日」は「東日本大震災の教訓を忘れない」を「ねらい」としており、①「命の尊さ」について学ぶ、②「自らの命は自らが守る」という意識を高め、児童生徒自身が自助、共助のために必要な知識や行動様式を身に付ける、③「地域と一体となった震災対応システム」を構築することを目的としています。このねらいや目的を御理解いただけましたか。（回答者数：1328人）



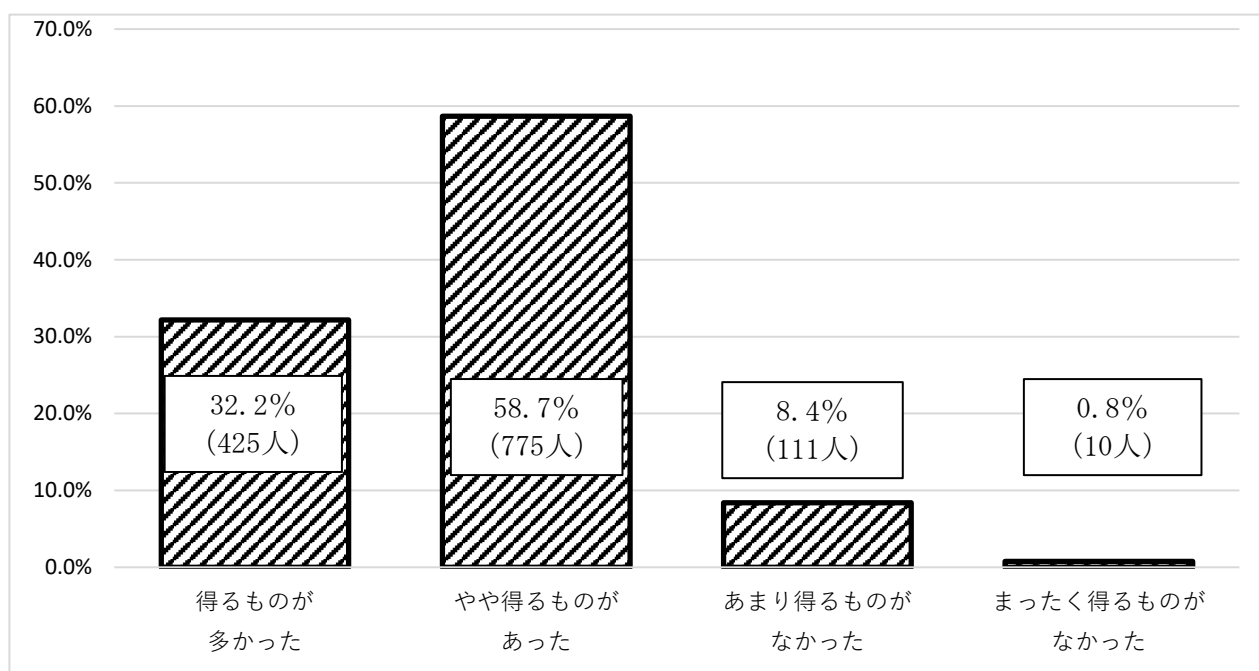
「よく分かった」又は「やや分かった」と回答した保護者数は、全体の約93.8%に当たる1245人となりました。

●設問3：防災に関する意識が高まりましたか。（回答者数：1325人）



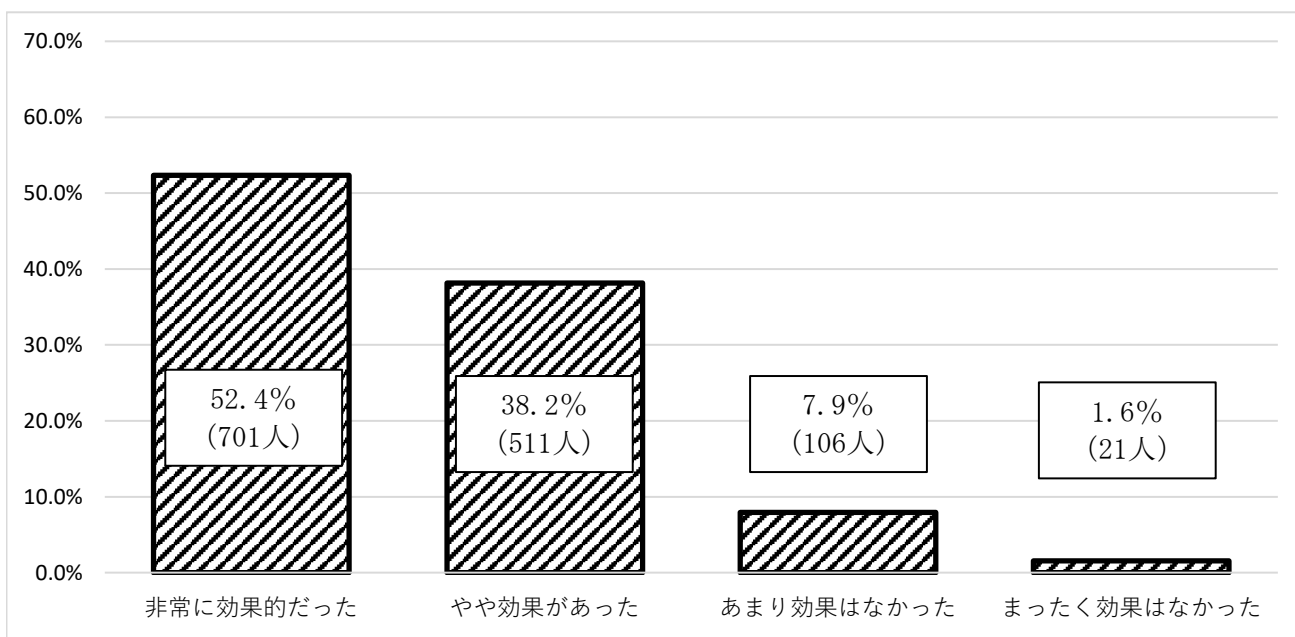
「かなり高まった」又は「やや高まった」と回答した保護者数は、全体の約94.4%に当たる1251人となりました。

●設問4：防災に関する知識や技能、防災教育への理解など、得るものがありましたか。
(回答者数：1321人)



「得るものが多かった」又は「やや得るものがあった」と回答した保護者数は、全体の約90.8%に当たる1200人となりました。

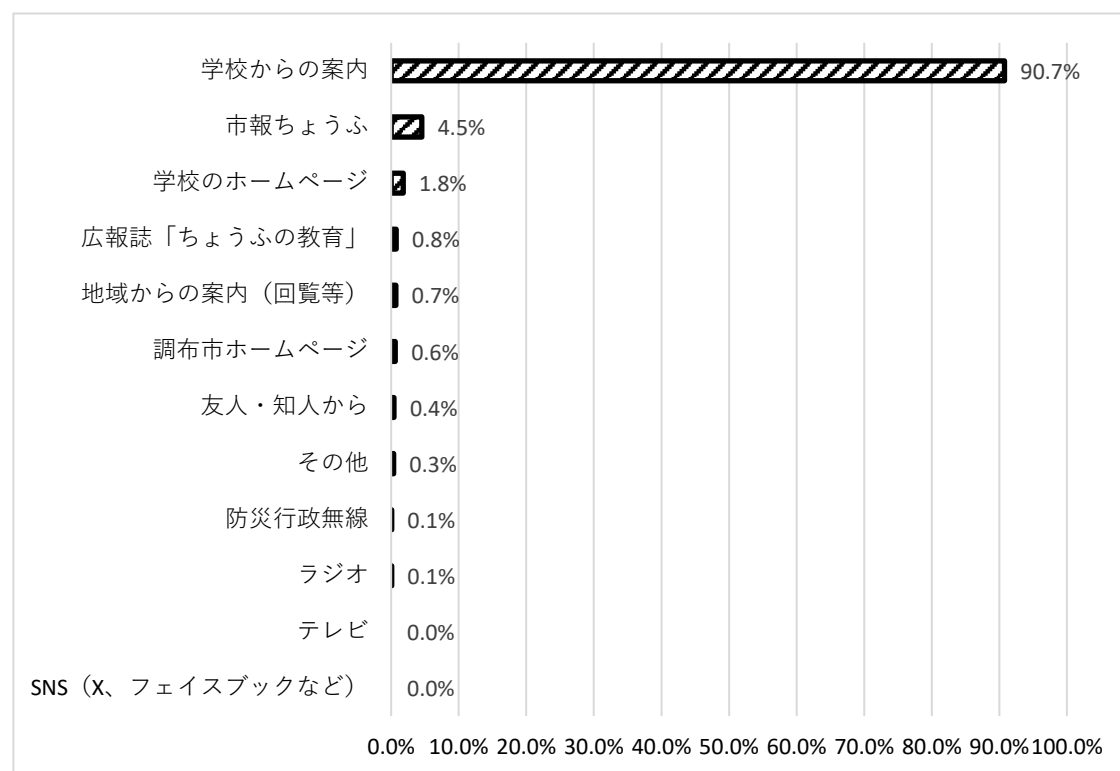
●設問5：引取訓練での「すぐーる」の配信は効果的でしたか。(回答者数：1339人)



「非常に効果的だった」又は「やや効果があった」と回答した保護者数は、全体の約90.5%に当たる1212人となりました。

●設問6：「防災教育の日」は何でお知りになりましたか。【複数回答可】

(回答者数：1336人 総回答数：1228人)



総回答数のうち、1324人（約90.7%）が「学校からの案内」で防災教育の日を知ったと回答しました。

●設問7：自由回答

アンケートの自由回答の抜粋（回答者数：201人）

自由意見においては、主に「引取訓練」「授業内容」「すぐーるの配信」「学校の対応」「避難所体験」などに関する御意見を多くいただきました。
訓練の実効性を高め、保護者の皆さまにとって有意義な事業となるよう、内容を精査し、次年度の取組に生かしてまいります。

番号	項目	意見等
1	引取訓練	今回小学1年生の親という立場になり、学校を通じて初めて参加いたしました。入学すぐのタイミングでこうした意識・知識を1年生に確りと教育していただき、大変ありがたいと思いました。また、今回のことで家庭内の防災意識を一段高めていただけたと思っております。大勢の方が参加されるため、取りまとめる側の方々には負担も相応にあるとは思いますが、定期的な開催が重要なものとの理解ですので、今後も継続開催できるようご協力できればと思います。
2		定期的に行われると意識が高まって良いかと思います。今後もお願いします。
3		市役所と学校が連携して防災訓練を取り組まれており、とてもありがたいです。防災について日常から意識を高めておく機会になりました。

番号	項目	意見等
4	引 取 訓 練	個人的には緊張感ありよかったです。春の新しい時期に防災訓練があるのは刺激的で、防災意識が高まりました。消防署の体験が子供にも役立った体験になったと感じます。ありがとうございました。
5		子ども達への意識付けにはとても良いと思います。実際に災害が起こった時、避難してくる方もいたりで混乱するのではと思っています。難しいですが、地域住民との連携も強めていかなければいけないのかと思っています。先生方が負担となってしまうような気がしました。
6		校庭での引き渡しの時、各クラスの札が一番前の足元にしかないから我が子のクラス位置に迷っている人が後ろに沢山いたので、改善する必要があると思います。左右どちらから1～6年生と順番に並べた方が分かりやすいと思うのに並び方の意図がよく分かりませんでした。
7		小学校で子供を引き取る際の並び場所(学年とクラス)が三角コーンで表示されていたので後ろの方から見えず並ぶ場所が分からなかった。
8		引き渡し開始の時間に保護者が殺到してしまうことに疑問を持ちます。 上履きを持参しましたが、震災直後持っている方は少ないでしょう。
9		引き渡し開始直前、●中ではクラス別に整列し、一番前にいる担任がクラス名の書かれた紙を手で掲げていました。引き渡しが始まると、名簿をチェックするのに、ほとんどの先生が紙を下ろして対応していたことで、後から来た方や、新学期で担任が初見の方はどこに引き取りに行けばよいのか困っていた場面が見受けられました。担任にはクラス名の入ったビブスを着用して頂く等、工夫をして頂けたらなと思いました。また、事前に配布された案内には、「校庭に集まって下さい、担任が対応します」との記述のみ？でしたが、あえて保存用の引き取り手順や案内図の配布があると、いざと言う時、引き取り側が安心して行動できると思いました。
10		引き取り訓練でクラス名が書かれたコーンの向きが児童側だったため、どの列に並べば良いのか分かりづらかった。
11		子どもを引き取る際、学年と組を示したコーンを設置しますと事前に学校から説明がありましたが、保護者の列の最後尾に印などが見当たらなかったため、どこに並んでいいのか迷っている方がいました。先生方が待機されている付近に遠くからでも見える旗等の設置をご検討いただければ幸いです。本当に災害が起きた時に混乱した中でスムーズに引き渡しが可能なのか少々不安になりました。よろしくお願いいたします。
12		引き取りの列が長蛇すぎて、何年何組かがまったくわからなかった。半分すぎくらいのところに、何年はこちらからとか、ざっくりでも声かけが欲しかった。
13		引き取り訓練について。クラスごとに整列しての引き取りだったが、場所がわかりづらかった。事前にプリントはもらっていたが学年の場所だけで、クラスまではわからず、当日も案内が地面に置いてあったが先頭の人しか伝わらないと思う。高い位置に掲示するとか、案内板を出すなど工夫があるとよいと思った。

番号	項目	意見等
14	引 取 訓 練	すみません、授業は拝聴できていませんが、こどもが引き取りの帰り道に教えてくれましたので、よくわかったにチェックをしました。こどもが、自分の言葉で伝えられるということは、わかりやすかったことにも繋がり、また、興味ひく内容だったのだと思いました！ありがとうございました！改善していただきたいのは、引き取りの時、どこにこどものクラスがあるのかわからず、迷ってしまったことです。各クラス担任の先生は、名簿と照らし合わせることに手をとられるので、生徒が学年クラスを書いた用紙を持って、先生の近くでよく見えるようにアシストするか、模造紙に場所を書いて掲示するとか、クラス名前をチェックする時があるのでその近くに、場所が記載されている用紙があるとスムーズだと思いました。もっと他にもよい方法があると思いますが、次年度以降はよろしくお願いします。
15		現地の案内が不十分。引き取りの前に整列を促されるが、どこに並んで良いか全くわからなかった。
16		引取りの方法をもう少し考えた方がいい。学校の後用事がある人は早く並んで帰りたいのが見え見えで、整列で前の方の取り合いになるのがトラブルになりそうで怖いです。
17		人が多すぎて学年の並びがわかりずらく、探すのに苦労した。生徒の並び列に何年何組と大きく案内板を立てて欲しい。
18		引取訓練の時間を小中でずらしていただきたい。一斉スタートだと両親がいなければ片方しか行くことができない。実際に災害が起きた場合に備えどちらを先に引取に行けばいいかどうかのシミュレーションにもなるため、より実態に近い形でできるのではないかな。
19		小学校、中学校の同時刻内での引き取り訓練にはかなり無理があるので時間をずらしてもらえないでしょうか？
20		引き取り訓練、上の子からお迎えではなく、下の子からお迎えにしてほしい。
21		引き渡し訓練で、小学校と中学校の時間を少しずらして頂けると慌てずに行けるので、次回以降、考慮して欲しい
22		小学校も行く予定だったが、時間的に厳しかったため、間に合わず、どちらも行く場合、どうしたら良かったのか？と思いました。
23		小学校と中学校に迎えに行かなくてははいけません。同じ時間に地震がきた設定をされると、ひとり親や、夫婦どちらかが不在の場合など、大変困ります。少し時間をずらすなど配慮していただけないか？
24		小学校と中学校に子どもがおり、同時刻の引き取り訓練に参加するのが難しいなと思いました。今回は両親小学校と中学校に分かれて向かいましたが、本当に大震災が起きた場合、両親のどちらか一方しか動けないということも十分に考えられるので、そのような場合も想定しながら、引き取り訓練に参加するように心掛けたいと思いました。
25		上の子を中学で引き取りしてから、小学校に移動しての下の子の引き取りが、走って終了時間のギリギリだった。もう少し余裕があると助かります。

番号	項目	意見等
26	引 取 訓 練	11:20から子供の引き渡しとの連絡が来ていたが、11:20から校長の長い話が始まり…引き渡しが11:30過ぎたのが腹立った。中学校、小学校の両方に引取に行かなければならないのに、引取時間帯が同じで無理がある。引取時間帯を15分ずらしてくれるだけで大分違うことに誰か気付いて下さい！！
27		小学校と中学校と両方参加したかったのですが時間設定が同じなので片方のお迎えしか行けませんでした。そういうものなののでしょうか。避難所体験も行きたかったのですがお迎えに行かねばと断念、お迎えも間に合わず結局1人お迎えに行ったのみで終わりました。
28		調布市の方々、消防関係の方々、お忙しい中ご協力ご指導、ありがとうございました。このような機会は防災意識を高めるために大変大切なことと思いました。中学校と小学校の引き渡し時間を少しずらしていただけると、助かります。片親家庭にとっては、時間内にきょうだいどちらも引き取りに行くのが大変でした。
29		●●小学校と●●中学校の引き取り時間が重なり、道が大変混雑していた。少しずらしてほしい。
30		授業公開のあとに引渡し訓練なので、学校内で待機してるためすぐーるに気づかなくても対応出来てしまう。実際、引き取りに行くのにどれくらい時間がかかりどれくらい子どもたちは待つのがわからない。
31		学校公開と同時に開催されていたが、2時間目終わった後に1時間程、引き渡し訓練までの時間が空いており家が近い方は帰れるが遠いと校庭で待つしかなかったのも、その1時間を何とか改善して頂けたらと思います。
32		授業公開からの引き取りがけっこう時間がありました。毎回ですが。
33		1時間目と2時間目に公開授業と3時間目に防災訓練だったが、少し長いと感じた。
34		公開授業と引き取り訓練の間が1時間くらい空くので家と学校を2度往復しなければならず、負担に感じました。待ち時間に親向けの講習をする事や待機場所を作るなど時間を有効に使えるようにして頂けると良いなと思います。
35		参加させていただきありがとうございました。定期的に防災意識を高めるのはとても大事なため、良い取り組みだと感じました。一、二時間目が授業参観なのですが、引き取り訓練までに1時間ほど合間があるため、二、三時間目を授業参観としてそのまま引き取り訓練をした方が保護者としては利便性が高いと感じました。
36		授業公開からの避難訓練だと、親は待機時間があったり、迎えに行くという感覚はありません。引き取りの練習は良いですが。とはいえ、防災の授業が見れたのは良かったです。
37		校内教室引き取りは、本当に地震が起きた時には余震も考えられるため、危険だと思いました。保護者と児童で階段がごった返しになっていた為、いざという時に階段から落ちる恐れもあり、大混乱になると思いました。
38		校舎への入場場所を1箇所限定し、長蛇の列を並んで待つのは、災害時には非現実的で、もう少し改良の余地があるように感じました。

番号	項目	意見等
39	引 取 訓 練	保護者の引き取り待機場所について。クラスごとに分かれた時に、あとから来た人は自分の子のクラスがどこか分かりづらい。クラスの表示を2枚用意して、1枚は後ろに回して一番後ろの人が持っている等、できるとわかりやすくなると思います。
40		校庭で引き渡しの方がよかった。
41		次はクラスに迎えではなく、体育館に迎えるを、練習したい。
42		学校の引き取り訓練は親が仕事中の平日昼間に行うとリアリティが増すと思いました。
43		学校があるのは大体平日なので訓練も実際に想定して平日に行う方がよさそうな気がします。実際には余震もあったり道路状況なども普段と違うと思うので色々心配です。
44		引き取り訓練、実際の災害にあった時をもっと想定した方が良いと思います。例えば校庭で待つ。は実際何時間後に保護者が迎えに来れるかわからないので現実的ではないので、教室で待つとか。小学生、中学生の子供がいる場合は兄弟を連れて行くとか。震災があった時、その後の余震や停電、火災などから子供達を守る為に必要だと思います。
45		引き取り訓練は、教室ではなく校庭ではダメなのではないでしょうか。毎年長蛇の列で非効率を感じます。
46		地震を想定とする引き取り訓練ならば、引き取りは教室ではなく校庭になるはずなので校庭で行うべきである。また引き取り訓練の時刻になってから校内放送で講話を行うのは引き取りを遅らせ混乱もきたすため適切ではない。道徳の授業でも防災の内容ということは分かったが何を目的としているかよく分からないため(命を守ることを第一に優先することを学ばせるのか、グループワークを行わせることが目的なのかが分からない)、きちんと身につけさせたいことの想定をした上で道徳の授業内容や引き取り訓練を行ってほしい。わざわざ土曜にまで授業を行って保護者の引き取りを必要とするなら意義あるものにしてほしい。
47		引き取りが教室だったが大雨時に校舎内が危ない場合は校庭での引き渡しになるのではないかな？また雨天などの場合は雨ざらしの中で児童が待機するのか？雨天時対応も含め現実に合わせて引き取り訓練を実施して欲しいです。
48		●●中の引き取りの保護者の列がすごい人数で、案内の時間よりも10分くらいすぎてやっと列が動いた。小学校の下の子の引き取りもその後したかったので時間通りに案内してほしいです。
49		学校からの引き取り訓練の案内が不十分で非常に不満に感じた。
50		学校で引取り時の話が、(スピーカー、マイクを使っているのに) 音声小さくて何も聞こえなかったのが残念でした。
51		学校についてどの学年が何処かわかりずらかった。

番号	項目	意見等
52	引 取 訓 練	こちらに意見するのは違うのかもしれませんが…。学校によるのかもしれませんが、引き取り訓練がある、とのお知らせはもっと早めに連絡していただけるとありがたいです。学校の行事予定には「避難訓練」としか記載がなく、保護者による引き取り訓練がある、との連絡がすぐーで届いたのが実施の3日前、授業の見学が可能との詳細連絡がきたのが前日、とあまりにも連絡がおそいのではないのでしょうか。その前に、入学説明会、入学式後の保護者会、入学後の保護者会、とお知らせしていただける機会は何回もあったと思います。せめて、行事予定に保護者による引き取り訓練がある事を記載していただきたかったです。昨今は仕事を持ってる母親が大半だと思います。両親とも土曜日が仕事の方も私を含めてたくさんいらっしゃると思います。職場に休みの申請を出さなくてはならないので、保護者がかかわる行事は、せめて1ヶ月前にはお知らせしていただけるとありがたいです。
53		校庭に子ども達が集合してる際に、先生の言うことを守って静かに集まってる子ども達がいる中、保護者がガヤガヤと喋っていて、情けなさを感じました…。
54		校庭で待っている保護者の私語が多く、先生が注意されていましたが、子供たちのほうが余程きちんと対応していたので、反省すべきだなと思いました。
55		引き取り訓練は子供だけでなく親にとっても訓練だと思うのですが、校長先生や他の先生が保護者向けに話をしている際に、保護者の私語が非常に多く、よく聞こえませんでしたし、真剣さに欠けると残念な気持ちになりました。
56		徒歩での来校をお願いしますとのことでしたが、自転車で来校してる保護者のかたが多数いらっしゃいました。実際本当に災害が起きた際、自転車で引き取りが可能なのか、自宅が学校から遠く早く迎えに行くために自転車が走れる状況なのであれば自転車で来校も考慮されるのか。我が家は学区域で一番端なので学校が遠く、小さい兄弟がいるとなかなかスムーズにはいかず徒歩で20～30分かかります。
57		授業公開に参加しない保護者は、すぐーで連絡が来てから徒歩で家を出る、となっているのに、自転車で11時前に行く人や、子どもたちが避難しているときも私語をしている人ばかり見受けられた。
58		校長先生がお話しされている間、子供達は静かに耳を傾けている一方で、周囲に聞こえるくらいの声でおしゃべりをしている保護者の方が多いことに驚きました。久しぶりに会う保護者同士でおしゃべりしたくなる気持ちもわかりますが、子供達が真面目に取り組んでいる手前、一保護者として恥ずかしくなりました。災害は本当にいつどこで起きるかわからないからこそ、私達親も子供達と同じように気を引き締めて訓練に臨むべきだと改めて思いました。
59		受け取り後の帰路、道路一面に広がって歩く保護者と子供。車は通れないし、近隣住民の迷惑を考えてるのか。常識的に考えて道路を占拠して歩くのはいかがなものかと思います。改善策を考えていただきたいのと、自転車を学校側が黙認している理由を公で発言してくださいルールを守る人間がバカを見ている。

番号	項目	意見等
60	引 取 訓 練	●●中学校へ子どもを引き取りに行った時に校門の外に保護者の長蛇の列ができ、狭い道なので車はスムーズに通れなくなっていたし、本当の震災時はかえって危ないと思いました。
61		引き渡しの保護者の列が学校の前の公道まで長蛇の列だった。そのために、車どうしすれ違いが困難になり大渋滞となっていた。【最後尾】と書かれたプレートを持った先生は正門近くにいて保護者が混乱していた。校庭は、引き渡しが終わった親子が歩いていたが、校庭などに引き渡し待ちの保護者を並ばせた方が良いのでは？と思った。
62		●●中学校の防災意識はとても低いことがわかりました。子供を迎えにいきましたが、整列の際、保護者が道路にはみ出していたので車と接触しそうになったり、渋滞を引き起こしていました。引き渡し時間や場所、順路など案内がなかったので動きにくかったです。教室での受け渡しの際も、なんの緊張感もなく生徒と話している教師や、保護者が来ているのに気づかない教師もありました。人数の問題なのでしょう、小学校と中学校での引き渡し方法が違うのは何か理由があるのでしょうか。小学校の受け渡しがスムーズで緊張感があっただけに、今回は残念に感じました。
63		11時20分～引き取り開始とのすぐーる配信でしたが、定刻でも開始できませんでした。その結果、入校できるまで時間を用し、道路に長蛇の列で並ぶ形となりました。教員の先生方も尽力させていたかと存じますが、バス道路にもかかわらず、公共道路に多大な迷惑を掛けていました。校庭に並ぶなどの配慮があっても良かったかと思います。
64		引き取り訓練の際に、多くの保護者の列が道路に出てしまっていたので、学校側で列の並び方などちゃんと考えた方がいいと思います。 車に轢かれるなど、車側も危険ですし、並ぶ側も危ないです。
65		●●中学校の引き取り訓練で、昨年までは校門から入って子の教室へ行きすぐに引き取れたのに、今年は、昇降口から自転車置き場までぐるーっと周り、とても長い列になっていて、校門を出て道路もずらーっと並び、●●●小学校くらいまで列が続き、道路でも車や他の歩行者なども止まってしまい、とても迷惑だと思いました。人数が多いし道路も狭いし時間もかかるので、もっと考えていただきたいです。
66		●●中学校の敷地外の一般道路（歩道と反対側の歩道がないところ）に引き取りの大人が行列になり、交通渋滞が発生しておりました。なぜ、校庭を並ぶ列にしなかったのでしょうか。車がすれ違うことも大変な狭い道路です。接触事故が起きてもおかしくない混雑でした。
67		引き取り訓練で迎えに来た保護者の列が学校外の道路まで続き、バスや車が立ち往生していました。小さいお子さん連れの方も大勢いましたし、道路も狭く危ないので、校庭に並ぶ方が良いのではと思いました。
68		生徒も保護者も災害を想定して、真剣に取り組むべき。ただのお迎えになってる。
69		可能でしたら、乳幼児を連れた保護者を優先して頂けるとありがたいです。

番号	項目	意見等
70	引 取 訓 練	初めて参加しましたが、大地震はいつ来るか分かりませんので、実践に沿った大規模訓練は大事だなと思いました。防災頭巾を持ち帰る時に防災頭巾カバンも持ち帰りたかったです。
71		他の学校に通っていた時は、メール等の連絡が来たら自宅を出て学校へ引き取りに行くやり方でした。今の中学校がその方式ではないのは、震災から年数が経って調布市の各中学校がこうなのか、この中学校だけなのかは気になりました。
72		ひとり親で仕事が休めず、行きたかったが引き取りに行けなかった。クラスで残ったのが1人だったらしく子供にとっても申し訳なかった。
73		昨年までは時間通りだった引き取り訓練の時間が、今年は大幅に遅れていた。生徒と先生が一度校庭に集まった後、教室に戻ってランドセルを背負って靴を履き替えて再度校庭に集合しており、避難訓練の意味がなく形骸化していると感じた。昨年までと同様、ランドセルを背負って一度で訓練→引き取りをしないと意味がないと感じた。
74		子どもの引き取りで、校舎内に入るとき、スリッパなどに履き替えている保護者が多かったのですが、緊急時は履き替えていると渋滞にもなるし、上履きがなく、裸足で入るとなると衛生的にも良くないと思うので、靴のまま校舎内に入るようにした方がいいと思います。（コロナ前は外靴で校舎内に入るように指示されていたと思います。）
75		すぐ一の連絡では全員、2階昇降口から入るようになっていたが、●●学級は●●昇降口での引き取りであった。一回外に出て回らなければならなかった為、時間がかかった。災害時は少しのミスが生死に関わるので、手間が発生しない案内をしてください。
76		防災頭巾を被ると、声が聞こえないようで、特に後ろから声をかけたら子どもの反応が全くなかった。耳が隠れないヘルメットの方がいいのではないかと思います。
77		授業公開だけでなく、普段避難訓練をどのようにしているかまで見れたらもっといいと思う。
78	授 業 内 容	学校や協力企業、協力しているPTAの方々など、顔見知りではあるものの、訓練としての対応で、気が抜けている雰囲気でした。災害に対する危機感が感じられず、残念でした…。現実的には、家族バラバラで過ごしている日中は、大人も子供も、自分で生き延びる知恵を持つように、子供と話をするようにしています。
79		東日本大震災後に生まれてきた我が子達にとって大きな災害を私事として想定することはすごく難しいことなのではないかと思うのですが、長男のクラスでは担任の先生が実際当時授業中でどのような現場の判断でどう動いたか、どう感じたかをお話してくださいました。その話を聞いて私自身納得できましたし子供達も想像することができたのではないかと思います。また6年生は「1年生のお世話をしている時に先生がいけない時間に大地震がきたら」というテーマでした。実際あり得る話ですし、先生がいけない時間にどうすれば良いか1人1人考える時間を持てたのがとても良かったのではないかと感じました。

番号	項目	意見等
80	授業内容	未就学児の兄弟がいる為避難所体験に参加できず残念でした。昨年の1年生の時と授業内容はあまり変わりませんでしたが、理由を発表する姿に成長を感じました。
81		タブレットで防災マップを開き、自分たちで住んでいる地域の浸水状況を調べるのは良かったと思います。子どもたちが防災を身近に感じられて役に立つ情報を提供し続けてください。
82		貴重な機会を教育をありがとうございます。自分の命は自分で、必ず何かの力に将来なると感じました。子供たちの姿を見て私も学べました。
83		授業参観の内容は親も学ぶことが多く、非常に勉強になりました。貴重な機会をありがとうございます。
84		多摩川の洪水の映画よりかはアニメーションの動画（火災や地震について）が分かりやすかったです！絵本も良かったです。でも、座ってばかりの授業だったのでもう少し火災のときの転がるポーズだったり一個一個の動画の途中で質疑応答などあれば良かったです！でも川の映像を見て2年生の娘は川の近くに行くと、「ここは津波来る？」と尋ねるようになったのでインパクトはありました！
85		1年生には動画が長く、内容が難しいように感じた。親の対応の仕方にも繋がるので、避難訓練や引き取り訓練を年度の早めの時期に実施していただけるのは有り難いです。
86		子どもが授業で見たVTRの内容を細かく覚えていて、インパクトがよかった内容だったのかなと思いました。防災意識とはどれだけ紐付いてるか分かりませんが有意義な時間だったようです。
87		2限の動画は長くて子ども達は集中力が切れてしまっていました。内容は大切なことだったと思います。
88		子どもの授業が昨年度と全く同じ内容で驚きました。1時間目、ただ動画を見る(昨年度と同じ動画)、2時間目、いくつかのカードを正しい避難の順番で並び替える(昨年度と同じカード、同じ内容)。学年が一つ上がって先生は違う方なのですが、2時間昨年度と同じ内容を指導されていました。低学年はこの内容と、学校で揃えているのでしょうか。何の新しい学びもなく、残念でした。もういい加減、●●小学校は、ただ動画を見せるだけの授業はやめて頂きたいです。いのちの授業の1時間の公開のみで結構なので、違った内容の授業が見たかったです。また、せっかく避難所体験を体育館で行っているのに、一つの学年ぐらいい公開授業で体験させたりすれば保護者も見応えもあり、学ぶことも多いのではないかと思います。
89		1時間に保護者1人までしか参観できなかったため、2校時に参観しました。隣のクラスの機械の調子が悪く、合同で動画を視聴していたこともあり、子供たちも集中しておらず、動画を観るだけであまり学びがなかったように感じます。1校時に参観した夫はそのような印象はなかったようなので、2校時目の動画視聴のみ見直した方がよいのではと思いました。

番号	項目	意見等
90	授業内容	1時間目はただ動画を見るだけだったので、それだと家庭でもできるなと思いました。45分間ずっと、動画を見るだけの授業は、1年生のこの時期にとってもそぐわないように感じます。「防災教育」というからには、2時間目のようにクラスみんなで防災について考えたり、実際に体験したり、学びのある活動をしていただきたいと思います。
91		小学生の授業に用いられた動画が、退屈でわかりづらかった。また、その後の問題も、ダラダラ長くて、子どもたちも飽きてしまっているように見えた。もっと、興味をもつような授業の工夫を考えてもらいたい。
92		視聴する動画の内容について事前にお知らせ頂けるとありがたいです。というのも、子供がかなり繊細で、防災意識向上目的であったとしても、怖がってしまい、その後の日常生活に支障が出る場合があるためです。授業への参加有無を事前に検討できたらよかったです。
93		校長先生のお話で、東日本大震災を機に始まった教育だと聞きました。自分たちが子どもの頃の防災訓練より中身が濃いことに納得しました。 公開授業なことで、親子で共通の概念が持てますし、帰宅後に話をしやすくなります。授業では、登下校時、トイレにいる時、校庭にいる時など子どもの行動の具体的な場面に合わせて、どうしたらいいのかを説明してくださって、分かりやすいなと思いました。今回は避難所の見学は下の子もいてできませんでしたが、地域の方も一緒に参加してくださる防災行事はいいなと思います。次回は見学したいと思います。
94		小1ということもあり、授業参観の案内がややわかりにくかったです。消防署の方の映像も読み上げ式で子供が集中していないのが感じられました。
95		先生方の授業が学年に合わせており、わかりやすかったです
96		授業で流れていた防災の動画は概要スライドが文字が多く、漢字も使用されていて低学年にはわかりにくい箇所があった。また震災の写真であるため、刺激を考慮されているのだと思うが、引の写真が多く、子どもに感想を聞くと、写真と話している内容のつながりが理解できなかったようです。また、ビデオの内容（構成）を先生が把握していないように感じた。最後のクイズは子どもたちが声を出して答えるべきなのか、静かにただ聞くべきなのかどうしたら良いのかわからず、困惑していた。
97		学校の授業で長周期震動を取り上げていて、私の職場も高層階なので、地震が起きたときの行動が学びになりました。東日本大震災の映像を見ると今も心がえぐられるような感覚があり、ショッキングではありますが、しっかり子供たちにも継承し、日々の備えを教えていきたいと思いました。
98		授業は最後の方のみ参観しましたので、内容が全ては分からず申し訳ありません。
99		防災体験だけでなく、授業公開をセットにすると親子共に楽しい時間となるので一石二鳥なのが良いと思う。

番号	項目	意見等
100	授業内容	子供たちにもわかりやすく授業していると思うが心に負担にならない範囲で親子共に少し体験を積む事ができると良いと思った。親子揃う機会に、家庭やクラスによっては、小さな子がいる、高齢者がいる、身障者がいる、パニックになる人がある、怖くて泣いてしまう人や咄嗟に動けない人があることを知ったり、その時に取るべき行動、何を優先すべきか、事前に自分ならどうなるか話し合う事で分かる事もあると思った。実際にこんな時、自分ならどうなると思うか？泣いてしまうか、叫んでしまうか、必死に我慢してしまうか、実際にはわからないが、それでもそんな時なんと声をかけて欲しいか、どんな行動が安心、ひいては安全に繋がるか考える事も大切なのではないかと思い、家庭では隣にいる友達がパニックになってしまったらどうしようか？家で祖父と二人の時はどうしようかと話をしてみようと考えた。
101		1年生の授業参観として調布消防庁の動画を見ました。1年生が見るには言葉が難しい表現(被災など。被害にあった方とか簡単に言い換えた方がいいと思います)があったり、過去の地震の説明が長くて飽きてしまっている様子が伺えました(過去の大地震が4件くらい紹介されていましたが、2件くらいで大事なことを絞った方がいいと思います)。
102		45分間の動画は低学年には酷な時間だったと思う。
103		子供が防災の知識を得ると、親が刺激されて防災意識が高まった。
104		授業のなかで、通学時に災害にあった時、近くに大人がいたら、助けをもとめることが示唆され、自分の子だけではなく、子供や高齢化社会を守る大人としての責務を感じました。
105		311のときにまだ生まれていなかった子どもたちに当時のことを伝えていかなくてもいけないのだなとあらためて思いました。家庭でも話す機会としていきたいです。
106		現在の児童は311以降の生まれであり、当時の悲惨な映像等を用いることが難しい中で、どう伝え、理解してもらうのか悩ましいと感じました。先生が指摘していた通り「笑い事ではない」のですが、多くの児童は楽しく学んではいたものの、果たしてどれだけ自分事と感じられたのか。東北から語り部の方をお招きし、市内小学校を数校ずつ日をずらしてお話を聞く等、楽しいだけではなく防災教育が必要と感じました。
107		最近も大きい地震が各地で起きているので、命を守る授業を聞いていて他人事ではないのだと改めて感じました。
108		子ども達はとても防災に関する意識が高まっていました。家族の避難場所・待ち合わせ場所についても話し合いました。
109		学校公開での授業が保護者参加型で、親子で楽しめました。ただ、家族が誰も来ていないお子さんたちが寂しそうだったので、保護者参加のタイミングがあることがもう少しアナウンスされていたらと思います。

番号	項目	意見等
110	授業内容	防災食について考えることができた。実際に東日本大震災当時教員をしていたという担任の先生の話の聞き、子供も思うところがあったのではないだろうか。有意義な1日であった。
111		着衣水泳の練習を授業に組み入れるべきと思います。
112		3年生の授業で流された職員による実際の災害の状況を説明する映像ですが、肝心の災害状況を映す映像部分が小さく、子供には見にくさを感じました。その後のアニメーションがわかりやすかった分、実際の災害状況の映像がもっと目立つ画角であるにより理解が進むように思います。ねらい3「地域と一体となった震災対応システム」を構築すること、というのは主語は誰なのでしょう？(学校？行政？子供たち？保護者？)もし一体性を目指すのであれば、保護者が見るだけの授業ではなく、保護者も交えた様々な体験ができるようにしたり、行政側が一つの小学校の在学時・保護者・学校職員の人数規模でどの程度の対応ができるのか図る訓練を行うなど、それぞれの主語に対してもっと効果的な訓練が可能だと思います。
113	すぐーるの配信	すぐーるの配信が届かない等スマホが使えない場合の対応について自分自身の確認が必要だなと感じました。
114		調布●●中学校からは引き取り訓練開始のすぐーるが配信されなかった。●●●小学校からはきました。先生の訓練もかねて、緊急時のすぐーる配信もしたほうがよいのでは？
115		当日すぐーるでの配信はありませんでした。昨年も当日に案内がくればよいのと思いました。
116		「引き取り訓練でのすぐーるの配信」というのはあったのか？どれのことかわからない
117		すぐーるの連絡が、練習とはいえ、全く緊急性を感じない連絡で、これで迎えに行くの？と疑問でした。
118		引き取り訓練の手紙が子ども便でしたが、近年、すぐーる配信が多くなり、子どもたちが手紙を保護者に渡す習慣が薄れているので、大事な手紙はすぐーるでも配信があるとよい。手紙を見ていない保護者もいたようです。
119		引き渡しの時間があらかじめ決められているので、ほとんどの保護者がすぐーるの通知が来る前に迎えに行ってしまう。だから、引き渡し手順の訓練にはなるけれど、すぐーるで通知する意味がない。例えば30分くらい時間の幅を設けて、通知を受けてから迎えに出るようにしないと訓練の効果が上がらないと思う。
120		すぐーるでの、避難訓練時としてのメールは来なかった。お迎え時間が決まっていそこに向かって集まるのは避難訓練にならないと思った。
121		訓練なので平和でした。実際はもっと大変な事かと思います。通知音が変更出来るならば緊急性を感じる音にだと意識が変わるかなとも思いました

番号	項目	意見等
122	学校の対応	校舎1階にて「体育館引き取りなのですが体育館へはどう行けば良いですか」と廊下にいらした先生に尋ねたところ、「教室でお子さんを引き取ってから体育館に行ってください」と案内されました。3階に着いた時にたまたま子供が教室から出て来たので無事会うことが出来ましたが、本来はやはり直接保護者が体育館に行き体育館にて引き取りをするのが正解のようでした。訓練とはいえ、廊下にいらっしゃる先生の案内が誤ってはい混乱を招くのではないかと思います。
123		4 / 30(木)予定の集団下校訓練が調布市防災教育の日より先にあった方がよいかなと思いました。引き取りに行った際、下駄箱付近で少し怒った様子で声をはりあげてなにか指示？を言っている女性がいましたが早口で聞き取れず少し困りました。
124		学校内の見取り図、案内図がもう少しあるとよい。日頃から入り口などに案内板をつけておくとうい。ご準備ありがとうございました。
125		授業参観できるかどうか、小学校側から案内がなく分かりづらかった。
126		学校からのお便りでは、引き取りの「来校時は正門を通り、下校時は正門・野川門・南門のいずれかからお帰り下さい」と記載されており、案内地図にも、野川門・南門から出るように矢印が記載されていました。しかし、実際は、野川門・南門は施錠されていて、出ることができませんでした。複数の親子が野川門まで行き、出られず引き返しました。出られないことを学校教職員の方に伝えた保護者もいましたが、特に対応はなく、なぜ案内通り出られなかったのか、なぜ解錠がされなかったのか、わかりませんでした。実際の引き取り時も、野川門・南門からは下校できないのか機会があればアナウンスしていただけたら幸いです。
127		他校では公開授業が行われていたようなので、今回はそのようにしてほしい。
128		公開授業に於いて、第一学年4組の授業時、広い視野を持った子どもの回答に対して、教諭の心無い対応だった事に違和感を感じた。防災の授業だからこそ、寛容な心で子どもの意見に耳を傾け、"それも正解だね"や、"そんな考え方もあるね"等の声があっても良いのでは、と感じた。教諭の性格や人格もあるが、教諭にも広い視野を持って臨んで頂きたいと切に願う。改善要望として、お願いします。
129		学校の引き渡しの際、後方までアナウンスが届きませんでした。
130		引き取り訓練で校庭で集合しているときに、児童達がバラバラと校舎のトイレに行くのか何人も校舎に行ったりきたりしていた。トイレに行くとしても先生方も着いて行かずに一人で行っていた。避難してきた場所に戻るなど、東日本震災の教訓をまったく理解していない、校長先生はお話して話していたのに現場にまったく伝わっていないと思い非常に残念。せつかくこのような訓練をするなら、實際をきちんと想定して欲しい。
131		調布市内の小学校は月曜日が振替休日でお休みですが、中学校は各学校での判断なのか月曜日が振替休日にならない中学校があるのは、防災教育の日として土曜日開催するのであれば振替休日にして統一していただきたい。
132		可能であれば小学校も振替休日無しにして欲しいです。

番号	項目	意見等
133	避難所体験	避難所体験もすごく有意義でした。また体験する機会があると、忘れずに考えられると思いました。
134		以前参加したので今年は参加しなかったが、避難所体験は一度してみると良いと思う
135		実際の避難場所の体験が出来たのは貴重でした。
136		職員の方々やご協力いただいた地域の方々、休日にご対応お疲れ様でした。引き取り開始直後は大変混み合っていて少し待ってから迎えに行きましたが、避難所案内などゆっくりみることができて良かったです。
137		防災の意識を高めるためにも、こういった避難所体験などは積極的に参加すべきと感じました。ありがとうございました。
138		持ち出し袋の用意などしなくてはと思いながらできていないので、しようと思いました。
139		やはり、今回のように子供も大人も練習や体験を定期的にしたほうが良いと思った。体験することで、家でも意識が高まり、話をしたりするきっかけになると思う。
140		自宅の非常食の備蓄を見直そうと思いました。
141		2度、3度と足を運びたくなる取り組みが、参加者の増加と、それに伴う多くの人たちでの意識の共有につながり、ひいては地域全体としての意識の高まりにつながると思います。大変なことかとは思いますが。
142		子供が4年生なので消火器訓練をしました。親世代でも使った事がない人も多いと思うので、貴重な経験ができ、とても良いと思います。今回は消防車なども来ていて、地震体験もできるように見受けました。今後も継続していただき、子供が6年に上がった時にも経験させられるといいなと思っています。参観している親も改めて防災意識を持てるので、とても良い機会になっています。
143		昨年までは水でできるご飯でしたが今回はおにぎりで、スプーンがなくても食べられるのが良いと思いました。子どもたちも実際に作ってみたのでいざと言うときに実践できて良いと思いました。
144		銀の風よけ保温シートは、大型扇風機なども近くに設置したら風をどれだけ暖かく防ぐのか分かるし、小学生は喜んで参加すると思う。
145		非常食サンプルを複数欲しい。
146		実際学校の備蓄品が何人分×何日分あるのか、また避難生活が長期化した場合の食事や衛生面などの問題はどのような対応予定なのかまで知れたら尚具体的なイメージがつくかと思いました。またこのような機会があれば、ぜひ参加させていただきたいです。
147		時間も限られている中ですが、避難所体験でアルファ米体験やマンホールトイレ組立体験などやってみたいと思いました。

番号	項目	意見等
148	避難所体験	子どもはアルファ化米が楽しくて美味しかったそうです、一年に一度でもこのような機会があると子どもは覚えてよいと思う。●小は、体育館と帰る門の方向が真逆なので、そのまま帰ってしまう人も多く、体験の人が少ない印象、せっかくの機会が勿体ない気がした、もっとたくさんの方に体験してもらう方法があるとよりよい。
149		地域のボランティアの方が説明等をしてくださっていたかと思いますが、「これはトイレにこうやってかけてこう使います!」といったような話し方で大人でも分かりにくかったです。「これは災害時に水が使えなくなった時に水がなくても排泄物を固めて使うことができるトイレにかける道具です。」とはっきりとした説明の方が子どもも理解しやすいかと思います。
150		普段の生活への防災用具の取り入れなど、意識を高めるために、是非今後も続けてもらいたいです。各家庭に備えておくといよい防災用具一式を展示してもらえたら、より参考になるかと思いました。
151		簡易トイレなどを含めて授業中にしたら良いかと思いました。
152		体験中も開設のご担当者の方とお話しましたが、区画分けで床にシートを敷いてあるだけだったので、床が固く足やお尻が痛くなったり、とても冷えるので、シートは厚さのある物がよいと思いました。また、冷えを防ぐ効果としてはアルミシートが体に被るだけでなく、シートの上に敷くだけでも少し床の冷え対策にはなると感じました。マンホール利用のトイレは流す時に水がかなり必要になると思いますが、手作業(バケツ)で運ばなければならないのは大変だと思いました。長いホースを利用するなど何かできないかと思いました。(特に真っ暗な夜や寒い時の避難)
153		家の非常食の期限見直しをするいいきっかけになった。
154		非常用トイレについて、便座が大人サイズのため、小さい子供には大きすぎて、怖がって使えないと感じたので、幼児用サイズの便座を備えていただけるといいなと思いました。
155		避難所体験の案内が保護者ではなく、生徒にしかしていないので、引き取り訓練が終わったら帰宅する人がほぼ全員であった。避難所体験は2-30名とごく少数にとどまり残念だった。
156		避難所体験に参加する人が少なくて残念に思いました。 引き取り訓練の流れでもっと賑わっているかと思ってました。
157		いろんな被災で避難所や避難生活をされた方がいらっしゃると思います。体験談やこうして欲しかったなどのパトロール映像を流しておくのもよいかも…と。
158		学校公開で保護者が多数来校するので、地域の方がされていた訓練に保護者も募って参加できれば、実際に災害があった時に、より強い共助ができるのではないかと思います。
159		授業はロールプレイング形式もいいかもしれないと思いました。何人かのグループに分かれて、ドアを開ける係、救急キットを持つ係、水筒を持つなど指示する係、人数を数える係、など担当を決めて訓練をするというのも良さそうです。

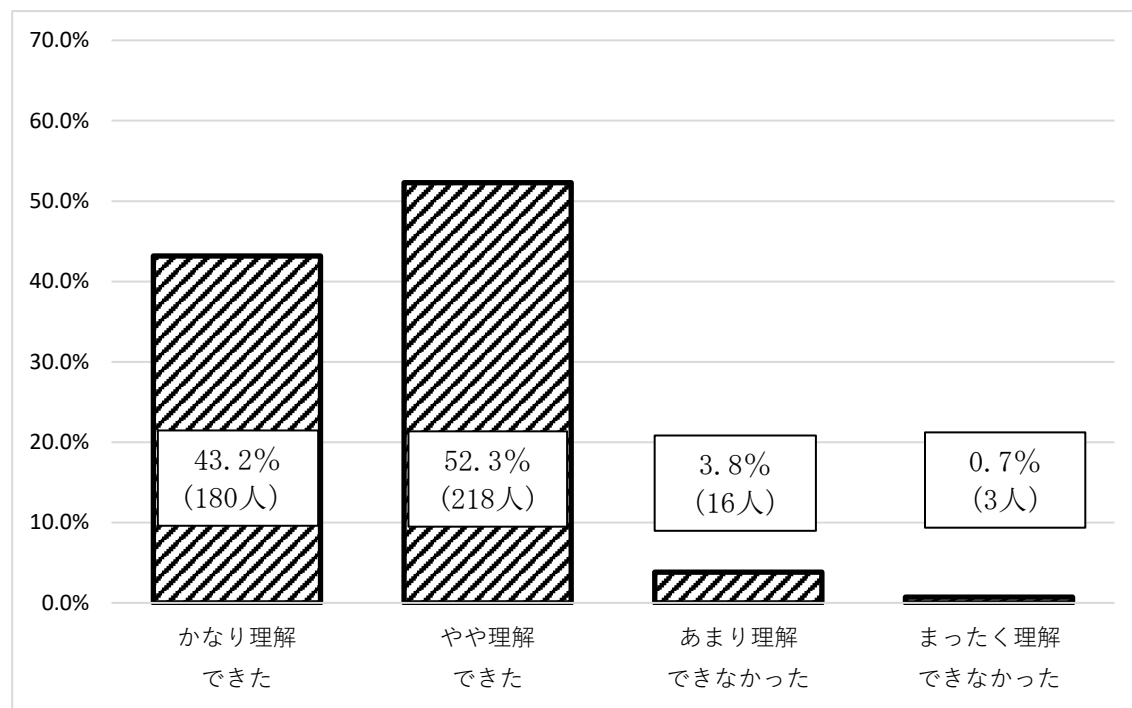
番号	項目	意見等
160	避難所体験	避難所体験は参加者が少なく、効果があると思えなかった。学校全体（全学年全学年組）の生徒を班に分けて、避難スペース（ブルーシートで仕切られた一世帯分のスペース）に少し苦痛だな、と思える時間 座る寝転ぶをやった方が（少なくとも生徒には）効果があるのではないだろうか。避難の際の人口密度の高さ、プライバシーの少なさを体験してもらい、自宅避難準備の大切さを知ってもらう必要がある。また、事前に知っておくことで実際の被災時にストレスが軽減されるかもしれない。（アレコレが必要だ、などの気付きがあるはず）。可能ならば、保護者にも大勢参加して欲しいが、難しいと思うので、せめて毎年の子どもたちに経験してもらうことで、理解のある世代を増やしてもらいたい。実際、避難所に全市民は収容できないはずだから、上記の密度がわかる体験は大切だと思う。避難所のトイレが清潔ではないことも周知の必要がある。排泄物は流せても、手に付いた汚れは洗えないかもしれない。洗えても、トイレテントの開け閉めは汚れた手で行われる。備蓄食料は充分には確保できないことも知ってもらえるようにして欲しい。メニューや味を選び好みでき、満腹でき、それが（自治体によって）復興まで保証されると思っている人は案外多くいる。市民を動揺させずに促すのは難しいと思う。理解していただけない場合もあると思う。なればこそ、義務教育期間に現実に即した訓練や体験の機会を設けて欲しい。そこから大人のコミュニティに波及することもあると思う。
161		率直に申し上げます。体験時間の案内がされているのにも関わらず、時間通りに向かったらまだ設置も完了しておらず、参考にならなかったです。係の方がたくさんいらっしゃるのに、それぞれのブースで説明されるのは一名もしくは質問しても「さあ？～だと思っんですけど…」でいなくなってしまう。そして列並びの声掛けもない。ただ「立っている」だけの方々が多すぎました。我が家がテントの体験をした際は我が家が出た後に本来必要だった敷物を敷いたりされており、子供達は「ちゃんと列に並んだのに、まだ完成してなかったの？」と残念そうでした。全てのブースで列の案内がないためたくさんの方が四方から覗き込むしかなく、それでも「最初から聞いていないとサンプルを渡さない」と言われたり、オペレーション不足を感じました。学校でボランティアさんが主催されるものならまだしも、市としてプリントで案内されるイベントとしては、あまりに「開催した」という形式だけで適当な内容だったなと感じてしまいました。
162		受付のQR登録に時間がかかりすぎており、そこだけ混雑が見受けられました。登録といってもテスト配信(?)や偽名で登録させるなど、何を目的としているのか不明でした。
163		避難所に入れる人数はごくごく僅かです。家屋倒壊するような災害時にはどうしたらよいのでしょうか。水害の危険がある場合も同様に、どこに避難したらよいか、どのように行動したらよいか、具体的なアドバイスがあるとより役立つ機会になるかと思いました。
164		●中や●●小、●●小は水害の避難所になりえず、また、周辺住民数と比較して小さすぎるため、水害起こったらどうするのかが懸念される。

番号	項目	意見等
165	避難所体験	避難所体験が6年生とのことだったので、5年生、2年生のうちの子達は体験できませんでした。滅多にない貴重な体験の機会なので、学年の指定なしで体験できたら良かったと思います。引き取りを終えて帰る時、防災倉庫のドアが開けたままだったので、普段は見られない倉庫の中の様子を見ることができて興味深かったです。
166		3年生は防災倉庫付近での体験学習となりましたが、せっかく防災用トイレを設置していただいたのに、説明を聞くだけで実際に座ってみたり間近で構造を確認したりという機会が無かったのが残念に思いました。短い時間の中で大勢が一斉に体験するのは難しいのは分かりますが、もう少し実りある内容だとより良かったかなと思います。
167		学校公開と引き取り訓練開始までの空き時間に、避難所体験ができれば良いかと思いました。
168		子どもが中学生になり、災害時は奉仕活動もあり得るということで親子で避難所開設訓練も参加できるといいなと感じました。
169		避難所体験参加したかったのですが、引き取り訓練後だと子供が友達と一緒に帰る流れになってしまい参加できませんでした。
170	日程	4月のこの時期に開催することに意義を感じています。
171		小学校と中学校と同時に行うのはやめて欲しい。
172		せっかくのゴールデンウィーク初日の休日を潰すのは良くないと思う。
173		開催する時期がよくない。新学年で子供も親も疲れているこの時期に土曜授業、引き渡し訓練は正直苦痛です。
174		土曜日の登校の後は必ず月曜日が丸々休みなので親としては辛いです。
175	全般的な御意見	良い体験をありがとうございました
176		この日のために準備や当日の運営などありがとうございました。
177		自分は阪神大震災で被災しました。多くの知人が死にました。人の死は、残された人の気持ちの整理が課題です。解決方法はありません。ずっと背負い続ける心の傷です。でも前を向かなければいけません。次の震災への教訓が大切だと認識しています。東京は人口が多く被災者数は莫大です。しかし逆を言えば、被災者数が減らせれば、救助の手の数も莫大です。被災経験者から見れば防災意識は全体としてはまだまだ低いです。特に1番困るのは「水」です。阪神大震災の時は水の復旧に3ヶ月かかりました。本日、応急給水の授業を見学しました。授業では、穏やかな雰囲気の中にも、災害への危機感や決意めいた覚悟も感じました。大変ありがたい授業でした。また、命に関する授業では、残された遺族の気持ちの整理について深く考えました。娘も幼い時に母親を看取りましたが、再び母の死を直視する良いきっかけとなったように思います。娘は、自分の母親の死を友人には誰一人伝えず、隠したまま学校生活を送ってきましたが、このような授業のおかげで、いつか友人に打ち明けることができる日が来るかもしれません。心に残る1日となりました。●●中学校の先生方にもお礼をお伝えいただければ幸いです。ほんとうにありがとうございました。
178		ありがとうございました。

番号	項目	意見等
179	全般的な御意見	子供が欠席したので今年は参加できませんでしたが、毎年の取り組みは重要だと思います。ありがとうございます。
180		他の市から転入して来ましたが、地域と一体となった震災対応システムは、素晴らしい連携取り組みと感じました。
181		貴重な機会を作っていただきありがとうございました。
182		貴重な機会をご用意いただきましてありがとうございました！
183		宜しくお願い致します。
184		定期的にこのようなイベントを行なって頂くと、災害や避難に対する意識が高まるので、来年も参加させていただきます。
185		防災の日という案内を頂けただけでも防災について改めて備えが大丈夫か考えるきっかけになりました。
186		意識が高められるので、必要な時間だと心から感じました。
187		直前に長野の地震、青森の地震があったので、いつもより身近に感じていたと思います。改めて、平日の日中に災害が起こった際の避難場所を家族で確認しました。
188		親子で考える機会になってありがたいです。
189		もしものときの避難所を決めておいた方がいいと思い、そのあと家族で話し合うことができました。
190		ありがとうございました。あの日のことを思い出しながら、子どもに私たちの体験を伝える大切な時間を持つことができました。
191		毎年、確実に実施していくこと、慣れることなく、毎回気持ちを新たにして臨むことが大切だと思いました。
192		最近地震が多いから、新たに家族で、災害が起きた時にどこに避難する、連絡を取り合う等話し合いたいと思います。
193		日頃から災害時の備えについて考えておかななくては、と改めて思ったので良かったです。
194		これを機に自宅の防災意識も高めたいと思います。
195		拡声器の音が小さすぎて、先生方が何を喋っているのか聞こえないことが多かった。事前の案内が読み手に親切ではない。公開授業が何かわからない、親が参加していいのか。子供のお迎え時にいつ並ぶかわからない。当日の子供の持ち物が何かわからない。
196		授業参観中に廊下で見ている方の話し声が大きくて先生の声が聞こえなかったです。注意をしてもらえると助かります。
197		保護者の私語がうるさく辟易した。
198		地区協の委員でもあるので朝からの防災訓練にも参加しているのですが、訓練後にある反省会で出た意見が例年、反映されないままです。
199		自治体と学校からの案内がお粗末。
200		保護者が見られる時間帯に消防車の体験が見られなかったのは残念でした。せっかくなので体験しているところも見なかったです。

番号	項目	意見等
201	全般的な御意見	引き取り訓練にのみ参加したので、アンケートの意図されているものがピンと来ませんでした。午前中の授業参観、引き取り訓練、避難所体験、それぞれの参加状況に応じたアンケートの方が良かったのでは？

●設問 8：避難所体験の趣旨やねらいが、理解いただけましたか。（回答者数：417人）



「かなり理解できた」又は「やや理解できた」と回答した保護者数は、全体の約95.4%に当たる398人となりました。

●設問9：避難所体験の感想をお聞かせください。（回答者数：204人）

感想においては、主に「備蓄品」「避難スペース」などに関する御意見を多くいただきました。

令和6年度から実施している取組である避難所体験に関していただいた御意見について内容を精査し、より効果的な訓練となるよう、次年度に生かしてまいります。

番号	項目	意見等
1	避難所体験全般	姉を連れて迎えに行くことで、中学生ではないが避難の訓練を体験できた。いい体験になりました。
2		普段体験出来ない事なので、貴重な体験でした。子どもも初めて見たので、驚いていました。
3		実際の物品や雰囲気を経験でき、備えることができた。こどもが発達障害で突然の事態に戸惑うことがあるため、雰囲気でも体験できたことは良かった。
4		家族でも防災について話し合うきっかけになりました。改めて防災グッズ、避難場所を家族で話し合いたと思います。
5		普段体験できないことが親子で体験できて良かったです。
6		子どもと避難所の過ごし方について、話すきっかけになった。
7		自宅避難でも、食料や水は避難所に取りに来て大丈夫ということが知れた。子供と一緒に体験できたのが良かった。
8		家族で避難所について話し合ういい機会になった。
9		引取訓練後に実施されていたため、そのまま子供と参加することができました。実際災害が発生した際に自分がどこに行けばいいのかという確認を子供とできたことはとても有意義でした。
10		引き取り訓練のタイミングでの避難所体験はとても有意義でよいと思います。携わってくださっている皆様に感謝しております。
11		実際のテントの大きさを感じられ、銀色の防災タオルケットは初体験できて良かった。
12		非常時に使う道具に親しむことができた。
13		ブルーシートやエマージェンシーシートだけだと被災生活はかなり辛くなるなと実感できた。ソーラーパネルが200W一枚でこんなにも大きいのかと実感できた。いただいたアルファ米を早速食べて、シミュレーションできたのも良い経験になった。
14		普段使う機会のない道具等の使用方法や、使用した際の感触が体験できた事で、実際に使用する機会が発生した際の予行となった。
15		普段接することのない避難所の設備に触れることができ、前もって知ることができて良かったです。
16		実際に避難することが想定されていて、自分たちのこととして捉えることができとても有効だった
17		実際に見て触れることができて良かった。
18		子供たちが体験できるスペースが多かったのが助かりました。

番号	項目	意見等
19	避難所体験全般	大変参考になった。
20		テント、トイレ、ベッドなど、しっかりしていて安心できました。
21		子供達にとって誰かに話を聞くこと映像や写真として見ることより、体験することで自ら考える力になると思うので、いい経験になりました。
22		良かった。
23		暖を取るグッズは事前に家庭で用意が要ると感じた。配布物だけでは家族4人で足りない事が見て実感できて為になった。
24		小1の娘とは親が仕事中に災害に見舞われたらどうするか、といった話をあまりしたことがなかったので集合場所等確認する機会になりました。
25		丁寧。
26		避難所がどのような感じかを知ることができて為になった。
27		実際の経験がないと実感がわかないため、こう言う機会がないと普通に過ごすだけになってしまう。学校で親子共に参加を義務化するのは非常に効果的かつ、効率的だと思う。
28		避難所へ入る際に記入する健康チェックシートがあることを初めて知りました。体験できて良かったです。
29		地域の方のボランティア活動としてのご案内に感謝する思いです。
30		避難所の受付がQRコードでびっくりした。記入事項が細かく、とても良いと思った。
31		子供もよく災害の怖さを理解しました。
32		子どもと参加できる機会があるのは嬉しい。保護者向けに避難所設営訓練などがあれば、参加したい。
33		とても丁寧に説明してくださり子供も楽しんで参加していました。本日体験したことで子供が我が家の防災グッズに興味を示し、使い方の説明などを求めてきました。またこれは自分が運ぶね！など役割分担も考えてくれ防災意識の向上にもつながりました。ありがとうございました。
34		具体的に、避難所でどのように過ごすことになるか、実際に見ることができて良かったです。
35		この度初めて体育館をのぞいてみました。備蓄庫や避難所開設の様子がよくわかりました。また、実際に備蓄品を見ることができ、家庭でも用意しておくべきだと認識が強まりました。使い方も知ることができとても参考になりました。体育館外のマンホールを利用してトイレにすることや仕組みも初めて知りました。日頃から防災を意識して生活することが大事だと思いました。電池を使わなくても手回しだけでラジオが聞ける物があると便利だと思いました。色々ご準備いただきありがとうございました。
36		避難所の受付があることを知らなかったので役に立った。
37		防災への意識が高くなった。

番号	項目	意見等
38	避難所体験全般	実際避難時のスペースやトイレなどがどのような感じか体験できて良かった。備蓄食料をいただき、子供がどのようなものかさっそく食べる！ということで、帰宅後すぐに食べた。思いのほか美味しく、家でも備蓄をしようと話をした。
39		実際の避難所になる体育館で横になったり、簡易テントの大きさを体感できる機会が今までなかったので、大変有意義でした。これを踏まえて、個人的に必要な防災用品をさらに準備していきたいと思いました。
40		布団がないのでアルミシートを使ったり、簡易トイレだったりと大人は知識として理解していましたが、実際に体験する事で子どもの理解も深まったと思います。実際にこのような事があるかもと疑似体験出来たのは、準備として良かったと思います。
41		実際に触れたり見たりすることで、避難所や必要なもののイメージが具体的にできるようになりました。
42		暖を取るグッズは事前に家庭で用意が要ると感じた。配布物だけでは家族4人で足りない事が見て実感できて為になった。
43		実際に見ることできるので、子供も理解しやすく安心して避難所を利用できそうな気がした。
44		簡易トイレやテントなど、いつか使うかもしれないものを実際に見て知っておくことは、いざというときの訓練になると感じた。
45		避難所での生活をイメージすることができ、必要な備えなどを改めて考えるよい機会になった。
46		テントなど避難所で使用される物を体験できたことで、避難所での生活について具体的にイメージすることができた。
47		意識向上につながった。
48		意識が薄れていた頃に、このような機会があって良かった。
49		避難したことないので怖さも、混雑ぶりもわかりませんが、最近、地震が多いので意識的に防災について目がいきます。
50		実際にどのような環境でどのような設備があるのか、体感することで得られるものは大きかった。体感することで、自分がその環境に置かれた時にどう動けるのか、感じるのかと思いを馳せることができ、防災についてより意識が高まると感じた。
51		親子で体験することで防災意識の向上につながった。
52		防災意識が高まりました。今日学校に行ってよかった。
53		防災意識の向上につながりました。ありがとうございました。
54		防災意識の向上につながりました。
55		家にある保存食の期限を確認したり、防災について考えるきっかけになった。
56		避難場所の確認をする事が出来ました。
57		実物を見て触れて体験できたので親子で勉強になりました。展示の内容が昨年とほぼ同じ様に感じたので新たな発見というよりは知識の確認に繋がりました。

番号	項目	意見等
58	避難所体験全般	実際に避難して一定期間生活するには、学校は現実的ではないと感じました。災害があった際に、どこかの避難所まで避難するか、収容人数が多そうな施設を目指すように、子供と話をしました。
59		普段から災害時の日用品や衣類、食料などについて準備すべきだと再認識しました。寒い季節、暑い季節、どちらにも対応できるようにしたいと思いました。
60		避難所のプライベート範囲が狭いことや床の硬さ、トイレの使い方などから、避難所生活に必要なもの、持ち込むものが理解できた。また、避難所の運営やルール、特に衛生面について質問したがはっきりとした答えがなかったので、決められたルールがあるのか、事前に周知し理解しておく必要があるのではないかと強く感じるとともに心配になった。
61		避難場所の1世帯分のスペース、収容人数を知り、やはり狭く、人数もおそらく入らないであろうこと、自宅が使えるなら、自宅避難がベースになるであろうことが分かった。備蓄品の点検、買い足しの検討をしたいと思います。
62		避難所の様子や簡易トイレ、マンホールトイレの様子がわかって良かった。
63		小学校でも体験していましたが、改めて避難所の一区画の大きさや、マンホールトイレなど実体験を繰り返すことで子どもにとっては身近な体験になっておいてもらうことが大切だと思いました。
64		マンホールトイレを初めて見た。
65		こどもはトイレのことがとても記憶に残ったようで、ずっとマンホールトイレを探しながら歩いていました。
66		子どもとマンホールトイレや防寒アルミなど体験ができて良かった。子どももイメージがわいたとおもう。スタッフや地域の係の皆さんがとても丁寧に教えてくれて有り難い。
67		マンホールトイレがどこにあるかわかってためになった。体育館の展示は説明が少なくイマイチよくわからなかった。
68		一家族のスペースが狭いと感じました。マンホールトイレが校庭にある事を初めて知りました。
69		トイレが実際のマンホールを開けて設置してくれたので、家に準備しなきゃいけない重要性がわかった。『実際は相当臭いですよ。私は家に100回分準備しました。』という職員の方の言葉も印象的でした。
70		マンホールトイレが何処に設置されるかも教えて頂けたので良かったです。
71		学校の裏に防災トイレの案内板があることを、きょう初めて知りました。水を流しているところを見られて良かったです。
72		トイレの屋外排水施設など、災害時に役に立つものがあることがわかりよかった。避難場所への不安が軽減した。
73		自分達のスペースが想像より狭くて、ストレスがたまるとか危険でも家に帰りたくないなとか思いました。マンホールトイレを初めて見れて良かったです。
74		避難所用のトイレを初めて見たので勉強になった。

番号	項目	意見等
75	避難所体験全般	マンホールトイレが実際に見られて良かったです。
76		マンホールトイレの存在を知らなかったの、仕組みを知れてよかった。家での防災グッズを見直そうと思った。
77		子どもたちがトイレや寝る場所に関心を持っていた。少し怖そうだったが、具体的に想像をするいい機会になったと思う。
78		トイレなどプライベート空間に限りがあるので音など心配事が色々あるなと感じました。備蓄品も増やしていきたいと感じました。
79		避難所で使用されるトイレの展示を実際に見て、キレイに使う大切さを学べた。
80		簡易トイレや避難グッズなどを実際に見れて子どもたちの知識や興味も深まった。定期的に参加して維持したい。
81		避難用のテントやトイレなど、実際にどのような設備か知ることができて良かったです。
82		災害時のトイレの利用方法など、知らない情報を知れてよかった。
83		トイレなどいざという時に使用できるよう、家族で1度体験しておこうと思いました。
84		仮設トイレを初めてみました。参加して良かったです。
85		トイレの様子が分かったのは一つ安心材料になりました。
86		避難所でのトイレ事情が分かった。
87		子ども（低学年）に実際避難所で使うトイレなどを見せる、体験することで知ることができたのはよかった。
88		いざとなったときのトイレなどわかりやすかった。
89		実際に簡易トイレに入って座ってみて意外としっかりとしているな、と感じることができた。避難したらこんな感じ？という雰囲気を感じることができた。
90		防災トイレの話は参考になった。用意が大変だと思うが、実際避難所で避難する際の様子なども知りたかった。
91		実際に使用するであろうトイレやアルミシートなどを実際に見ることができて良かった。
92		避難所でのトイレの使い方がわかってよかったと子供は話していました。避難所がどういう所か予め知ること、万が一の際の不安を軽減できると思うので、大変よい取り組みだと思います。
93		簡易トイレの見本や、避難した場合にどんな装備が提供されて過ごすのかイメージができました。
94		非常トイレ見ることができてよかった。
95		大人は簡易トイレの組み立て方など、実際に体験できるとよい。
96		トイレの使い方などの説明を初めて見る事が出来たので参考になりました。
97		簡易トイレキットの使い方など、手順を教えていただいたのがよかった。実際に使うことになったときにあせらずに使用できると思う。

番号	項目	意見等
98	避難所体験全般	トイレのビニール袋の厚みが参考になった。ブランケットも家にあるが広げると戻せないなので、体験できてよかった。
99		避難所で使うテントに入ったり、薄い銀紙のような紙が本当に温かいの？と子供に巻いてあげたら温かい！とびっくりでした。
100		アルミシートの暖かさを体験できた。マンホールトイレの仕組みがわかり、子供が興味津々だった。
101		スタッフの方々がお手洗いやアルミシートなどの使い方を親切に教えて下さって、色々なことを楽しく学ぶことができました。ありがとうございました。
102		最初に人数などを登録するシステムがよくできている一方で、災害時の通信環境や、スマホ等を所持していない場合の対応が気になった。人数が多かった世帯は、登録ができないと次に進めないのか、代表以外は次に進めるのか、次に進めた場合、登録しなくてもいい人もいいのか、など。
103		防災訓練の位置付けとして、多くの保護者が来校する中、引き取り時間で待つ人が溢れていた。一部の職員が防災コーナーを見ていくよう声をかけていて、中を見て回ったが、防災グッズについて質問しても答えられず、説明書を読み始めたが、誰もが（職員の方々も）貴重な時間の中での訓練なので、形だけにならないようにしていただきたいと思った。
104		展示物は壁から少し離れたところに展示した方が見やすいかもしれない。
105		ビニールシートとアルミの防寒シートが置いてある、災害用トイレが置いてある、なんだろう風呂？という見渡した時の印象。体育館に入ったら野放しなので子どももわからず遊び出す。スタンプラリーで説明を受けながら参加しやすい環境の方が学びがある。赤ちゃんが産まれたので、災害時はどうしたら良いのか避難所体験に出向いたが、子どもが遊んでたのを見守る時間になってしまった。
106		実物のテントなどが見られて良い経験でしたが、説明スタッフの数が来場者の入場数に見合わなかった気がします。子供は体験したがりですが、親には説明パネルで十分な場合もあるため、フリップのように大きな文字で要点だけを書いたボード的なものがあると見やすいです。
107		避難グッズの紹介が中心でしたが、実際の避難所の写真パネルなどがあるとよりイメージしやすいと思う。
108		テント型の避難所が思いのほか広くて、天井は網で圧迫感がなく良いと思った。床にブルーシートやアルミシートだけではやはり居心地が悪いので、個室やベッドなど、プライベート空間を確保できる設備がもっと増えるといいと感じました。
109		体験できる項目が、「地域防災訓練」の日に比べると極端に少なかった。子供達にとっては、座学より体験が特に記憶にも残ると思うので、体験できる内容を増やせたら、と感じた。また、避難グッズや地域活動が展示しているコーナーは、避難グッズ以外は、何を伝えたいのかがよくわからなかった。

番号	項目	意見等
110	避難所体験全般	兄の時から行っていますが、毎年同様の内容のため、6年生が少ない理由も分かります。1年生向けや暫く振りに振り返りをする必要も然りですが、工夫があっても良いと思いました。映像も流しているだけで見ている人は見受けられませんでした。そのため、映像を見て、何か自宅での行動につながるようにするとか、シュミレーションをしてみるとか、家にある防災グッズコーナーも自宅に帰って点検につながるようにするなど、東日本大震災を教訓に考えるという趣旨に沿った内容が展開されることを期待したいです。
111		子供と話し合うきっかけにはなりましたが、情報として新しく何かを得ることはなかったかと思います。また、体育館に行った際にまだ準備途中だったのと、内容が昨年とほぼ変わらず、子供は来年は行かないと行っておりま。
112		引取後だと混雑するので、学校公開の時間にも大丈夫にいただけると見に行きやすいです。
113		備蓄品や雰囲気はよく分かった。避難所運営は避難者が主体となってやるものと認識しているが周りの保護者と話すと「お客様」感が強く、運営への理解が必要なのではないかと感じた。
114		もう少し、具体性があっても良いと思った。どちらかという各ブースにて防災について学ぶ流れだった。災害時での対応は十分に理解できるが、防災という観点であれば、スマホが使えない、避難所の場所の確認といった身近なところから学ぶ事も大切ではないでしょうか？
115		積極的な案内や説明がなかったので、ただ見て帰って来た感じでした。もう少し避難所体験としての工夫が必要なのではと思いました。せっかく学校の中で行っているのに中学生の力を借りて、学校と地域行政の協力が出来たらよいのではと思いました。いろいろな事情で難しいことかもしれませんが、もう一步踏み込んで取り組むことが出来たら防災意識が高まるのではないかと感じました。

番号	項目	意見等
116	避難所体験全般	初めて参加しました。たくさんの方が準備をしてくれて、このような場を設定してくださったことに感謝します。その上で親の立場、地域の立場であえて厳しい意見を言わせていただきます。いざ震災が起きた時の準備として、あの日の避難所体験をしてよかったね、と多くの人が思える時間にして欲しいという願いからです。避難所体験はどんなことをできるのだろうか、どんなことを知ることができるのだろうかと期待していましたが、よくわかりませんでした。ダンボールの囲い、マット、テントが置いてあるだけでこれはなんの用途をなしているのか特に説明も書いておらず、説明をしてくださる方がいても、後ろが詰まってるので早く進むようアナウンスがあったり、ただ体育館を歩き備蓄食糧をもらった程度の記憶にしか残りませんでした。最初に名簿？の紙とペンをいただきましたが、今書くものなのかわかりませんでした。高学年の子は名前など書いていましたが、避難した時に書くものであればその説明が欲しかったです。ペンは使わないのであれば、なぜ配布したのか？そしてなぜ回収しないのか？もわかりませんでした。一緒にまわった帰国子女のご家庭へは、さらに詳しい説明が必要だと感じました。長蛇の列になってしまうのなら、体育館の左右に列を作れば良いと思いましたし、説明でつまようならば、簡単にこれはどうゆう用途で使うものと、簡単な説明を貼ってくだされば良いと思いました。とか、スクリーンに動画を上映しておけば、真ん中のマットに座りながら見られたかもしれません。お忙しい中、ボランティア等でやってくださっている方も多いと思うので、大変なことを承知しています。ただ、来年度は、まわってみて、避難所を安心して快適に過ごせるために一人ひとりがどんな行動ができるのか、それに気づけるような展示等期待しております。
117		震災被災者です。日頃から新聞やニュースで各地の訓練の様子を見聞するようにしています。このように使います のパネルや写真があるともっとわかりやすかったかもしれません。
118		体育館の入り口で人が詰まりだした。各ブースで説明をしてくれていたが、関係者と思われる高齢男性が説明なんかしないでどんどん流さなきゃダメだと、怒りながら説明している人に言っていて、趣旨がわからなくなった。実際の避難時にはかなり混乱するだろうな～という感想を持った。
119		前回小学校で参加させて頂いた時は被災時に使える様に記入しておく名簿等いただけたが今回はなかった。どんなことに必要な物がこんな感じで、こんなものが不便いかなかったとか、パネルなんかがあっても良いのかな？と思いました。
120		参加者が少なく、効果があるのか疑問に思った。内容も毎回同じようなことで、一度見ればわかった気になり次へ繋がらない気がする。参加したい、参加後に防災アクションを起こしたい、と思える工夫が必要だと思う。防災だけでなく、家庭でできる減災のアイデアなども教われたり、ワークショップなどがあると人が来るかも知れない。参加する家庭の多くは、もともと防災意識が高いので、備蓄や避難ルートの話し合いは済んでいると思います。そうでない皆さんに参加して欲しい。
121		3年生以降と聞いたので参加できなくて残念でした。

番号	項目	意見等
122	避難所体験全般	参考になるものの展示が少なかった。わりと閑散としてた。レジャーシート、1 枠分の広さを知れた。簡易トイレを初めてみれた。
123		ねらいや目的を伝えたいという使命感が全く伝わってこなかった。
124		避難所体験とまではいけない内容でした。
125		運動場で先生がアナウンスしていたが、あまり聞こえなかった。
126		案内や説明がなく、スタッフがただ立っているだけで趣旨がよく分からなかった。説明してくれるスタッフもバラツキがあったり、同じように列に並んでいるのに配分物について声かけがあったりなかったりだった。
127		案内等が特になく、よくわからないブースがあった。
128		早めに行って体制が整ってなかったのか？何かどうまわれればいいのか？よくわからず一つ一つ回ったが何も声をかけられず意味わからずに一瞬で終わった…。何かもらえると書いてあった記憶だが何ももらえず悲しかった。
129		避難所利用時の受付など手続きはよくわかったが、家族あたりに与えられるスペースや備品などはよくわからなかった。
130		備蓄品のソーラーパネルについて、どのくらい電気の使用（暖がとれるほどなのかなど）ができるのか係の方に尋ねたが、曖昧な答えしか返ってこなかった。蓄電池は充電中で、すぐ使えるものではなかった。もし今、地震が起こったとしたら、●●小の避難所では不安に感じた。また、体育館は思ったより狭く、地域の方も避難に来るとしたら、全員入れないと思った。高齢者や幼児が優先されるとしたら、私たちは自宅で待機するしかない。自宅での防災グッズや食料の備蓄がとても大切と感じた。
131	備蓄品	備蓄品の使い方等が親子で体験でき良かった。
132		子どもと一緒に防災グッズの体験ができたのでよかった。
133		防災グッズの体験ができて良かった。
134		学校の裏にある防災倉庫を見ることができて良かったです。
135		赤ちゃん用のミルクも準備されていて助かるなと思いました。また、災害用トイレなどがどんな感じなのか等、実際に見れて良かったです。
136		いざという時の備えの大事さを改めて考える機会になりました。
137		着替え用のテントの縦幅が高くてよかった。
138		携帯トイレ等、防災グッズを知ることができて良かった。
139		学校や自治体でどんなものを備蓄しているのか知れて参考になった。
140		非常食が嬉しいみたいです。
141		今は非常食が色々あって良いなと思いました。
142		非常食を頂けて嬉しかった。
143		普段、使うことがない防災グッズを子供も手に取り、身近に感じられました。
144		実際に使用するグッズを確かめる事が出来たので、とても参考になった。

番号	項目	意見等
145	備蓄品	体育館内に展示されていた防災備蓄倉庫にある非常時の用具をわかりやすく説明いただき、実際に体験できて親子で知識を深めることができました。特に体育館の外にマンホールトイレが5つあることを知り、汚物を下水へ流す仕組み等も教えていただき避難所として必要な設備があることに安心しました。
146		事前にこういう簡易ベッドや御手洗を知っておく事でいざという時に戸惑わずに理解出来そう
147		トイレや簡易ベッドなど、色々考えられていると思った。災害時にそう言うものが使えるのはありがたいが、普段使ってるものとは違うところもあり、慣れるまで時間がかかりそうだった。
148		備蓄品のイメージが変わった
149		備蓄品への準備意識が高まった。一方で、自宅避難するのか、避難所へ行くのか、家族の集合場所へ行くのかなどは、被災時の状況で選択を迫られるものと思うが子どもたちにその辺の判断基準などの知識がつくとさらに良いと思った。家庭での言い聞かせはするものの、子供が我ごととして捉えられるよう頭だしして欲しい。15分単位で全体説明などあってもいいのでは。
150		備蓄品、防災グッズについて備えることの意識を向上させることができた。
151		避難所に行く必要性の判断や家庭内での備蓄品の準備について学べた。また、この機会があったことで家族でも一人のときに災害にあった場合についての話し合いができた。
152		非常用袋について子供と話し合う機会になった
153		備蓄物品に不足がないか確認しようと改めて思いました。
154		備蓄を考えるきっかけになった。
155		改めて、備蓄品の定期的な確認をしようと思いました。
156		備蓄品の見本を頂いたので、子供と防災について話すきっかけとなった。
157		なるべく備えようとしていますが、実際に見る機会はなかったので勉強になりました。
158		あらためてローリングストックについて考える機会になった。
159		備蓄品や、避難の際のルートや集合場所など、もっと話し合っておくべきだと感じた。
160		改めて備蓄品の見直しをしようと思いました。
161		備蓄の入れ替えをしようと思った。
162		避難所体験を通して、改めて家族で災害時の行動や備蓄品の確認をするよいきっかけとなった。
163		一番重要なのはトイレであることを理解した。また、一つの家庭の範囲が狭く、家で過ごせるならその方が良いと思い、家の物の位置や備蓄品の内容なども見直そうと思った。
164		家の備蓄品の見直しを行なうきっかけになった。
165		避難所に持っていく物を考えるきっかけになった

番号	項目	意見等
166	備蓄品	備蓄品のローリングストックについて、家族で相談するきっかけになった。避難所のスペースやトイレなど、実物を見ることができて分かりやすかった。アルファ米も種類が増えていて、家庭で準備する参考になった。
167		マンホールトイレが見られてよかった。備蓄品の準備をしようと思った。
168		防災トイレが参考になりました。
169		アルミシートがすごく薄いのに暖かくてびっくりしました。
170		非常食が美味しかったので家で購入しました。ペットの必要品の確認につながりました。
171		避難所としての機能より、●●小としての体育館を避難所としてどう活用するか、資機材はどこにあってどう設置するのかを詳しく教えて欲しかった。もしくは普段から避難施設の利用マニュアルが分かりやすいところに掲載されていれば良かった。
172	避難スペース	ベビー用品でミルクの箱がおいてあったので、在庫はいくつほど、置いているのか訪ねると多分、100程ですかね？と担当者が正確な個数を把握してない様子でした。小さい子どもも居ますので、少々、不安に感じました。
173		実際のどの位のスペースに避難するかを子供と一緒に見る事ができて良かった。
174		避難場所では、避難スペースの狭さなどがわかりました。みんなと協力をしなくてはならない事を学びました。
175		ブルーシートの一家族分の大きさが体感できてよかった。
176		テレビで見るばかりでしたが、実際のブルーシートのサイズ感などがわかってよかった。
177		実際のスペースがどのくらいかや、非常用トイレはどのような感じか理解することができてよかった。
178		トイレの汚物を固める？消臭効果があるものがあることは知らなかったのも勉強になった。実際にレジャーシートの大きさ1人あたりを見て、あの空間に何日もいるのは辛いなと感じた。
179		個人のスペースやトイレの体験など、親子でイメージを持てた。繊細な子なので体験していることで実際に起きた時の不安が軽減できそう。また参加したい。
180		実際の一人当たりのスペースやトイレなど避難所の様子を見て、防災について身近に感じる事ができた。今までは遠いどこかのイメージだった。
181		調布市は避難所が仕切りなどが無いパターンとわかりました。自宅での避難生活が出来ない場合に備えて、1家族分スペースのテントを用意しておこうと思います。また、トイレはあったのですが、どのくらいの個数準備されているかはわからなかったもので、その辺りもわかるとより想像がしやすかったかなと感じました。（どこかに書いてあったらすみません）実際の避難所のイメージが分かった部分もあったので、参加して良かったです。
182		一家族の避難所でのスペース紹介や、簡易トイレなど避難の際のイメージができました。
183		実際に避難した場合の世帯スペースなど、具体的によくわかりました。

番号	項目	意見等
184	避難 ス ペ ー ス	避難所体験は初めてだったのでひと家族のシートの大きさやトイレなど初めて見るものばかりでした。
185		体育館での避難スペースは地域住民が殺到するとすぐにパンクしそうだと感じ、在宅避難の方向でより備えた方がいいと改めて思った。
186		避難所があったとしても、スペースの問題で入りきれない可能性があるとは聞いていたが、実際にひと家族あたりのスペースなどを見て、在宅避難できるような準備が必要だと感じた。
187		避難所でのスペースがあんなに小さいとは思っていなかった。あの場所で長い期間を過ごすことを考えると、避難する際に持って行く物もしっかり用意しておかないといけないな、と実感した。
188		今回子どもが体験したがつたため参加しました。この地域の避難所があまり広くないことや、窮屈さ不便さを体感することで家庭での備えを考え直すきっかけになりました。
189		今回初めて避難所体験に参加しました。災害が起きた時、学区内の小学校の避難所に避難することを家族で話し合っていました。いざ近隣の人々が体育館に殺到したら、スペースが足りないことを実感しました。
		水やトイレ、非常食などの備蓄をし、災害時にも自宅でできるだけ過ごせるよう対策をしたいと思います。
190		家族で避難した時のスペースがかなり狭く、そして底冷えや床の硬さもずっと過ごすのは厳しいと思いました。子供も静かに過ごすのは難しいでしょうし避難時どうやって過ごせば良いのか不安になりました。なるべく家で過ごせる様に備品を用意しておかなければと思いました。
191		避難所はすぐに人でいっぱいになってしまうだろうと感じた。
192		実際の避難スペースは、家族4人で横になるには狭いくらいのスペースである、他の避難者との距離が近いことを実感しました。また避難時のトイレも実際に見たり、座ったりして、使用イメージがつかえました。子どもにも学校へ避難するときにはどのようなことがあるのか改めて確認できるよい機会になりました。小学2年生の子どもは、家庭での備蓄品や避難する経路など、以前家族で伝えたことも忘れてしまっていたため、普段から繰り返し伝えて確認することが大事だと感じました。避難所体験への参加は非常に有意義でした。
193		実際の「ひと家族ごとのスペース」を体感できて良かった。狭いと感じたが、避難が現実となった場合、地域すべての避難者を受け入れるのは困難とも感じた。
194		体育館での確保できる1人分のスペースが狭いと感じました。
195		1家族あたりのブルーシートが狭かった。
196		実際に避難できる自分たちのスペースが思ったよりも狭く感じ、長引くとかなりしんどいだろうなと思いました。
197		実物を見たことで避難した時のイメージが少し湧いた。避難所での1家族分のスペースは少し狭いと感じた。

番号	項目	意見等
198	避難スペース	1 区画 1 家族でしょうか。決して広くはありませんが、体育館全体を区切ったとしても、避難所にはごく一部の人しか入れないと感じました。
199		人家族あたりに設けられる面積が小さいことに驚きだった。
200		ブルーシートが一家で一枚と言われたが、家族の人数によって広く使える家庭と狭い家庭があり、不公平な気がした。なかなか難しいかもしれないが、1 人辺りの面積で計算してもらえたら良いのでは？と思った。 でも緊急時の一時的な避難所と考えれば、屋根と壁があるだけで十分なのかも思ったり。
201		1 家庭のスペースがどのくらいか知れてよかった。想像以上に狭くて驚いた。
202		一家庭分のスペースがかなり狭く感じた。
203		家族で避難するには狭いな、と感じた。避難所そのものの安全性が心配になった。建物の耐久など
204		体育館にブルーシートが数枚敷かれ、上にアルミ毛布の様なものが置かれていたが、どういう目的で設置されていたのか案内等がなかったので分からなかった。あれは 1 人当たりの避難スペースですか？ 1 家族あたりですか？

第3章

「命」の授業、啓発講話(活動・体験)の記録

ねらい 過去の災害の教訓に学び、備える

- ◎過去の災害からの教訓や、防災分野の有識者の知見から学ぶ
- ◎「命」の授業、啓発講話(活動・体験)の記録を共有する
- ◎自助・共助の意識と行動様式を啓発する



まちかど防災訓練車による消火訓練（第五中学校）

3-1 第一小学校

多摩川が起こす水害と、命を守る行動

第4学年

第4学年では、「多摩川が起こす水害と、命を守る行動」をテーマに学習を行いました。授業では、多摩川の特徴や過去の水害について動画資料を活用しながら学び、水害が起こる仕組みや、地域の防災対策について理解を深めました。

児童は、台風や大雨による増水の様子を見ながら「普段は安全に見える場所でも危険になることがある」と気づき、ハザードマップや避難情報の大切さについて考えました。

さらに、「自分の命を守るために何ができるか」を話し合い、「早めに避難する」、「川や用水路に近づかない」、「家族と避難場所を確認しておく」など、具体的な行動について意見を交流させました。

防災について「自分事」として考える貴重な機会となりました。



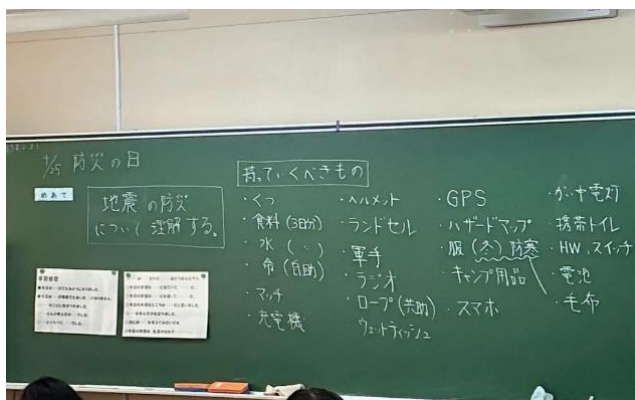
防災教育VR「B-VR」(学校で首都直下型地震が起きた場合の身の守り方)

第2～6学年

第2～6学年では、東京消防庁制作の防災教育VR「B-VR」を活用し、地震発生時の教室内の危険について考える学習をしました。児童は、地震発生後の教室の様子をVR映像で視聴し、「どこが危険か」、「どのように身を守るか」をグループで話し合いました。

映像の中では、ロッカーや掲示物の落下、窓ガラスの破損などの危険など、普段過ごしている教室にも多くの危険が潜んでいることに気づきました。児童からは「机の脚をしっかりと持つことが大切」、「物が落ちてこない場所を考えたい」など、自分の命を守る行動について具体的な意見が出されました。現在使用している教室についても危険箇所を確認し、安全に避難するために必要なことを考えることができました。

また、非常時に持ち出すべきものについて意見を交流させました。帰宅してから自宅の防災グッズを確認したいという児童の姿が見られました。



3-2 第二小学校

「防災意識を高めよう 地震に備えて～あなたはどうする～」

講師 調布消防署員

第6学年

災害が発生して避難する際、どのようなものを持っていくとよいかについて話し合いました。活動は、24種類の行動の中から、8種類を選ぶ方法で行いました。一人一人が本当に必要なものを考えた後、グループで話し合い、学級全体で共有しました。グループでの話し合いでは、多様な考えに触れることで、避難所での生活について理解を深めることができました。

また、日頃の備えの大切さや、家庭の状況によって必要なものが異なることに気づき、いざというときに備えようとする意識を高めることができました。



救急対応について

防火女性の会・おやじの会による体験活動

第5～6学年

第5～6学年対象に「防火女性の会」による応急手当法訓練と「おやじの会」による防災担架体験を実施しました。これは、救急法や防災への関心を高めることをねらいとした活動です。

応急手当法訓練と防災担架体験は体育館で行い、バンダナを用いての止血の方法を学んだり、実際に担架を作る体験をしたりしました。二人組で腕を押さえながら行う中で、一人で行うことの難しさを実感する姿が見られました。また、「互いに押さえあうことで楽になった」という声もありました。

児童からは、「バンダナで止血をする方法が分かり、これからに生かせそうだ。」、「毛布とブルーシートで簡単に担架が作れることに驚いた。」といった感想が聞かれました。

今回の体験を通して、災害時に互いに助け合う共助の意識を高めるとともに、自分ができることを増やそうとする意欲につながる活動となりました。



3-3 第三小学校

地震後を生き抜くために

第4学年

人命救助で生存率が大きく変化する72時間を生き延びるために、避難するときの非常持ち出し袋に何を入れるのかについて、考えました。

真っ先に「非常食!」、「水!」と飲食物を思い浮かべたものの、「どんな種類の食べ物を持っていくのか」と言う教師の問いかけに対し、缶詰やフリーズドライのご飯等の種類について考えたり、自分が背負えるだけの重さを考えて数を決めたり、当事者意識を喚起することで少しずつ予想が具体的になっていきました。さらに、友達との意見交流を経て、光源や熱源、アルミの毛布や医薬品など、本当に必要なものは何かについてどの子も真剣に考え、学級全体で共有しました。

最後に実際の非常食であるアルファ化米のおにぎりを試食しました。災害時の様子を疑似体験し、自助の精神を高めることができました。



災害時の河川付近の防災について

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第5～6学年

京浜河川事務所が作成した、河川の防災についての動画を視聴しました。実際に多摩川・鶴見川の様子がリアルタイムでモニタリングされている管理室で撮影されており、迫力満点です。

2019年に実際に起きた多摩川氾濫の写真や動画を見ながら、自分たちの身近な多摩川にも危険がはらんでいることを再認識しました。また、第5学年の理科の学習にも触れ、流れる水の威力や働きについて学びました。子どもからは、普段から避難指示の警戒レベルやハザードマップで危険地域を把握しておいたり、家族と避難場所を決めておいたりしようなどの感想が出ていました。

3-4 八雲台小学校

「非常持ち出し袋って何だろう?」、「新聞紙から非常用スリッパを作ろう」

第2、3、4、6学年

非常持ち出し袋とは何か意見を出し合いました。次に、どんなものを入れておけばよいか一人一人が考えてワークシートにまとめてからグループで話し合い、学級全体で共有しました。グループの話し合いでは、それぞれが入れておきたいと考えたものが違うことに気が付きました。

また、大地震の際、自分の部屋から逃げ出す際、物が散乱したり、割れたガラスが散乱していたりすることから、新聞紙でスリッパを作る作業を行った学年もありました。児童は、新聞紙からスリッパが作れることに驚きを感じていました。



「子供たちの命を救うために」

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第4～6学年

京浜河川事務所による、「①多摩川を知る」についての動画を視聴しました。身近な多摩川について理解を深め、過去に大雨で氾濫したことがあると知りました。児童は驚きとともに多摩川の氾濫の怖さを感じていました。また、災害時にはどのような行動をすればよいかを知り、自分がどのように行動すればよいかを考えました。

通学路の危険では、近くを流れる野川について触れながら、大雨の時はどのような箇所が危険なのか、子どもたちだけでいる時はどのような行動をとればよいのかをみんなで確認しました。



3-5 富士見台小学校

「避難所運営について」

講師 富士見台地区協議会

第3学年

第3学年は地域の方々から「防災倉庫の見学」、「マンホールトイレの設置・使い方」、「断水時の対応」について教わりました。

防災倉庫を見学してどんなものが倉庫に入っているのか確認することができました。また、マンホールトイレを実際に組み立て、使い方について学びました。避難所に避難してきたらどんな生活になるのか、想像することができました。



「自分の命を守るためにできること」

講師 調布警察署員

第4～6学年

調布警察署の方々から、災害のときは「自分の命は自分で守る」ことが一番大切であると教わりました。

災害時には、110番・119番しても駆けつけることができないことを知り、「自助」の大切さを知りました。また、高学年になると「共助」をする可能性があることも知りました。最後に動画を見ながら、避難の仕方を学び、自分ならどうするか考えることができました。



3-6 滝坂小学校

自助・共助・公助

第4学年

第4学年は、災害時における自助・共助・公助について考えました。

まず、動画を視聴し、自助・共助・公助について確認をしました。その後、それぞれの課題についても考えました。共助については、お互いに被災している状況での活動の難しさ、公助については行政自体が被災によりその機能を十分に発揮できない可能性もあることなど、現実に取り組むことについて意見を交換しました。

次に、被災した状況の中で共助を行っていくためには、普段どのようなことに気をつけていけばいいのかを子供たちのグループに保護者も入っていただいで話し合いをしました。「普段から挨拶などを交わし、顔見知りになっておくこと」や「防災備品は自分たちだけの分だけでなく、少し多めに用意し、必要あれば分けてあげられるようにする」など、具体的な方法について考え、防災の意識を高めることができました。

起震車体験

講師 調布消防署員

第5学年

調布消防署員による起震車体験を実施しました。

グループごとに起震車に乗り、揺れを体験しました。震度7クラスの揺れも体験し、その揺れの中で身の守り方を実践しました。倒れてくるもの、落ちてくるもの、飛んでくるものなどから身を守るために、テーブルの下にもぐり、テーブルの脚をつかんで身の安全を確保しました。

激しい揺れの中で身を守る行動をとることはなかなか難しく、貴重な体験をすることができました。

聞いたり見たりするだけでなく実際に体験をすることで、子供たちの防災に対する意識も高まりました。



3-7 深大寺小学校

どうする？災害時の食の備え

全学年

本活動は、災害時の食事や備えについて理解を深め、自分の命を守るために必要な行動を考えることを目的として行いました。はじめに、災害時には食料の確保が難しくなることや、日頃から家庭や学校で備蓄をしておくことの重要性について説明しました。その後、非常食として用いられるアルファ化米の特徴について紹介し、水やお湯を注ぐだけで食べることができ、長期保存が可能であることを学習しました。

続いて、実際に備蓄米を調理し、出来上がるまでの時間の長さを確認した後、児童全員で試食を行いました。児童からは「思っていたよりおいしい」、「普通のごはんとあまり変わらない」などの声が多く聞かれ、非常食に対する印象が大きく変わった様子が見られました。また、水だけで調理できる点に驚く児童も多く、災害時の工夫について理解を深めることができました。活動の後半では感想を共有し、「家でも非常食を準備したい」、「災害のときに役立つと思った」といった前向きな意見が多く出されました。

「災害時に命を救うために」

講師 地域学校協働本部

第4学年

講師 調布消防署

第6学年

第4学年は、地域学校協働本部の協力のもと、消火器体験活動を行いました。火災時の初期消火の大切さを理解し、消火器の扱いに慣れることをねらいとし、「ピンを抜く」、「ホースを火元に向ける」、「レバーを握る」という一連の操作を全員が体験しました。

実際に消火器を持つことで、消火器の重さや操作の難しさを理解することができました。「思ったより重くて、狙うのがむずかしかったです」、「火を見つけたら大人に知らせることが大事だと分かりました」、「本物みたいで少し緊張したけど、やってみて良かったです」といった声があり、火災時の行動について具体的に考える姿が見られました。また、地域の方々が活動を支えてくださっていることを知り、地域と学校が協力して防災に取り組む意義にも触れることができました。

第6学年は、地震発生時の状況をリアルに体感し、適切な行動を考える力を育てることをねらいとして、地震の揺れを再現するVR体験を行いました。VR映像の中で突然揺れが始まると、児童は驚きながらも真剣に画面を見つめ、机の下に身を隠すタイミングや周囲の危険物への注意など、地震時の行動を具体的に学んでいました。「本当に揺れているみたいでこわかったです」、「机の下に入るタイミングが大事だと感じました」、「地震が起きたらどう動くか、もっと考えないといけないと思いました」といった感想が聞かれ、体験を通して“自分の身を守る行動”を主体的に考える姿が見られました。



3-8 上ノ原小学校

災害時に必要な家庭の備えについて考えよう(総合)

第6学年

突然やってくる自然災害に対してどのように備えるかを考えました。そこで「自助」、「公助」、「共助」の3つの言葉を学び、それぞれについて誰が、どんな備えをしているかを話していました。その中で自分が関われるのは「自助」であり、非常用持ち出し袋だったら今日からでも用意できるということになりました。袋の中に入れる物の優先順位をグループで話し合うことで水や食料など、生きるために必要なものは共通しているが、ぬいぐるみや娯楽などは個人や家庭の事情で変わってくるため、それぞれの家で確認する必要があることが分かりました。また、道具についてはただ用意するだけでなく、その道具がどのように活用できるかまで調べるのが大切と知り、授業で使ったワークシートを持ち帰ることで家庭での話題作りとしました。



放水体験(総合)

講師 調布消防署員

第6学年

調布消防署員の指導のもと、街角防災車を使つての放水体験をしました。児童は初めての体験で手探りの様子でしたが、消防士から教わりながら積極的に消火活動を行いました。体験を通して、ホースを使ったコントロールの難しさ、そして、それを扱う消防士のすごさを感じることができました。実際に消火栓ホースを触る機会はないので、とても貴重な体験ができたことはもちろん、自分たちも災害の時には何ができるかを考えるきっかけとなりました。



3-9 石原小学校

「留守番中に地震が起きたら」

第4学年

災害が発生したときに、一人で留守番をしていたらどうすればよいのかについて考えました。家の中の写真を見ながら、どんな危険があるのかを考えました。倒れる、落ちる、割れる、壊れるなど、たくさんの危険があること、そしてその対策について話し合いました。その後、コアラは硬いしっかりしたものにしがみついて身を守っていることなど、知っている動物に例えた安全行動について紹介しました。

地震は必ず揺れが止まるので、揺れている間にどう行動すれば命を守れるのかについて確認し、いざというときの防災意識を高めることができました。



「自らの命は自らが守る」

講師 調布消防署員

第6学年

調布消防署による、応急担架作成、結束訓練、通報訓練体験を実施しました。

応急担架作成では、担架搬送のしかたと担架の作成方法について学習しました。結束訓練では、ロープの取り扱いと基本のロープワークについて学習しました。通報訓練では、けがや急病人を発見した時に119番通報する方法について学習しました。

自分の命だけでなく、周りの人の命を大切にしようとする気持ちを高める体験活動になりました。

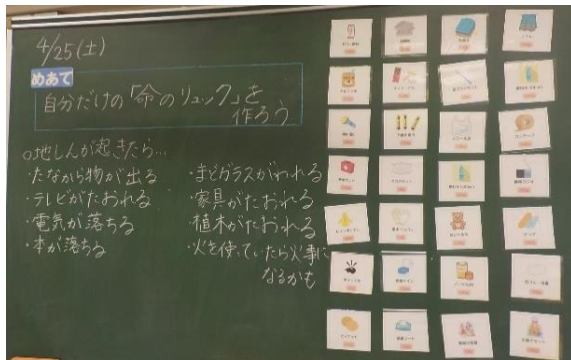


3-10 若葉小学校

自分だけの「命のリュック」を作ろう

第4学年

第4学年では、防災教育の日の学習として、地震が起きた際の避難行動について考えました。避難時に必要となる防災バッグについて知り、複数の道具の中から、持ち運べる重さも踏まえながら、自分なら何を持って行くかを班で話し合いました。また、それぞれの道具がなぜ必要なのか理由を挙げながら意見交換することで、防災への意識を高めていました。



「その時、いのちを守るために」

全学年

東京消防庁「B-V R (ビーバー)」を活用し、地震発生時の危険や身の守り方について学習しました。各学年で異なる場面を疑似体験し、「どこが危険か」、「どのように行動すれば命を守れるか」を考えながら学びを深めました。映像を通して災害の恐怖や危険を実感し、自分ならどう行動するのかを友達と交流することで、防災への意識を高めていました。



3-11 緑ヶ丘小学校

防災リュックをつくろうーいざという時のためにー

第2学年

大きな地震が起きると、電気が止まったり、水道やガスが出なくなったり、食べ物も無くなるかもしれません。防災リュックを準備しておくとう便利です。では、いざという時のために、防災リュックの中には何を入れておくとうよいのでしょうか。

プリントには、「ペンとノート」、「薬」、「ラジオ」、「ガムテープ」、「ライト」など、様々なアイテムが並べられています。子供たちはそれらの中から自分なりの考えのもと、選んでリュックに書き込んでいきます。

はじめは「自分」は何か必要かを考えて選んでいた子どもたちでしたが、授業の終わりには、防災リュックに入れる物は、「家族」にとって何か必要かを考えることが大切だということを理解することができました。



「大きな地震が起きたら」

講師 調布消防署員

第4学年

はじめに、大きな地震が起きたらどうすればよいのか子供たちに聞いてみると、「机の下にかくれる。」、「あわてない。」など、普段の避難訓練での学びを生かした発言がありました。

次に動画を視聴しました。動画では、2011年の東日本大震災における津波や火災による被害の様子、1995年の阪神淡路大震災における建物が倒壊した様子、2004年の中越地震における地割れの様子などの映像が流れました。

大地震を想定した避難訓練は何回も経験している子どもたちです。しかし、実際に起きた被害の様子を初めて目の当たりにした子どももいて、驚いた様子でした。

最後の感想では、「ブロック塀や自動販売機が倒れるなんて驚いた。」という発言があり、登下校時に大地震が起きたらそのような物にも気を付けなくてはならないことを学びました。

大地震はいつ起こるかわかりません。しかし、いつ起きても適切な行動を取ることができるように、この授業を通して今後の避難訓練にもより一層真剣に取り組んでほしいです。

3-12 染地小学校

こんなときはどうする？

第2学年

災害が発生したときはどのような行動をするのがよいか、〇×クイズを通して考えました。なぜ軍手や防災頭巾を着けるのか、正しい避難の仕方はどうかなど、理由も考えながら学級で理解を深めました。地震が発生したときには「おさるのポーズ」で自分の身を守ることを、実際に行いました。また、避難の合言葉である「お・か・し・も・ちの約束」を学級で再確認し、いざという時のために行動できるように意識を高めることができました。



水害から自分の身を守るために

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第6学年

染地小学校の近くにある多摩川について、普段の様子と氾濫時の様子を比べながら洪水の危険性について学習しました。過去の台風の動画では大雨で増えた川の水の流れは勢いを増し、住宅地に被害を及ぼすことを知りました。また、「堤防は本当に安全なのか？」では洪水により堤防が壊されることを知り、「どうして丈夫な素材で作れないのだろう」と疑問をもちながら洪水の恐ろしさを学びました。

また、家に一人でいる時に災害が起こったらどうするかについて、早めの避難意識をもつことやお家の人と避難場所を確認するなど、災害時に対応できるよう一人一人考えました。



3-13 北ノ台小学校

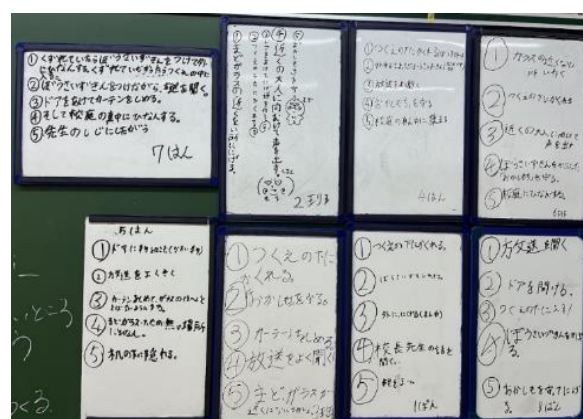
あなたならその時どうする？ 一命を守る つなぐために考えるー

第3学年

地震が発生して避難するとき、どのように行動すればよいか、話し合いました。

「中休み、教室で遊んでいたときに地震が発生し、近くには先生がいない」という場面を想定し、一人一人が避難方法を考えました。頭を守るために机の下に隠れる、避難経路を確保するためにドアにもものを挟む、カーテンをしめるなど10以上の意見を学級全体で共有しました。グループでは優先順位について話し合い、実際の様子をイメージして考えを深めることができました。

どのような行動が自分の命を守ることにつながるのか、また日々の生活も安全につながっていることを確かめ、防災の意識を高める学習になりました。



「リモート防災学習」

講師 調布消防署員

第2～6学年

過去の国内の大震災の写真や資料から、改めてそれぞれの災害の被害の大きさを学びました。建物の倒壊、土砂崩れ、津波、地割れなど、様々な被害があることや、その被害が甚大であることに驚いていました。その場で自分自身の命を守ることの大切に加え、事前にできる対策をしっかり立て、備えておくことの大切さについても、改めて考えるきっかけになりました。

また、「整理整頓をして、物が倒れたり落ちてきたりしないように心掛ける。」、「机などの下にもぐって頭を守る。」など、自分自身でできる具体的な備えや行動も考えることができました。

3-14 多摩川小学校

大切な命を守るために

講師 国士舘大学防災・救急救助研究所 石崎貴氏

第4学年

第4学年では、国士舘大学防災・救急救助研究所の石崎貴先生をお招きして、体育館で授業を受けました。まずは、大きな地震の動画をみて、地震をイメージしながら、「災害」による被害を少なくするためには、「日頃の準備・いざというときに行動できる力・人と人とのつながり」が必要だということを学びました。グループに分かれ、備蓄品を用意しているか、登校中に地震が発生したときどうするか、など、災害や事故などが起こったときに関する質問に対する答えとその理由を、YES/NOカードを使って、グループで話し合いました。参観していた保護者の方も一緒にグループに入っただけの話し合いです。1時間だったので、もっともっと話し合いたかった児童もいましたが、自分の取るべき行動の理由について、いろいろな人の話を聞いて考えを深めることのできた1時間でした。



「子供たちの命を救うために」

講師 鹿島技術研究所サスティナブルソサエティラボ職員

第5学年

鹿島技術研究所は、多摩川小学校のすぐ近くに 있습니다。この地域の様子をふんだんに使った資料を使って、多摩川のことを中心に、水害についてのお話を聞きました。よく知っている風景を見ながら話を聞くので、児童が想像しやすいものでした。もし、多摩川が氾濫したら、この地域は6mまで水が上がってくる、3階にある第5学年の教室のすぐ下まで来るのだ、ということ聞き、起こるかもしれない水害を自分のこととしてとらえることができました。防災クイズは、画面に映し出される問題に、自分たちの端末を使って答えるものでした。回答の結果がリアルタイムで画面に映し出されるので、児童から歓声があがり、とても盛り上がりました。水害が起きた時のことを想定して、家族と話し合い、自分の身を守るもののほかに、他を助ける行動についても考えていかなければならないことを、実感した時間となりました。



3-15 杉森小学校

大震災が起きた時、あなたならどうする？～防災ノートを使って考えよう

第5学年

防災ノートや調布市の防災マップを使用しながら、災害が起きた時にどこに避難すればいいのかについて考えました。教師の「どこに避難するか、お家の人と決めている？」の問いかけに、「そういえば、決めていない。学校かな？」との答え。子どもたちに加え、参観されていた保護者の方々も改めて災害発生時の事について考える機会となりました。

また、日頃の備えの大切さや避難所の様子なども動画などで確認し、いざという時のための意識を高めることができました。



「命の守り方を学ぶ理由」

講師 副校長 石津 孝介

全学年

防災の授業・避難訓練は、子どもたちの命を守るために真剣に取り組むべき学習です。

子どもたちには、防災の授業・避難訓練を行う理由をきちんと理解し、取り組んでほしいと願っています。そこで、第1学年にもわかるように題名を「命の守り方を学ぶ理由」とし、教職員・保護者・地域の方々の願いを伝えました。

講話では、およそ170年前に起きた「安政の南海地震」とそれによる津波を題材とした絵本、副校長が視察した石巻市立大川小学校の写真、当時大川小学校にいた方取材した新聞記事を子どもたちに示しました。副校長からは、「先生たちも家の方々も地域の方々も、あなたとあなたの友達の命を守りたいと思っています。だけど、いつでもそばにいるわけではないから、悲しい思いをしないように命を守る授業に真剣に取り組みましょう。」と伝えました。子どもたちは、防災の授業・避難訓練の大切さをあらためて感じたようでした。

3-16 飛田給小学校

身の回りにある危険を探そう

第3学年

学校で災害が発生した時にどのように行動するとよいか考えるため、まず校舎内を回り、「危険な場所探し」を行いました。「ここは物が落ちてきそう。」「もしこのガラスが割れると危ない。」など、校舎内にも様々な危険が予測されることに気付きました。そして、調べたことを持ち寄り、もし自分がその場所にいるときに災害が発生したらどうしたらよいか話し合いました。「図書室では、本が落ちてこない場所や机の下に避難しよう。」「校庭の真ん中が安全なので、何かあったら集まろう。」など、身を守る具体的な方法について考えを深めることができました。



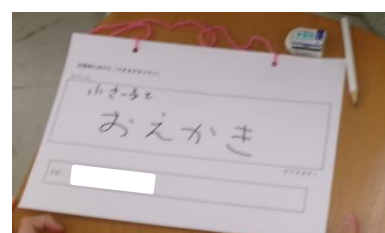
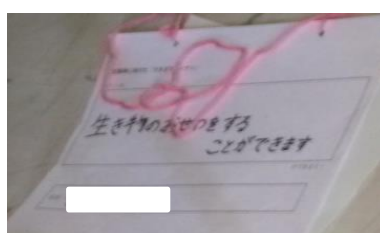
「災害が起きた時、自分たちにできることを考えよう」

講師 地域協力者

第6学年

消防の関係でお仕事をされている地域の方にご協力いただき、実際の災害現場の写真なども見せていただきながら、災害が起きた時に「自分たちにできること」について考える授業を行いました。

避難所では互いに助け合い、支え合いながら命を守ることが必要になってきます。「共助」の考え方です。「医療や介護（高齢者の補助など）」、「言葉（手話など）」、「専門技能（ヘアカットなど）」、「生活支援（トイレ掃除など）」といった観点も例示していただきながら、自分が避難所でできることを記入し、首から下げる「できますゼッケン」を作成しました。難しいことでなくても、自分の得意なことを人のために役立てていくという考え方を養うことができました。授業後の児童からは「今日の授業で、災害への認識が変わった。不安もあるけれど、できる対策がたくさんあることも知ることができた。自分にはできることはないと思っていたけれど、自分にできることを知ることができてよかった。」といった感想が聞かれました。



3-17 柏野小学校

洪水から身を守る方法を考えよう

第4学年

洪水から身を守るための避難行動について学習しました。実際に地域の「洪水ハザードマップ」をタブレットで見て、自分たちの家の周りや学校周辺の安全性を確認しました。

地図を読み解く中で、「ここは浸水する可能性があるんだ。」、「ここに防災無線があることを初めて知った。」といった発見がありました。また、避難所の確認をするだけでなく、災害が起こった時に家族とどのような連絡手段をとるのか、非常持ち出し袋には何を入れておくべきかなど、事前準備の大切さについて話し合いました。

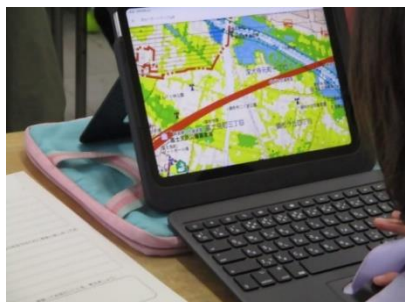


「子供たちの命を救うために」

講師 調布消防署員

全学年

調布消防署による防災啓発講話を低学年・中学年・高学年のそれぞれの実態に応じた内容を選んで視聴しました。ビデオの講話の後に命の授業をすることで、より防災への意識を高めることができました。高学年では、自助・公助・共助を振り返り、災害時に、自助・共助によって多くの命が救われていることを知りました。授業で知ったことを家庭で実践し、その輪が家庭を飛び越え、地域に広がっていくことで“共助”に繋がっていくことにも気付くことができました。また、自分の身を守るために、日常生活の中の危険な場所や行動を把握しておくことが、大きな災害で被害を小さくする方法であることも学んでいました。



3-18 国領小学校

防災講話・防災ワークショップ

第5学年

第4学年以外の学年では、調布消防署員による防災講話の動画を視聴しました。地震や火災などの災害時に自分の命を守るための大切な行動や、日頃から備えておくことの重要性について学びました。また、第5学年では、防災ワークショップを実施しました。災害時の応急手当てについて学び、包帯を使って頭部や腕を負傷した場合の対応について体験しました。友達と協力しながら実際に包帯を巻く活動に取り組み、けがをした人を助けるための知識や技能を身に付ける貴重な機会となりました。



「応急給水体験」

講師 東京水道株式会社

第4学年

第4学年では、東京水道株式会社の職員を講師にお招きし、応急給水体験を行いました。初めに体育館で、地震などの災害による被害や、災害時における飲料水確保の大切さについて、講義やクイズを通して学びました。児童は、普段当たり前に使っている水のありがたさや、備えの重要性について理解を深めていました。その後、屋外では応急給水体験を実施し、給水袋やポリタンクを実際に持ちながら、水の重さや運ぶ大変さを体感しました。体験を通して、災害時に自分たちにできることを考える貴重な学びとなりました。



3-19 布田小学校

安全な避難の仕方を知ろう

第3学年

第3学年では、災害が発生し、避難する時に持参する「避難バック（非常用持ち出し袋）」には、何を入れたらよいか、話し合いました。必要な物の中には、飲料水・食品などの他に、命を守るための物（包帯や頭を守るヘルメット）や、心が落ち着く物が必要であることを学習しました。



避難所の設置について

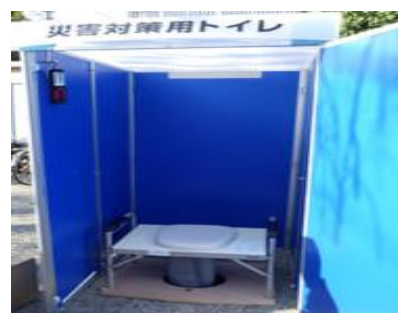
第5学年

第5学年では、布田小学校に設置される避難所の設置方法について学習しました。日頃マンホールのようにになっている場所がトイレになったり、非常食が配布されたりすることを学習しました。

引き渡し訓練の後には、実際に設置された仮設トイレを体験したり、非常食を配布していただいたりして帰りました。

避難所の設置には、調布市の職員の方や地域の方の協力があるって成り立っていると、知ることができました。

「お水入るとご飯になるんだね。」「非常食にイチゴのクッキーがあるんだね。」と、驚きの声が聞こえてきたと同時に、「この場所にトイレが設置されるような災害はあってほしくないね。」という本音の声も聞こえました。



3-20 調和小学校

大地震が発生した時の身の守り方を考えよう ～B-VRを活用して～

第3～6学年

東京都消防庁が作成した防災教育VR「B-VR」を活用して、教室で地震が起きた時に、どのようなことに注意し、行動すればよいかを考え、話し合いました。

今年度は、第3学年は「教室（窓側）」第4学年は「教室（後方）」第5学年は「教室と図書室」第6学年は「自宅」での留守番を想定し「自宅」の映像を見ました。大地震が起きるとどのようなことが起こり得るのか予想するとともに、日頃の避難訓練の経験を基に「避難時に必要な行動」を出し合いました。その後、経験したことのない大きな揺れの様子をB-VRで確認しました。机が激しく揺れ倒れたり、蛍光灯が落ちてきたり、自宅では冷蔵庫が倒れたり、停電になったりするなど、その様子に児童は驚き、危機意識を高めていました。

また、映像を視聴後にもう一度避難時の行動を振り返ったことで「頭上などにも気を付けないといけないと思った。」、「日頃から物を固定しておくなど、できることをしておく必要がある。」第6学年は、学校での避難行動で学んだこと以外にも「スリッパを履いていた方が安全かもしれない。」、「逃げ道は確保しないとイケない。」などの、家だからこそその避難行動を考え、防災への意識や避難時の行動を一層深めることができました。



防災啓発講話

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所

全学年

京浜河川事務所による「多摩川が起こす水害と、命を守る行動」の動画を視聴し、多摩川で過去に発生した水害の実態や洪水の特徴について理解し、その危険性を改めて認識することができました。

動画では大雨時に求められる適切な行動についても解説されており、在宅時の対応や日頃からの備えについて学ぶことができました。視聴後には、「調布市洪水ハザードマップ」や気象庁が発行している「大雨の災害から身を守るガイドブック」を活用し、水害への備えについてさらに理解を深めました。

本校は野川に隣接しており、大雨時の増水が懸念されるほか、浸水想定区域に居住する児童もいます。今回の講話は、児童一人一人の防災意識を高めるとともに、災害時にどのように行動すべきかを学ぶ有意義な機会となりました。



3-21 調布中学校

命の尊さ、大切さを考える授業(道徳)

全学年

第1学年と8組（特別支援学級）は「ひまわり」、第2学年は「命が生まれるその時に」、第3学年は「きみは赤ちゃん」という題材を使用し、学年ごとに命の尊さについて考え、それぞれの命についての考えを深めました。各学級においては、小集団の意見交換をはじめ他者の考えに触れながら、命の尊さについて発表を行いました。



防火防災に関する講話・訓練

全学年

全学年を対象に、東京消防庁のB-V R（ビーバー）を使用した防災教育を実施しました。教室内での地震発生を想定し、教室内の危険個所を予測して意見を出し合い、震災時に命を守るためにどのような行動をとるべきか考えました。その後、V R映像見て大地震を疑似体験し、大地震時の被害の状況や予測した危険個所が実際にどうなるのか理解を深めました。これらの活動を通して自らの命を守るために取るべき行動として大切なことや、その準備について学びました。



その時、いのちを守るために



3-22 神代中学校

命の尊さ、大切さを考える授業(道徳)

全学年

命の尊さ、大切さを考える道徳科の授業を、各学年で教材を工夫しながら展開しました。第3学年は、教材「『きみは赤ちゃん』より」を用い、命がもつ偶然性や有限性、そして連続性について考えました。第2学年は、「命が生まれるそのときに」を教材とし、詩「いのちの音」や、出産の瞬間を撮影するフォトグラファー繁延氏の文章・写真を通して、「生きている」ということの意味を考えました。第1学年は、東日本大震災で家族を失った佐々木清和さんの心情を追いながら授業を行いました。生徒からは、自分の日常を振り返りながら命の尊さについて考える発言が多く聞かれました。特別支援学級では、自作スライドや防災教育補助教材「3.11を忘れない」、東日本大震災当時の実物映像を用いた授業を行いました。映像や資料を通して理解を深め、生徒一人一人が真剣に命について向き合う様子が見られました。



地震発生時の対応・防災行動力に関する講話

講師 調布消防署員

全学年

調布消防署による動画を視聴し、過去に起きた地震の概要や被害規模、そして地震発生時の対応の方法や、日頃から心掛けておくべき防災行動力に関して学びました。地震が発生した際に、自分や周囲の人の命を守ることにつながる「自助や共助」の行動について、映像や具体的な事例を通して理解を深めることができました。また、日常生活の中で防災意識を高めておくことの重要性についても改めて考える機会となりました。命を守るための意識を高める有意義な学習の場となりました。



3-23 第三中学校

命の尊さ、大切さを考える(道徳)

第1学年

この作品は東日本大震災で家族を失った佐々木清和氏が「はるかのひまわり」を育てる中で家族を失った悲しみから立ち上がり、やがて震災の語り部として活動を始める姿を紹介した作品を題材として授業を行いました。

各クラス班活動で話し合い活動等をしながら、命の大切さについて考えを深めた。命は一人ひとりの大切なもの、災害で亡くなった方のためにも命を大切にしていきたいと思った。などの感想もあり、改めて命の大切さについてしっかりと考えることができました。

防火・防災に関する講話

講師 宮城県女川町地域おこし協力隊の防災士 武井 友佑氏

全学年

今年度は宮城県女川町地域おこし協力隊で防災士の武井友佑氏をお招きして『語り部さんや現地の話から考える次の防災。災間の今できることは？』というテーマで講演をしました。

武井氏は調布市出身であり、東日本大震災については小学校のころ調布で経験しました。現在は自ら被災地に住み、防災士として働いており、被災地の復興支援や防災に関する研究を行っている方で、自らの研究で得たことをお話いただきました。

地震の時の避難のしかた、東日本大震災の話など画像等の資料などを提示して丁寧に説明をしていただきました。

また調布市で起きるであろう災害についても具体的な話があり、避難の仕方など避難所での生活の仕方など具体的にわかりやすく説明をしていただきました。

最後に生徒からのたくさんの質問などもあり、生徒たちも災害について関心をもったようでした。充実したとてもよい講演会になりました。



3-24 第四中学校

命の尊さ、大切さを考える授業(道徳)

全学年

命の尊さについて改めて考え、深めることをねらいとして、震災を題材にした教材を用いて対話的な学習による道徳の授業を行いました。

第1学年：「ひまわり」

第2学年：「命が生まれるそのときに」

第3学年：「あの日 生まれた命」

発問を精選し、極力生徒の対話的な学習を重視して計画しました。また、映像資料や一人1台モバイル端末を活用しながら、教師からの発問を基に、生徒たちからの生きることの大切さや命の重さの意見についてグループ協議をし、自分の考えを深めました。

生徒の感想には、「伝えられるときに感謝を伝える。」、「自分の命もそうだけど、改めて他者命も大切にしなければならない」など、学年ごとに題材は異なるものの、自分事として捉え、それぞれ命の尊さについて考えを深めることができた時間となりました。



防火・防災に関する講話「地震に備える」

講師 調布消防署 つつじヶ丘出張所長

全学年

調布消防署の職員を招き、全学年、そして地域の方々も含めて防火防災に関する講話を実施しました。30年以内に約70%の確率で起きるといふ首都直下地震という具体的な数字をもとに、メカニズムや対応策など、身近な問題として考えることができました。引渡訓練後、全学年対象(任意)で避難所体験を実施し、有事の際の対応を体験しました。



3-25 第五中学校

命の尊さ、大切さを考える授業(道徳)

全学年

第1学年は、「ひまわり」の資料を題材に、実際に震災の映像を見るなどして、突然奪われてしまう命について考え、震災の恐ろしさとともに命の尊さについて深く考えることができました。

第2学年は、「最後だとわかっていたら」の資料を題材に、今日があることが当たり前でなく、1日1日を大切に生きること、生きていることの尊さについて深く考えることができました。

第3学年は、「天を恨まず」の資料を題材に、被災した中学3学年の別れの言葉を実際に動画で見ることで、気持ちを想像し考えることができました。日常の大切さと、命の尊さについて、改めて考え、当たり前にある周りの環境に感謝する気持ちをもつことができました。



防火防災に関する講話

講師 調布消防署員

全学年

調布消防署員による「日本は地震が多い国 過去の地震の被害を知る」の動画を視聴し、過去に起こった地震の被害について知り、改めて地震の恐ろしさを痛感しました。また、実際に被災した時の避難の具体的な方法について、どのような行動をとることが正しいのか、クイズ形式で楽しく学ぶ様子が見られました。



3-26 第六中学校

生命の尊さ(道徳科) 「風の電話」

全学年

NHKスペシャルで放送された「風の電話」を教材として全学年一斉に授業を実施しました。命のつながりや尊さ、自他の命の大切さについて、深く考えることができました。時には涙を浮かべながら真剣に考え、自分の気持ちを言葉で伝えあう姿が印象的でした。授業のまとめでは「最後だとわかっていたなら」の詩を読み、大切な人とどのような時間を過ごしたいか、大切な人に何を伝えたいかを考えたり、自分の気持ちを言葉にして伝えることの大切さを考えたりすることができました。

～生徒 授業の振り返りより～

- 自分の大切な人がすぐそばにいて、生活を共にすることは当たり前ではなく、とても尊い時間だと感じた。
- 風の電話を見て、本当に伝えたいことや辛い気持ちを伝える黒電話は、線がつながっていても心はつながっていると思いました。
- 今日の授業で、周囲の人たちをもっと大切にしていくなさと感じた。みんないつもありがとう。



①災害時における水の運搬体験 ②「B-VR」を用いた危険予測

①講師 東京水道株式会社

第3学年

第3学年は東京水道株式会社の方を招き、「地震等の災害被害について」、「災害時の飲料水の確保について」の講話を聞き国領地区が災害時に飲料水を確保する場所を確認しました。その後、給水袋の組み立てと給水、運搬する水の重さを体験しました。

第1・2学年は防災教育VR「B-VR（ビーバー）」を活用し、教室、図書室、昇降口で地震が発生したときの危険を予測したり考えたりする授業を実施しました。



3-27 第七中学校

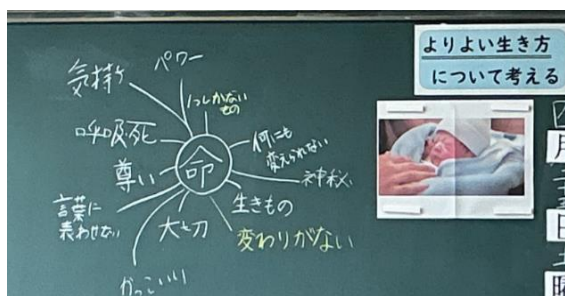
「命が生まれるそのときに」

第2学年

道徳「命が生まれるそのときに」の教材を通して、生命の誕生が多くの願いや支えの中にあることに気付かせ、自他の生命をかけがえのないものとして大切にしようとする心情を育てることをねらいとして実施しました。

生命誕生の奇跡や家族の思いなど、参観中の保護者の方にもご協力いただきながら、みんなで命について考える時間となりました。

「自分が生まれてきたことには意味があると感じた」、「友達の命も大切にしなければならなかった」といった振り返りが見られ、生徒が命について自分事として考える機会となりました。



地震災害を考える

全学年

導入では、3本のふりこを用いた共振現象の実験を行い、揺れの周期によって大きく揺れる条件があることを確認しました。生徒は、特定のふりこが大きく揺れる様子に関心を示し、地震による被害とのつながりについて意欲的に考える姿が見られました。

また、地震災害に関する動画を視聴し、実際の揺れや被害の様子から課題意識をもてるようにしました。生徒からは、災害の恐ろしさとともに、防災の必要性について考える発言が多く出されました。

「登下校のときに地震が起きたらどうしたらよいのだろう」といった振り返りが見られ、自分の生活と関連付けながら、災害時の行動や日頃の備えについて考える機会となりました。



3-28 第八中学校

命の尊さ、大切さを考える授業

全学年

第1学年 被災地の写真スタジオで働いていた人の経験を描いた漫画が教えてくれること

第2学年 命が生まれるそのときに

第3学年 「リクエスト食」に込められた思い

生きていることの尊さとは何か、かけがえのない生命を大切にすることとはどういうことか。

生命の有限性や偶然性、連続性を多面的・多角的に捉えながら、自分の考えを自分の言葉でまとめました。友達の意見を聞くことで価値観を広げることに繋がり、「命」について深く考察することができました。



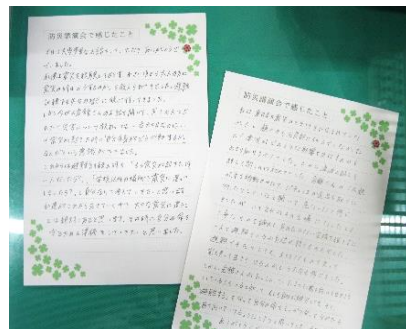
防災に関する講話・訓練

講師 調布市教育委員会職員 岩館 聖恵氏

全学年

「物より 思い出より 命を守る」

15年前に起きた東日本大震災。講師の岩館さんの故郷である岩手県釜石市は甚大な津波の被害に見舞われました。自宅で被災した両親の行動と証言、当時の映像、そして震災から8日後に撮影されたご自宅の写真などをもとに命の尊さと備えの重要性についてご講演いただきました。生徒からは「自分の命をしっかり守ることができれば、またそこから前を向いて頑張れる」、「普段の避難訓練を大切にして体にしみこませたい」などの感想が多く寄せられました。一番大切なことは「自分自身がどう行動すべきか」を自分の問題として考え、今、準備することです。



[資料]

令和8年度 各学校実施内容(1～3校時)



SVR防災体験車による震災疑似体験（深大寺小学校）

令和8年度 各学校実施内容(1～3校時)

各学校の実施内容を一覧でまとめています。

学校名	1 校時目	2 校時目	3 校時目
第一小学校	通常授業 ひまわり学級 @各教室 防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 1～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 ひまわり学級 @各教室 「命」の授業 （防災教育VR「B－VR （ビーバー）」（東京消防 庁）） 1～6年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長又は副校長 保護者による引取訓練
第二小学校	通常授業 1～2年 @各教室 防災啓発講話 講師：調布消防署員 3年 @各教室（動画視聴） 防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 4年 @各教室（動画視聴） 「命」の授業 テーマ：救急対応について 講師：防火女性の会・おや じの会 5～6年 @体育館	「命」の授業 1～4年 @各教室 防災啓発講話 講師：調布消防署員 5～6年 @各教室（動画視聴）	
第三小学校	通常授業 1～2年 @各教室 防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 3～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 （非常食調理・喫食体験） 1～6年 @各教室	

学校名	1 校時目	2 校時目	3 校時目
八雲台小学校	防災啓発授業 1～3年 @各教室 防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 4～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 （道德・防災教育VR「B－VR（ビーバー）」（東京消防庁）・NHK for school 等） 1～6年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長又は副校長 保護者による引取訓練
富士見台小学校	通常授業 1～2年 かしわ学級（1～3年） @各教室 避難所運営について 3年 @防災倉庫の前 防災啓発講話 テーマ：自分の命を守るためにできること 講師：調布警察署員 4～6年 かしわ学級（4～6年） @体育館	「命」の授業 1、5～6年 かしわ学級 @各教室 「命」の授業 （防災教育VR「B－VR（ビーバー）」（東京消防庁）） 2年 @各教室 通常授業 3年 @各教室 「命」の授業 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 4年 @各教室（動画視聴）	
滝坂小学校	通常授業 1年 わかくさ学級 @各教室 「命」の授業 2～3、5～6年 @各教室 「命」の授業 （防災教育VR「B－VR（ビーバー）」（東京消防庁）） 4年 @各教室	「防災啓発授業」 1、3、6年 わかくさ学級 @各教室 防災啓発講話 講師：調布消防署員 2、4年 わかくさ学級 @各教室（動画視聴） 起震車体験 講師：調布消防署員 5年 わかくさ学級 @校庭	

学 校 名	1 校 時 目	2 校 時 目	3 校 時 目
深 大 寺 小 学 校	防災啓発講話 講師：調布消防署員 1～3、5～6年 @各教室（動画視聴） 「防災に関する授業」 （消火器訓練） 講師：地域学校協働本部 4年 @校庭	「命」の授業 （非常食調理・喫食体験） 1～6年 @各教室 VR防災体験車による震災 疑似体験 講師：調布消防署員 6年 @校庭	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長又は副校長 保護者による引取訓練
上 ノ 原 小 学 校	通常授業 1～2年 @各教室 防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 3～5年 @各教室（動画視聴） 「命」の授業 6年 @各教室	「命」の授業 1～2、5年 @各教室 「命」の授業 （防災教育VR「B－VR （ビーバー）」（東京消防 庁）） 3～4年 @各教室 まちかど防災訓練車による 消火訓練 講師：調布消防署員 6年 @校庭	
石 原 小 学 校	防災啓発講話 講師：調布消防署員 1～5年 @各教室（動画視聴） 担架作成・搬送訓練、結束 訓練、通報訓練 講師：調布消防署員 6年 @体育館	「命」の授業 1～6年 @各教室	

学校名	1校時目	2校時目	3校時目
若葉小学校	「命」の授業 1、3、5年 @各教室 防災啓発講話 (防災教育VR「B-V R (ビーバー)」(東京消防庁)) 2、4、6年 @各教室	防災啓発講話 (防災教育VR「B-V R (ビーバー)」(東京消防庁)) 1、3、5年 @各教室 「命」の授業 2、4、6年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長又は副校長 保護者による引取訓練
緑ヶ丘小学校	防災啓発講話 講師：調布消防署員 1～6年 @各教室 (動画視聴)	「命」の授業 1～6年 @各教室	
染地小学校	通常授業 1～2年 たけのこ学級 @各教室 防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 3～6年 @各教室 (動画視聴)	「命」の授業 1～6年 たけのこ学級 @各教室	
北ノ台小学校	「命」の授業 1～2年 たんぼぼ学級 @各教室 「命」の授業 (防災教育VR「B-V R (ビーバー)」(東京消防庁)) 3～6年 @各教室	「命」の授業 1年 たんぼぼ学級 @各教室 防災啓発講話 講師：調布消防署員 2～6年 @各教室 (動画視聴)	

学校名	1 校 時 目	2 校 時 目	3 校 時 目
多摩川小学校	防災啓発講話 （防災教育VR「BーVR（ビーバー）」（東京消防庁）） 1～2年 たまがわ若木学級 @各教室 講師：調布消防署員 3年 @各教室（動画視聴） テーマ：防災・自分ができること 講師：石崎 貴 氏 （国土館大学准教授） 4年 @体育館 水害に関する授業 講師：鹿島建設株式会社技術研究所職員 5年 @各教室 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～2年 @各教室 「命」の授業 （非常食調理・喫食体験） 3～6年 たまがわ若木学級 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長又は副校長 保護者による引取訓練
杉森小学校	防災啓発講話 講師：石津 孝介 氏 （杉森小学校副校長） 1～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～6年 @各教室	
飛田給小学校	防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 1、3、5年 @各教室（動画視聴） 「防災に関する授業」 （防災グッズ作り） 2年 @各教室 「防災に関する授業」 （非常食調理・喫食体験） 4年 @家庭科室 「命」の授業 6年 @各教室	「命」の授業 1～5年 @各教室 「防災に関する授業」 テーマ：災害が起きたとき、自分たちにできること 講師：山口 隼 氏 （地域協力者） 6年 @多目的室	

学校名	1 校 時 目	2 校 時 目	3 校 時 目
柏野小学校	防災啓発講話 講師：調布消防署員 1～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～6年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長又は副校長 保護者による引取訓練
国領小学校	防災啓発講話 講師：調布消防署員 1～3、5～6年 @各教室（動画視聴） 応急給水体験プログラム 講師：東京水道株式会社 4年 @体育館、校舎裏屋外	「命」の授業 1～6年 @各教室	
布田小学校	通常授業 1～2年 @各教室 防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 3、5年 @各教室（動画視聴） 防災啓発講話 （防災教育VR「B－VR （ビーバー）」（東京消防 庁）） 4、6年 @各教室	「命」の授業 1～6年 @各教室	
調和小学校	防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 1～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～2年 @各教室 「命」の授業 （防災教育VR「B－VR （ビーバー）」（東京消防 庁）） 3～6年 @各教室	

学校名	1 校 時 目	2 校 時 目	3 校 時 目
調布中学校	「命」の授業 (防災教育VR「B-V R (ビーバー)」(東京消防 庁)) 1～3年 @各教室	「道德の授業」 1～3年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長又は副校長 保護者による引取訓練
神代中学校	防災啓発講話 講師：調布消防署員 1～3年 @各教室(動画視聴)	「命」の授業 1～3年 @各教室	
第三中学校	防災啓発講話 テーマ：災害について 講師：武井 友佑 氏 (女川町地域おこし協力 隊) 1～3年 @第1体育館	「命」の授業 1～3年 @各教室	
第四中学校	防災啓発講話 テーマ：地震に備える 講師：調布消防署員 1～3年 @体育館	「命」の授業 1～3年 @各教室	
第五中学校	防災啓発講話 講師：調布消防署員 1～3年 @各教室(動画視聴)	「命」の授業 1～3年 @各教室	

学校名	1校時目	2校時目	3校時目
第六中学校	防災啓発講話 講師：調布消防署員 1～2年 @各教室（動画視聴） 応急給水体験プログラム 講師：東京水道株式会社 3年 @体育館、校庭	「命」の授業 1～3年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長又は副校長 保護者による引取訓練
第七中学校	「命」の授業 1～3年 @各教室	防災啓発講話 （防災教育VR「B－VR （ビーバー）」（東京消防 庁）） 1～3年 @各教室	
第八中学校	防災啓発講話 テーマ：東日本大震災を振り返って 講師：岩館 聖恵 氏 （調布市教育委員会会計年度任用職員） 1～3年 @体育館	「命」の授業 1～3年 @各教室	

刊行物番号
2026-090

**令和8年度
調布市防災教育の日 実施結果報告書**

発行日 令和8年8月
発行 調布市教育委員会
編集 調布市教育委員会教育部教育総務課
〒182-0026 調布市小島町2-36-1
電話 042-481-7465
印刷 庁内印刷